上田市文化財調査報告書第75集

浦田B遺跡

県営ほ場整備事業下之条地区施工に伴う
発掘調査報告書

1999

上小地方事務所
上田市教育委員会

上田市文化財調査報告書第７５集

浦田Ｂ遺跡

県営ほ場整備事業下之条地区施工に伴う
発掘調査報告書

1999

上小地方事務所
上田市教育委員会

序

上田は、長野県の東に位置し、古くから東信濃の中心地として栄えてきました。古代においては、信濃国分寺が創建されており、さらに信濃国府も置かれていたと考えられています。中世においては、後に信州の学海と呼ばれるほどの学問の中心地となり、鎌倉時代には信濃国の守護所が置かれていたと考えられています。近世においても、上田城を中心とした城下町が繁栄していました。上田は、この様に古代から現代に至るまで、地域の政治・経済・文化を担ってきました。その軌跡を知る手がかりは、有形文化財・無形文化財及び埋蔵文化財によるところが大きいと思われます。

このたび、県営ほ場整備事業下之条地区の施行箇所に埋蔵文化財が存在することが判明した為、工事施工に先立ち緊急発掘調査を行いました。調査の結果、弥生時代や古墳時代・奈良・平安時代の集落・中世の館が確認され、当時の生活景観が僅かながらも知ることができました。近年、様々な開発に伴って発掘調査が行われていますが、そのほとんどが破壊を前提とした「記録保存」のための発掘調査であり、残念ながら調査後姿を消してしまうのが現実です。それ故、現在及び未来へ向けてできる限りの記録を残しておくことが、私どもの責務であると確信しております。

最後になりましたが、発掘調査から整理作業・報告書刊行に至るまで深い御理解と御協力をいただきました上小地方事務所、関係諸機関、連日熱心に調査に参加してくださった方々、関係研究者の皆様に対して心から敬意と感謝を表する次第であります。

平成１１年３月

上田市教育委員会
教育長　我妻忠夫

例　言

1　本書は、長野県上田市大字築地字浦田における浦田遺跡の発掘調査報告書である。

2　調査は、県営は場整備事業下之条地区の実施に先立ち、上小地方事務所の委託を受けて実施した。

3　調査は、上田市（上田市教育委員会文化課）が直営で実施した。

4　調査は、発掘調査から遺物整理・報告書刊行まで含めて１９９６（平成８年）４月１５日から１９９９年（平成１１年）３月２５日まで実施した。

5　遺構の実測は尾見智志・小笠原正・井沢光子・大井敬子・荻野れい子・春日かずい・中村久子・宮尾美代子・保屋野道子・山浦幸子・山本万里が行い、一部を朝日航洋㈱に委託した。トレースは保屋野道子・松本裕子・中沢由美子・山浦幸子が行った。

6　遺物整理・復元作業は金沢修次郎・川上けい子・甲田五夫・小松みつ子・鈴木義房・高木めぐ美・高桑豊治・滝沢七郎・中島昭吾・西沢勝・保野野友延・保野野道子・松野ひろみ・山浦幸子・横井順子・相馬敬子が行った。

7　遺物の実測は尾見智志・上原祐子・田畑しず子・田村雄二・中沢由美子・松本裕子・横井順子が行った。トレースは保屋野道子・松本裕子・山浦幸子が行った。また、石器の一部は㈱写真測図研究所が行った。

8　本文の執筆は尾見智志が行った。遺構・遺物の観察も尾見・松野ひろみが行った。

9　版組みは尾見智志・松野ひろみ・川上けい子・保屋野道子・小松みつ子・中沢由美子・松本裕子・山浦幸子が行った。

１０　遺構・遺物の写真撮影は尾見智志・松本裕子・松野ひろみが行った。

１１　調査に係る基準点測量はみすず測量設計株式会社に委託した。

１２　調査に係る資料は上田市立信濃国分寺資料館に保管してある。

１３　本書の編集刊行は事務局（上田市教育委員会文化課）が行った。

１４　本書が刊行されるまでには、多くの方々や諸機関のご理解・ご協力を賜った。以下、ご芳名を記して深く感謝の意を表したい。（順不同・敬称略）

長野県教育委員会文化財保護課・上小地方事務所土地改良第一課・青木一男・市川隆之・河西克造・児玉卓文・塩入秀敏・桜井松夫・和根崎剛

１５　本調査に係る事務局の体制は次のとおりである。

教育長	内藤　尚（平成９年３月３１日退任）
	我妻忠夫（平成９年４月１日着任）
教育次長	荒井鉄雄（平成９年３月３１日退任）
	宮下明彦（平成９年４月１日着任）
文化課長	松沢征太郎（平成９年３月３１日退任）
	川上　元　（平成９年４月１日着任）
文化財係長	岡田洋一（平成１０年５月１日退任）
	細川　修（平成１０年５月１日着任）
文化財係	中沢徳士・尾見智志（担当）・塩崎幸夫・久保田敦子・久保田浩・西沢和浩・山岸敦子・清水彰・小笠原正（担当）・望月貴弘（嘱託）・古野明子（嘱託）・松野ひろみ（嘱託）・須齋千恵子（嘱託）

16　発掘調査・整理作業に参加・協力していただいた方々（順不同・敬称略）

井沢光子・上原祐子・浦原未恵・荻野れい子・小沢幸子・大井敬子・春日かずい・金澤修治郎・川上けい子・甲田五夫・小松みつ子・小山倍子・小山幹雄・酒井禮子・佐野和男・清水美智子・菅原多麻・鈴木義房・相馬敬子・高木めぐ美・高桑豊治・滝澤章子・滝沢七郎・田畑しず子・田村雄二・塚原和子・土屋友春・中沢由美子・中島昭吾・中村久子・成沢伯・西沢勝・西沢貞雄・保屋野友延・保屋野道子・松本裕子・宮尾美代子・柳沢栄治・山浦幸子・山崎透・山本万里・吉敷美根子・吉敷良一・横井順子・上田地域シルバー人材センター（伊比文作・掛川波平・春原親樹・田村開作・細田万喜治・宮下高・和田佳秋）

＜ 目 次 ＞

第一章　調査の経過
　第一節　調査に至る経過 …… 1
　第二節　発掘調査の経過 …… 1
　第三節　調査日誌（抄） …… 2
　第四節　報告書抄録 …… 3

第二章　遺跡の環境
　第一節　地理的環境 …… 4
　第二節　歴史的環境 …… 4

第三章　遺跡の調査
　第一節　遺跡の概要 …… 8
　第二節　遺　構 …… 12
　遺構観察表 …… 76
　第三節　遺　物 …… 80
　遺物観察表 …… 124
　第四節　まとめ …… 150
　第五節　付　論 …… 154
写　真 …… 169

＜ 凡 例 ＞

[遺構]

1　各遺構の略称は次のとおりである。

SA…柵列　SB…竪穴住居・竪穴状遺構　ST…掘立柱建物　SD…溝状遺構　SK…土坑

2　遺構実測図は原則として原図1／20、縮尺1／3である。

3　遺構が時代の新しい遺構、あるいは攪乱等によって破壊を受けプランが明確でない場合は古い遺構を

破線で示した。
4　遺構の主軸方向は、国家座標の北とのなす角度で示した。
5　焼土は網点のスクリーンで示した。
6　炭化物の範囲は斜線のスクリーンで示した。
7　遺構写真図版の縮小は任意である。

[遺物]
1　土器は縮尺１／３を原則とした。拓本は１／２を原則とした。石器等は１／３を原則とした。例外はスケールで示した。
2　土器の実測方法は４分割法を用い、右側１／２に断面及び内面を左側１／２に外面を記録した。
3　赤色処理のある遺物はスクリーントーン▒で示した。
4　黒色処理のある遺物はスクリーントーン▒で示した。
5　遺物番号は実測図番号及び写真番号と一致している。
6　遺物写真図版の縮小は任意である。

[観察表]
1　遺構観察表の出土遺物番号は図版の遺物番号及び遺物観察表の番号と対応する。

No	時　期	平面形	主軸方向	炉又はカマド	柱穴	その他の屋内施設	出土遺物

2　遺構観察表の主軸方向は原則として北を基準としている。
3　土坑の観察表は図示されている遺物が出土しているもののみを表示した。
4　遺物観察表の遺物番号は図版の遺物番号と遺構観察表の出土遺物番号と対応する。

No	出土遺構	A器種　B器形　C文様　D製作技法の特徴	a色調　b胎土　c焼成	残率

5　土層及び出土土器の色調は、農林省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修「新版標準土色帖」１９９７年度版を使用した。
6　石材については尾見智志が鑑定した。
7　陶磁器については、市川隆之氏に鑑定をお願いした。

第一章　調査の経過

第一節　調査に至る経過

上小地方事務所が実施する県営ほ場整備事業下之条地区の施工箇所に周知の遺跡が存在することが予想された。その為、平成７年１１月に試掘調査を実施した。幾つかのトレンチからは遺構が確認された為、直ちに保護協議を実施して平成８年度に発掘調査を実施する事とした。

（１）平成８年度の経過

本年度に係る発掘調査は総事業費２１，０４０，０００円にて行われた。発掘調査は平成８年４月１８日から平成８年９月３０日まで行った。整理作業は平成８年９月３０日から平成９年３月２５日まで行った。

（２）平成９年度の経過

本年度に係る整理作業は総事業費１５，０００，０００円にて行われた。作業は、平成９年１１月１日から平成１０年３月２５日まで行われた。

（３）平成１０年度の経過

本年度に係る整理作業・報告書作成作業は総事業費６，４００，０００円にて行われた。作業は、平成１０年４月１５日より行われた。平成１１年３月２５日には本書を刊行して調査を終了した。

第二節　発掘調査の経過

浦田遺跡は、大字築地字浦田に所在している。発掘調査に先立つ広範囲な試掘調査により、浦田地籍には幾つかの遺跡が存在することが分かってきた。その成果の１例として、国道１４３号線バイパス建設に伴う調査地区とほ場整備事業に伴う調査地区の遺跡とは連続してはいないことがわかった。その為、最初に調査を行った国道１４３号線バイパス施工地区を浦田Ａ遺跡とし、ほ場整備事業による調査地区を浦田Ｂ遺跡と呼ぶこととした。

発掘調査は、平成８年４月２１日より始まった。調査地区は施工計画の都合で二ヶ所に別れる事となった。調査地区は南北に別れている為、南地区と北地区と便宜上呼ぶことにした。調査地区では試掘結果に基づいて、検出面までを重機により土砂を取り除いた。北地区では、発掘調査を予定していた場所の一部が破壊されていることが判明した為、その場所は廃土置き場とした。南地区は、当初遺構を確認することができず、遺跡の範囲からははずれているのではないかと思われたが、表土剥ぎが進むにつれて竪穴住居や中世の館を確認することができた。

調査は、当初は順調に進んでいたが７月以降から雷雨に悩まされた。調査地区の地形上の制約の為、排水路を設定することができず、毎週のように遺跡が水没した。完全に排水できるまでに２～３日かかる程だった。この様な状態が約１ヶ月続いた。その為、大幅に調査予定が狂ってしまったが、９月２７日には

遺構の測量も終了し、撤収する事ができた。

また、８月１日には上田市立国分寺資料館主催による夏休み小中学生考古学教室の発掘調査体験学習を受け入れた。暑い中を約２０名の子供達が熱心に実習を行った。

第三節　調査日誌（抄）

（１）平成８年度

１９９６年（平成８年）
　４月２１日　調査着手。表土剥ぎ。
　４月２２日　遺構検出作業開始。
　４月２６日　遺構掘り下げ開始。
　５月３１日　国家座標設定。
　６月　５日　遺構実測開始。
　７月３１日　航空測量（雷雨により中断）。
　８月１２日　航空測量。
　９月２７日　撤収。
１９９７年（平成９年）
　１月２４日　整理作業開始
　３月２１日　平成８年度の作業を終了。

（２）平成９年度

１９９７年（平成９年）
　１１月　１日　整理作業準備開始。
１９９８年（平成１０年）
　１月　５日　国分寺資料館にて整理作業開始。
　３月２０日　平成９年度の整理作業を終了。

（３）平成１０年度

１９９８年（平成１０年）
　４月１５日　国分寺資料館にて整理作業開始。
１９９９年（平成１１年）
　３月２５日　平成１０年度の整理作業を終了。報告書刊行。

第四節　報告書抄録

ふりがな	うらたびいいせき
書名	浦田B遺跡
シリーズ名	上田市文化財調査報告書
シリーズ番号	第７５集
編著者名	尾見智志
編集機関	上田市教育委員会
所在地	〒386-0025　長野県上田市天神二丁目４番７４号　TEL 0268(23)5102
発行年月日	１９９９年３月２５日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯　東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
浦田B遺跡（うらたびい）	上田市（うえだし）大字築地（おおあざついじ）字浦田（あざうらた）	20203	108	36°23′41″ 138°12′35″	１９９６年 ４月２１日～ ９月２７日	６，４００㎡	ほ場整備事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
浦田B遺跡（うらたびい）	集落・館跡	弥生時代後期 古墳時代前期 奈良・平安時代前期 鎌倉時代	竪穴住居３６軒 掘立柱建物３５棟 溝・井戸・土坑他	弥生土器・土師器・須恵器・陶磁器・石器・鉄器他	弥生時代後期から古墳時代前期の集落。 鎌倉時代の館跡。 弥生時代後期の鉄製鑿の出土。

第二章　遺跡の環境

第一節　地理的環境

上田盆地は、千曲川中流域で河川の勾配もきつい地域に属する。上田市のほぼ中央を流れる千曲川を境として東方部を総称して川東地方とし西方部を川西地方と呼ぶ。

川西地方は、浦野川流域と産川流域の造る盆地性平野である。川西盆地は川西丘陵及び福田段丘台地によって塩田平と浦野平野とにわかれている。この浦野平野は北を子檀嶺岳（こまゆみだけ）・飯綱山や城山の連なる川西山地に、南を夫婦岳から東に次第に低くなる川西丘陵によって囲まれている。また、小牧から岩鼻にかけて千曲川の沖積氾濫原が続き、その南方の小牧から上田原にかけては、千曲川の第二段丘面が続いており、この段丘面の西端である上田原台地は、塩田平から流れてくる産川と７～１０ｍの段丘崖によって接している。また、この上田原台地の北端は対岸の山口との間に、約１㎞の狭隘部（きょうあいぶ）をつくり、そこで塩田方面から流れてくる産川と青木方面から流れてくる浦野川が合流して、千曲川に注いでいる。浦野平野は河岸に微高地の自然堤防も認められ、後背湿地上には扇状地の形成もあり、この沖積扇状地は早い時期に成立したと思われる。よって、歴史時代に入ってからは千曲川の氾濫の害を受けなかったところであると考えられる。

また、上田盆地は、中小河川の流水量は少なく、溜池が表象するように、寒暖の差が激しい内陸性の気候を呈する。雨量も乏しく、年間降水量は１，０００㎜以下の寡雨地帯である。

浦田遺跡のある築地地区はその産川と浦野川が合流する地点にあり、沖積扇状地上に微高地や後背湿地が認められる。また、両河川の砂礫質壌土が堆積しており、その下に湖成層（塩田層）・青木層・別所層が堆積しているものと思われる。湖成層は上田盆地が第四紀に湖沼であった当時の堆積物からなる。青木層は砂岩・礫岩層とそれに貫入したふん岩からなる。別所層はほとんど黒色頁岩からなり固結度も高く、その中に径１０㎝内外の石灰岩質の結核を含んでいる。また、城山に露呈している別所層には石英や黒くて薄くはげる黒雲母が入っている白っぽい流紋岩が入り込んでいる。別所温泉は、この別所層に貫入したふん岩の岩漿（がんしょう）が熱源である。

浦田遺跡では土の堆積があまり認められず、基本土層は耕作土である表土の直下に河川等の影響による砂礫質壌土が堆積しており、その土層のなかに黒褐色の落ち込みとして遺構が存在していた。その為、表土を含め包含層はほとんど形成されていなかった。

＜参考文献＞
上田小県誌刊行会「上田小県誌（第四巻自然編）」１９６３
上田市立博物館「郷土の地誌　上田盆地」１９７９
信州理科教育研究会「大地は語る」１９９４

第二節　歴史的環境

浦野川水系にも多くの遺跡が存在している。旧石器時代の遺跡は確認されていないが縄文時代から弥生時代・古墳時代・奈良平安時代、それ以降の時代の遺跡も含めて２２５遺跡ほどある。

縄文時代の早期では塚原遺跡（以下、上田原遺跡とする）から早期末の条痕文系土器・絡状体圧痕文系土器や鵜ケ島台式土器が出土している。前期では上田原遺跡から花積下層式土器をはじめとする繊維土器や諸磯式土器が出土している。また、南大原式・下島式土器の出土の記録もある。中島遺跡からも南大原式・下島式土器が出土している。いずれも、上田原台地の西端に展開している遺跡である。中期では初頭の五領ケ台式期の集落が上田原遺跡から発掘調査により確認されている。また、勝坂式・加曽利Ｅ式土器の出土の記録もある。中島遺跡・宮本遺跡・浦田遺跡・屋敷遺跡からも勝坂式・加曽利Ｅ式土器が出土している。惣明遺跡からは勝坂式土器が出土し、駕籠田遺跡・箕輪遺跡からは加曽利Ｅ式土器が出土している。後期の遺跡としては上田原遺跡から堀之内式土器・加曽利Ｂ式土器が出土している。晩期の遺跡としても上田原遺跡から条痕文系土器・大洞式系土器が出土している。

弥生時代の遺跡は前期から中期にかけての水神平系土器が上田原遺跡から出土している。また、浦田遺跡からも出土している。上田原遺跡からは中期の栗林式土器が確認されている。後期の遺跡としては緑川・天神堂遺跡・赤坂遺跡・殿海道遺跡・中島遺跡・上田原遺跡・浦田遺跡・蔵之台遺跡・屋敷遺跡・箕輪遺跡・惣明遺跡・宮脇遺跡・宮島遺跡・原田遺跡などで箱清水式土器を出土している。中でも、上田原遺跡では、上小地方ではじめて弥生時代後期から古墳時代初頭の周溝墓を確認することができた。遺跡はこの時期に急速に発展し、中之条付近の千曲川沖積氾濫原・上田原台地の西端・浦野川沿いなどに広く分布するようになる。発掘調査によって上田原遺跡・琵琶塚遺跡などが集落として確認されている。

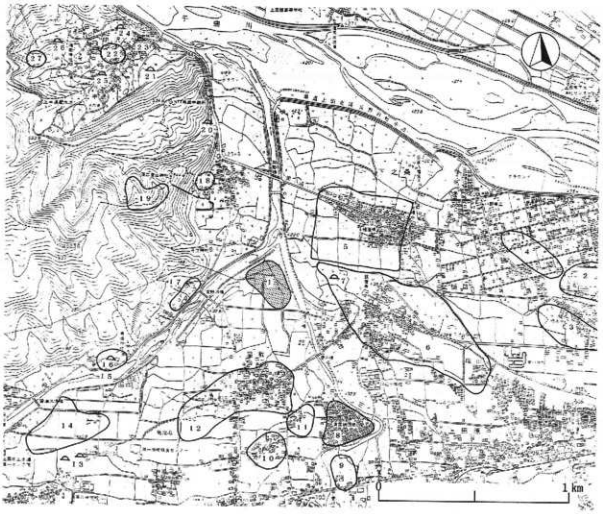
古墳時代の遺跡としては坂下古墳・六句古墳・初太郎古墳・タタラ塚・舟窪古墳群・森ノ木古墳・上平古墳・日天塚古墳・月天塚古墳・原峠古墳などが小牧山系に存在する。城山山系には下河原古墳・半過古墳群・八幡山古墳・日向小泉古墳群が存在している。上田原台地には塚原古墳群・手矢塚古墳群が存在している。いずれも後期の円墳である。また、琵琶塚遺跡などの集落遺跡とされるものも多く存在する。

奈良・平安時代は上田・小県地方に信濃国府が設置されて信濃国分寺が造営されたこと、官道である東山道が整備されていたことにより繁栄していたことが推測される。当該地域も、東山道が通過しているとされており、多くの遺跡が存在している。高町遺跡・中沢遺跡・木ノ下遺跡・横堰遺跡・中之条遺跡群・六工・金敷田・大畑・三反田遺跡・殿海道遺跡・塚田・丁田遺跡・中島遺跡・前田遺跡・上田原遺跡・本町遺跡・宮本遺跡・堀之内遺跡・浦田遺跡・蔵之台遺跡・屋敷遺跡・西沖遺跡・箕輪遺跡・堀切遺跡・宮脇遺跡・宮島遺跡・東村・中村・新屋遺跡・原田遺跡など多くが確認されている。また、東村遺跡からは布目瓦が出土しており古代寺院の存在を伺わせる。この地域は「和名抄」などに福田郷として記載されている地域であった。

中世以降は、鎌倉時代の小泉庄に属した地域として泉氏の本拠地と考えられている。また、戦国時代には武田晴信と村上義清の争った上田原合戦の古戦場として、倉升山一帯には武田方が陣をすえたことを物語る御陣ケ入・御陣ケ原・兵糧山・相図山・物見山などの小字を残しており、産川下流の西には村上方が陣をすえたと伝える天白山（須々貴山）がある。付近には板垣信方などの武将の墓が伝承されている。

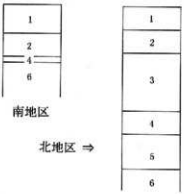
また、明治時代に使用された船橋道が調査地の東に隣接しながら北へ延びている。これは、千曲川を渡り上塩尻と下之条を結ぶ船橋へと通じる道であった。

＜参考文献＞
上田市教育委員会「上田市の原始・古代文化」１９７７
上田小県誌刊行会「上田小県誌（第一巻歴史篇上）」１９８０
上田市立博物館「発掘された原始・古代」１９９２
長野県教育委員会「歴史の道調査報告書　千曲川」１９９１



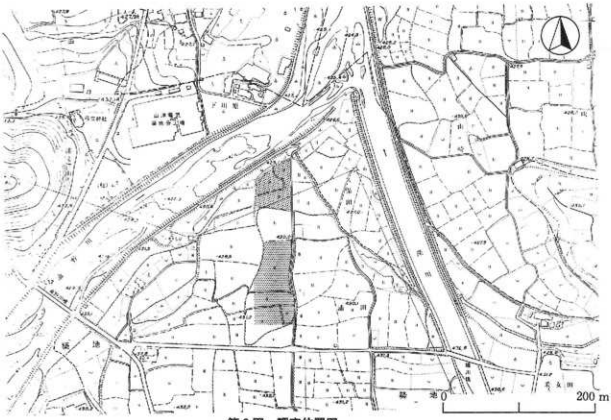
番号	遺跡名	時代	主な遺構
1	武田遺跡	縄文～平安	土坑墓他　竪穴住
2	下出遺跡遺跡	弥生～平安	土坑墓　竪穴住
3	向田A遺跡	平安	土坑墓　竪穴住
4	武野遺跡	弥生～平安	土坑墓　竪穴住
5	下之谷遺跡遺跡	弥生～平安	土坑墓　竪穴住
6	上出遺跡	縄文～平安	土坑墓　竪穴住
7	堀越遺跡	古墳	土坑墓　竪穴住
8	堀之内遺跡	縄文～平安	土坑墓　竪穴住
9	大向遺跡	弥生	土坑墓　竪穴住
10	武田遺跡	縄文～平安	土坑墓　竪穴住
11	堀越遺跡	弥生～平安	土坑墓　竪穴住
12	笠松遺跡	四王～平安	土坑墓　竪穴住
13	前原城山跡	古墳	土坑墓　竪穴住
14	前原城遺跡	弥生～平安	土坑墓　竪穴住
15	大橋B遺跡	平安	土坑墓　竪穴住
16	大橋A遺跡	古墳	土坑墓　竪穴住
17	笠松遺跡	平安	土坑墓　竪穴住
18	上堀免遺跡	古墳	土坑墓　竪穴住
19	堀ノ内遺跡	平安	土坑墓　竪穴住
20	前原A遺跡	古墳	土坑墓　竪穴住
21	前原A跡	古墳	土坑墓　竪穴住
22	中村遺跡	平安	土坑墓　竪穴住
23	中村B土坑遺跡	古墳	土坑墓　竪穴住
24	中村B土坑遺跡	古墳	土坑墓　竪穴住
25	中村B土坑遺跡	古墳	土坑墓　竪穴住
26	北前A跡	古墳	土坑墓　竪穴住
27	切ノ入遺跡	平安	土坑墓　竪穴住

第１図　遺跡位置図

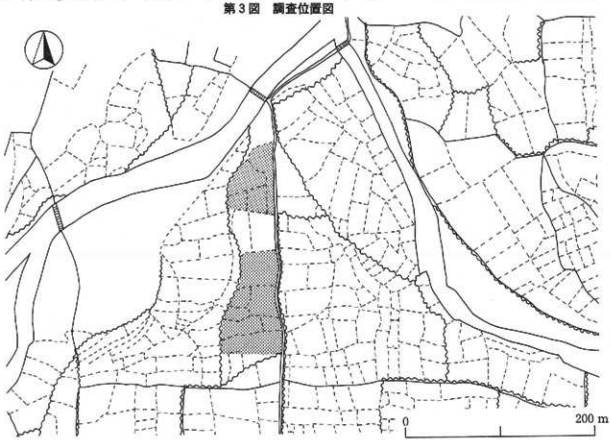


1層 … 灰褐色土層（水田耕作土・弱い粘性をもつ）
2層 … 明黄褐色土層（溶脱層・シルト質）
3層 … 黒褐色土層（円礫を含む・砂質）
4層 … 黒褐色土層（遺物包含層・シルト質）
5層 … 黄茶褐色土層（シルト質）
6層 … 砂礫層（シルト質）

第２図　基本土層



第3図　調査位置図



第4図　調査地公図（明治22年作成公図より）

第三章　遺跡の調査

第一節　遺跡の概要

浦田遺跡は、浦野川と産川が合流する地点の内側の河岸段丘上に展開している遺跡である。当初は、浦野川に沿った部分のみに遺跡があるものと思われていたが試掘調査の結果、産川沿いの段丘上にも遺跡が存在することが確認された。その為、産川沿いの遺跡を浦田Ａ遺跡とし、浦野川沿いの遺跡を浦田Ｂ遺跡として区別することとした。（第１図）

調査地の土砂の堆積は浅く、北地区では１層（灰褐色土層）・２層（明黄褐色土層）・３層（黒褐色土層・円礫を含む）の下に４層（黒褐色土層）の遺物包含層が僅かに残る。そして、５層（黄茶褐色土層）から６層（砂礫層）に掘り込まれるように遺構が検出された。南地区では、土砂の堆積状況がより貧弱であった。１層・２層の下に４層の遺物包含層がほんの僅か残る。そして、６層に掘り込まれるように遺構が検出された。いずれの土層もシルト質であった。（第２図）

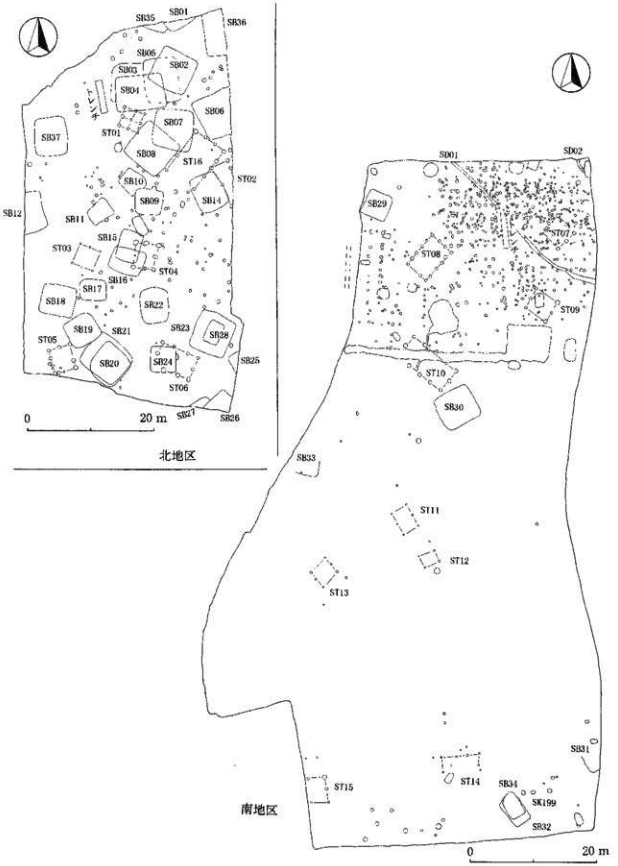
調査地区は、事業施工計画の関係で北地区と南地区に分けて調査を行った。（第３図）北地区と南地区とでは遺跡の性格が異なっていた。南地区は、中世の遺構を中心にしたものであった。遺構は、竪穴住居・掘立柱建物・溝・井戸・土坑などが確認された。北地区は、浦野川に沿って展開している集落であった。遺構は、竪穴住居・掘立柱建物・土坑などが確認された。これらの遺構は、①弥生時代後期箱清水式期から古墳時代前期まで②古墳時代から平安時代まで③中世前期のものに時期を分けることができる。

①弥生時代後期箱清水式期から古墳時代前期までの遺構は、竪穴住居を中心としたものである。北地区では調査地区全面から検出されており、さらに広がるものと思われる。南地区にも５棟確認できているが、点在している。南地区は、当該期の集落の周辺部と考えられる。出土遺物には土器・石器・金属器がある。土器は、弥生時代から古墳時代へと移り変わる時期の外来系のものが多く出土している。石器では、浦田Ａ遺跡と同様に石包丁の出土が多い。また、金属器ではＳＢ３６から出土した鉄製の鑿（のみ）は弥生時代後期終末の出土例となる。その出土例は他の地域においても聞かない。今後の類例の増加を待ちたい。

②古墳時代から平安時代までの遺構は、竪穴住居を中心としたものである。また、これに伴うと思われる掘立柱建物も確認されている。竪穴住居の所属時期は、奈良時代と平安時代のものに大きく分けられる。竪穴住居は奈良時代のものが多い。他に、南地区では溝が通っている場所に沿って掘立柱建物が配置されている。この溝は浦田Ａ遺跡に見られた溝（ＳＤ０２）と同一のものと思われる。出土遺物は土器・砥石などの石器・刀子などの金属器がある。特に、奈良時代の土器は良好な資料となった。

③中世前期の遺構は、掘立柱建物・溝・井戸・土坑などがある。遺構は南地区の北のＳＤ０３より北側に集中している。調査地区西にトレンチを掘ったところ、南北に走る溝が確認された。このことから、方形の溝に囲まれた内側のみに中世の遺構が存在していることが推定される。また、大きな建物・小さな建物・土坑・井戸などの配置に計画性が認められ、館の構造を確認することができる。遺構の所属時期は、出土遺物から１３世紀を中心とした遺構であることが考えられる。遺物は、遺構が削平を受けている為か出土量は少なく破片が多い。青磁碗を中心に常滑・珠洲・かわらけ・瓦器・北宋銭などが出土している。北宋銭はＳＤ０３や柱穴から多く出土した。

④また、遺構の確認はできなかったが縄文時代草創期に属すると考えられる有舌尖頭器や縄文時代後期の土器・石器が出土している。有舌尖頭器は単独出土であり、この周辺一帯が当時の狩猟場であった可能性がある。縄文時代後期については、土器の存在から周辺に何らかの遺構の存在が推定される。



第５図　浦田Ｂ遺跡全体図

第６図　中世遺構配置図①

第７図　中世遺構配置図 ②

第二節　遺構

浦田B遺跡では、竪穴住居・掘立柱建物・溝・井戸・土坑が確認されている。しかし、遺構の検出状況には偏りがみられる。北地区では①弥生時代後期から古墳時代前期と③奈良・平安時代の竪穴住居を中心としており、南地区では④中世のものを中心に確認されている。また、②古墳時代と思われる掘立柱建物も北地区及び南地区にて確認されている。しかし、縄文時代・弥生時代前期の遺構は確認できなかった。

①弥生時代後期から古墳時代前期

当該期の遺構は北地区を中心に確認されている。竪穴住居は、弥生時代後期箱清水式期のもの（ＳＢ１４・１６・１９・２２・３６）・古墳時代初頭のもの（ＳＢ０１・０３・０４・０５・０６・２６・３０・３７）・古墳時代前期のもの（ＳＢ０２・１２・３１）がある。これらは、浦野川の段丘に沿うような形で配置されており、河川から離れた南地区では竪穴住居が散在する。集落の周辺部の状態を呈する。南地区の竪穴住居の配置状況は、集落の周辺部はどの様な景観であったのかを示している。

弥生時代後期の竪穴住居は隅丸長方形を呈する。古墳時代初頭の竪穴住居は大形のものと普通の大きさのものとがある。平面形は方形を呈するものが多い。古墳時代前期の竪穴住居は平面形は方形を呈する。

また、焼失住居（ＳＢ０１・２２）も確認されている。ＳＢ０１では、柱が柱穴に入ったまま炭化していた。柱には表皮は確認できず、直径は約１０cm程の丸太材であった。

②古墳時代

古墳時代と思われる掘立柱建物（ＳＴ０６・０７・０８・０９・１０・１１など）は溝（ＳＤ０１・０２）に対して平行か直交するように配置されている。ＳＴ０４・０６は奈良時代の竪穴住居に切られており、掘立柱建物の柱穴及び溝の覆土出土の僅かな土器から古墳時代前期以降の遺構であると思われる。普通、当該期の集落は竪穴住居を中心とするが、浦田Ｂ遺跡では掘立柱建物により構成される建物群となる。これら全てを倉庫とするには建物の規模の割には総柱建物となっていないことから無理があると思われる。掘立柱建物により構成された集落と考えたい。掘立柱建物集落は、古墳時代後期（７世紀）以降に畿内を中心に次第に一般化していった。古墳時代後期から奈良時代にかけての時期に、この様な集落が上小地方で確認できることは、当該地方と畿内とが緊密な関係にあったことを考えなくてはならないだろう。

③奈良・平安時代

当該期の遺構は北地区を中心に確認されている。竪穴住居は、奈良時代のもの（ＳＢ０８・０９・１５・１７・１８・２４・２８）・平安時代のもの（ＳＢ０７・２３・３３）がある。上小地方の奈良時代の集落としては比較的まとまったものである。中心となる大型住居（ＳＢ０８）や普通の大きさの住居（ＳＢ０９・１８・２４）は平面形が方形を呈している。また、これらカマドをもつ竪穴住居（ＳＢ０８・０９・１８・２４）には小型の隅丸長方形のもの（ＳＢ１５・１７・２８）が伴っている。これら隅丸長方形のものはカマドが確認されていない。母屋に付属する施設（竈屋・納屋・作業場等）と考えられる。

さて、ＳＢ０７のカマドには、独特の祭祀を行った痕跡が確認された。破壊されたカマドに食物（炭化しており分析が必要である。）を入れた皿（１４９）を同じ大きさの皿（１４８）で蓋をして供えていた。この様なカマド本体破壊後の祭祀的行為には、ａ完形土器・ｂ壊された土器・ｃ手ずくね土器・ｄ玉類などの遺物が設置されることが多い。当該遺構の事例はａ完形土器の設置のバリエイションの一つと思われる。「カマド神」への食物の供献事例として、食器のみを設置するという形式的な行為だけではなく、実際に神に食物を捧げていることがあるという事例であると思われる。

③中世

当該期の遺構は南地区の北側のみに集中している。遺構の埋土は青灰色系の土層（粘土質）であり、他の時期の遺構との区別は比較的容易であった。また、ＳＫ２５８以外の遺構はＳＤ０３より北側に配置されており、当該遺構の西に隣接するトレンチより発見された溝と共に考えると溝に囲まれた館或いは屋敷地であったことが考えられる。遺構は掘立柱建物・溝・井戸・土坑・柵列が確認できる。

掘立柱建物は、柱を直接土中に入れたものがほとんどであるが、一部分に礎石を使ったものもある。柱穴からは、宋銭が出土しているものもある。掘立柱建物の平面形は１間×１間のものから４間×５間のものまであるが、２間×２間や２間×３間のものが多い。また、総柱のものも多い。それぞれの掘立柱建物は南北或いは東西に主軸方向を揃えている。ＳＴ３１やＳＴ２８の地域は切り合いや建て替えが激しく、母屋となる建物の存在が考えられる。また、ＳＴ３３のように浅い土坑（ＳＫ２８０）を伴う遺構は厩舎や地下貯蔵施設の可能性が指摘されている。

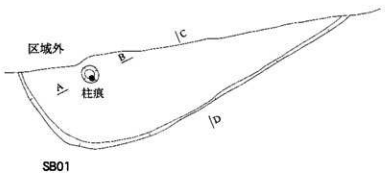
溝（ＳＤ０３）は、屋敷地の南限を表しているようである。溝は、浅く１０cm程の深さであったが、本来はもう少し深いものであったろう。この溝からも、多くの古銭が出土している。「一遍上人絵伝」（常陸国遊行場面）には屋敷の周囲の溝をさらって銭を採集している場面があるが、当該遺構の状況と類似性を指摘することができる。中世の館の溝は方形に巡っている事例が多い為、調査地区の西隣の廃土置き場に３つのトレンチを入れた。その結果、削平されて浅い状態ではあるが、ＳＤ０３とほぼ同じ幅となる南北に延びる溝が確認できた。この事と北地区に中世の遺構が皆無であることから、当該遺跡は一辺が５０～６０mの方形館であったことが推定される。

また、ＳＤ０３はＳＫ３８１及びＳＸ０１と繋がっていると思われる。ＳＫ３８１は、溝が形成された後に掘られたと考えられる。ＳＫ３８１からは、砥石が出土しており水を溜めて使用していたことが示唆される。ＳＸ０１は、池状遺構と言うべきもので人頭大の河原石が投げ込まれていた。しかし、この石を底に敷いたり、石を組んで何らかの施設を作っていた痕跡も認められる。また、ＳＤ０３とは細い溝によって繋がっていた。この溝の底のレベルはＳＤ０３とほぼ同じでＳＸ０１よりも浅い。ＳＸ０１に水を溜めておくと同時に水位を一定に保つことが考えられているようである。この様な遺構は、草戸千軒遺跡や大阪府和気遺跡など西日本の遺跡によく見られるようである。また、「一遍上人絵伝」（信濃国佐久郡大井太郎屋敷）においても表現されている。しかし、関東地方を中心とした東日本には見られないようである。

井戸は、比較的深いもの（ＳＫ３１９）と浅いもの（ＳＫ２７９）が確認されている。ＳＫ３１９は素掘りの円筒形のものであり、深さ２．８mである。井戸の底には人頭大の石が敷いてあった。ＳＫ２７９は素掘りですり鉢形のものである。掘立柱建物は井戸の周囲に配置されており、これと切り合う遺構はなかった。この場所が長期間にわたり水場として重要視されていたことが推測される。

土坑は、平面形が方形或いは長方形を呈している。①掘り込みの深いもの（ＳＫ３１６・３１７・３１８）と②浅いもの（ＳＫ２６９・２７８・２８０・２８１・２８２・３１８・３７０など）が確認されている。①掘り込みの深いものは南地区の北東隅に集中しており平面形は方形に近く、規模もほぼ同じである。これらは作業場として機能していたと考えられるが、それを裏付ける遺物は確認されていない。②浅いものは南地区の西側或いは南側に確認されている。ＳＫ２８０はＳＴ３３に伴う土坑と考えられる。ＳＫ２７８も同様のことが考えられる。ＳＫ２５８・２６９・２８１・２８２は平面形が長方形を呈している。掘り込みは深いもの（ＳＫ２５８）と浅いもの（ＳＫ２６９・２８１・２８２）がある。ＳＫ２５８は一部に子供の頭大の石が設置されていた。いずれも、出土遺物がほとんど無くその用途は不明である。

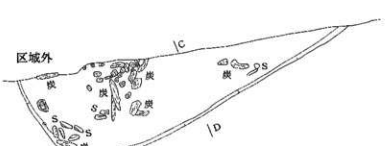
柵列（ＳＡ０１）は、Ｌ字状を呈している。ＳＴ３３を囲むように配置されている。すなわち、主屋或いは外部からはばかられる建物であったことが推測される。この屋敷地では、身分的に低い者の住居或いは雑舎などを区画していたことが考えられる。



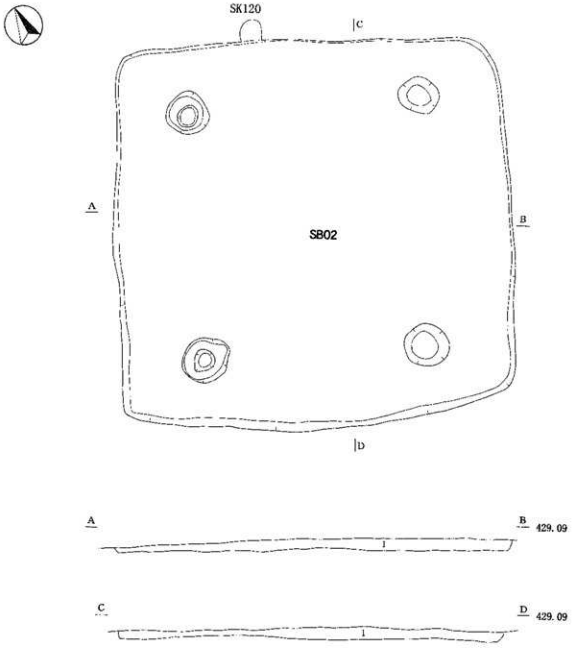
1層：黒褐色土（炭化物を多く含む）
2層：黒褐色土（炭化物・焼土を含む）

1層：黒褐色土（炭化物を含む）

第8図　1号住居跡



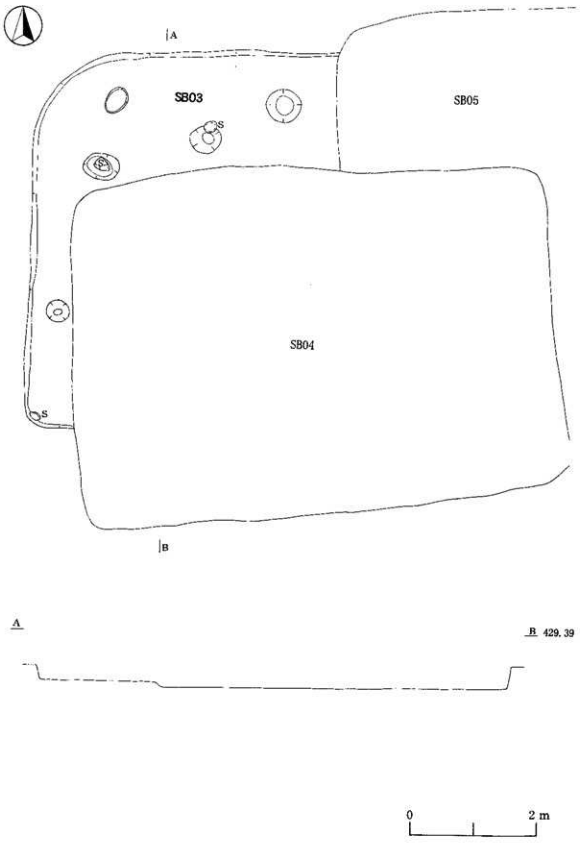
第9図　1号住居跡炭化物出土状況



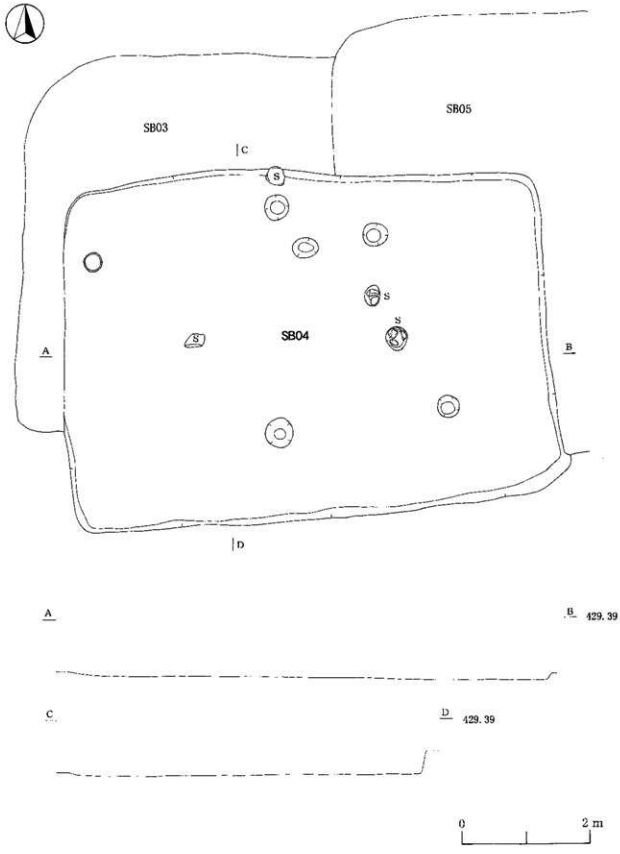
1 層：黒褐色土（シルト質・黄褐色土を含む）

0　2 m

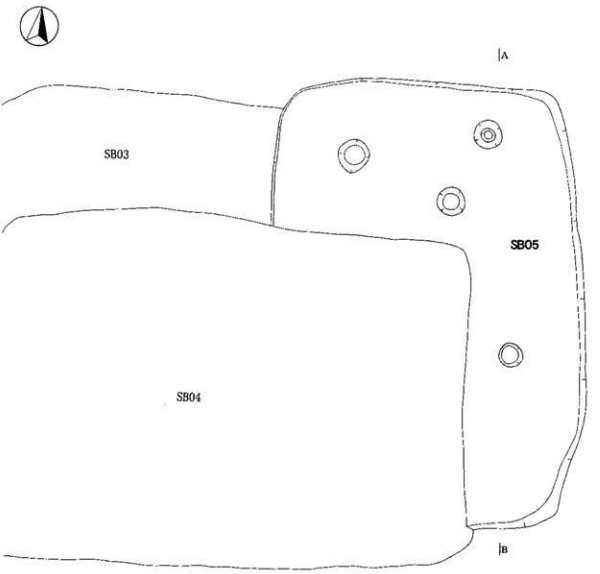
第 10 図　2 号住居跡

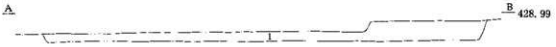


第 11 図　3 号住居跡



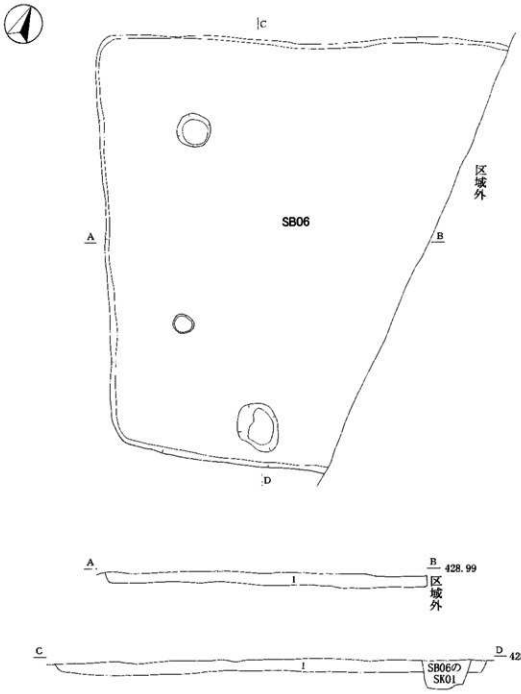
第 12 図　4号住居跡



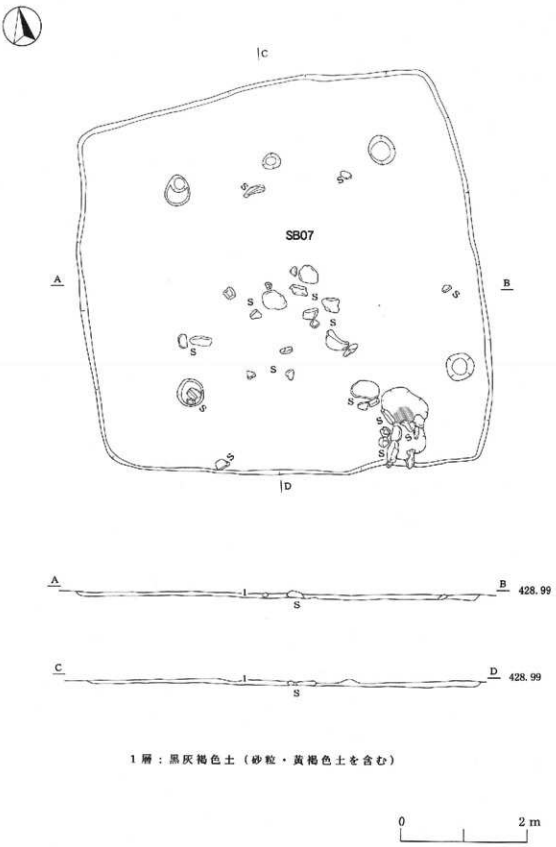


1層：黒褐色土（黄褐色土・親指大の円礫・炭化物を含む）

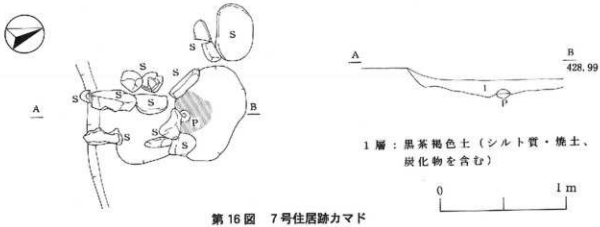
第13図　5号住居跡


C
区域外
SB06
A
B
D
A
B
428.99
I
区域外
C
D
428.99
I
SB06の
SK01
1層：黒褐色土（小礫を含む）
0
2m

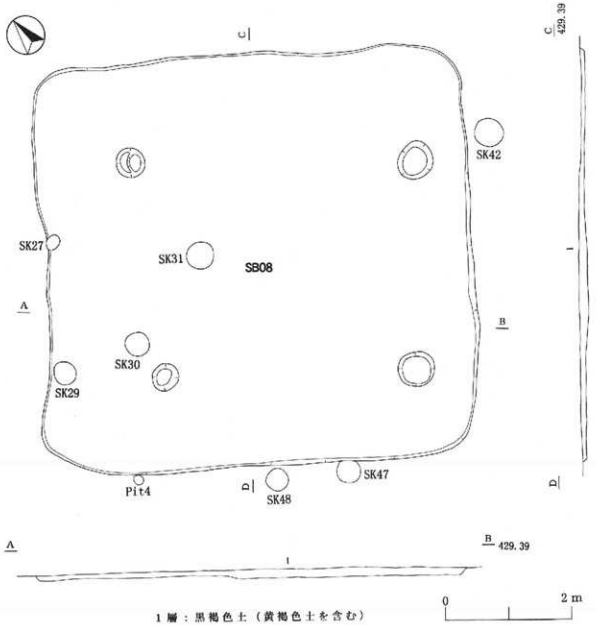
第14図　6号住居跡



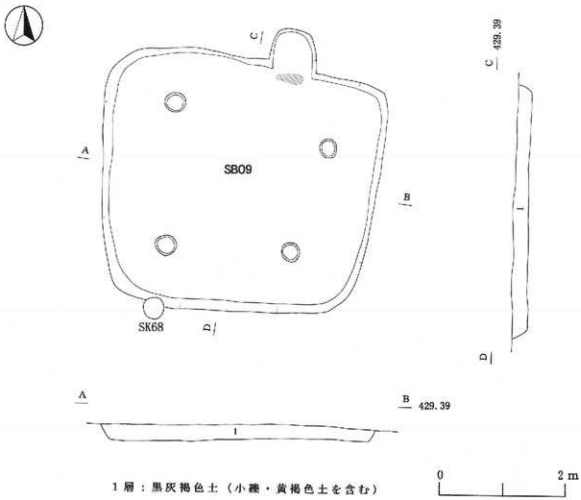
第15図　7号住居跡



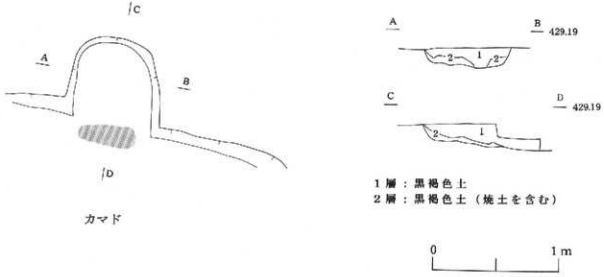
第16図　7号住居跡カマド



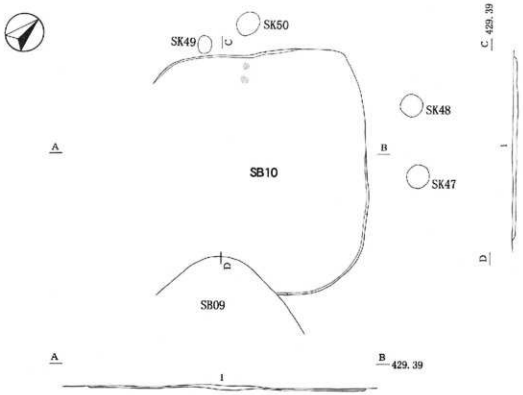
第17図　8号住居跡



第18図　9号住居跡

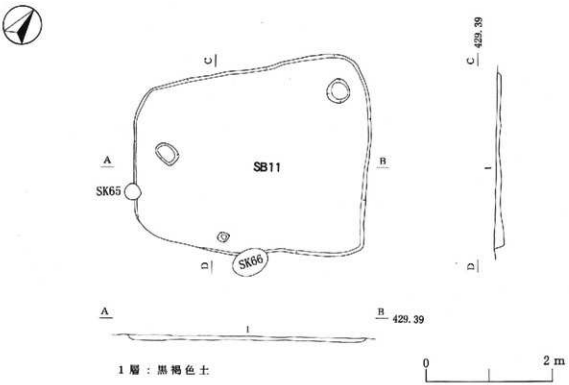


第19図　9号住居跡



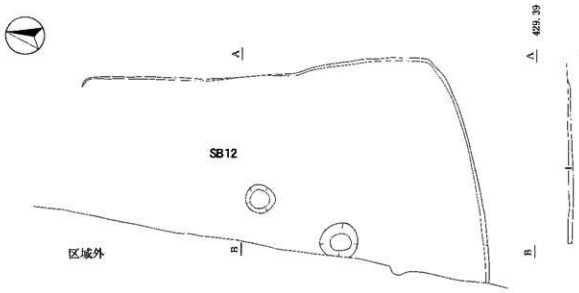
1層：黒褐色土（小礫・黄褐色土を含む）

第20図　10号住居跡



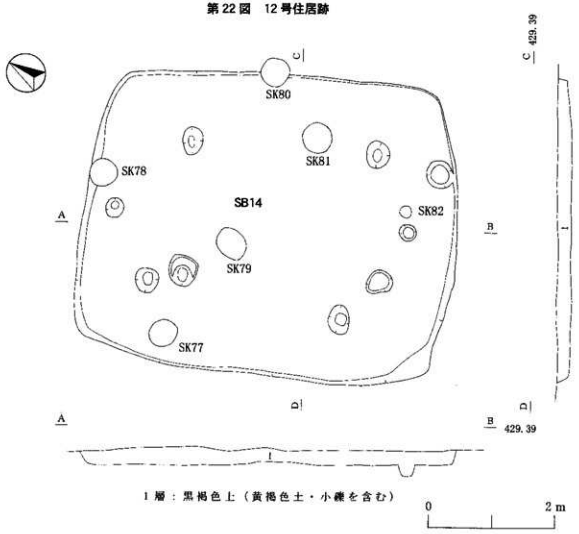
1層：黒褐色土

第21図　11号住居跡



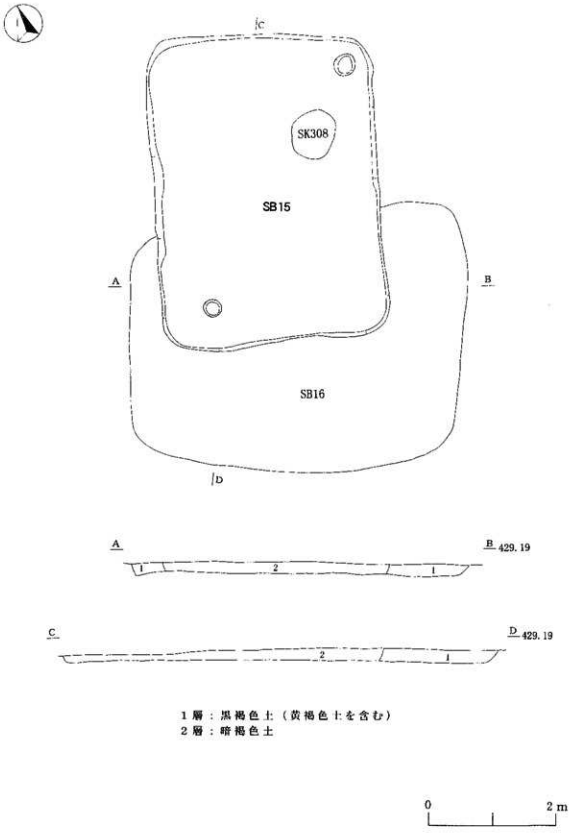
1層：黒褐色土（シルト質・小礫を含む）

第22図　12号住居跡

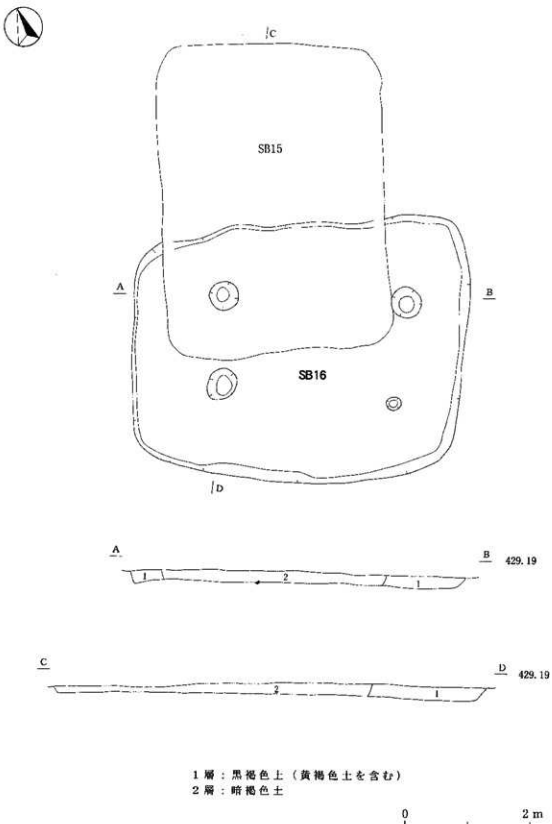


1層：黒褐色土（黄褐色土・小礫を含む）

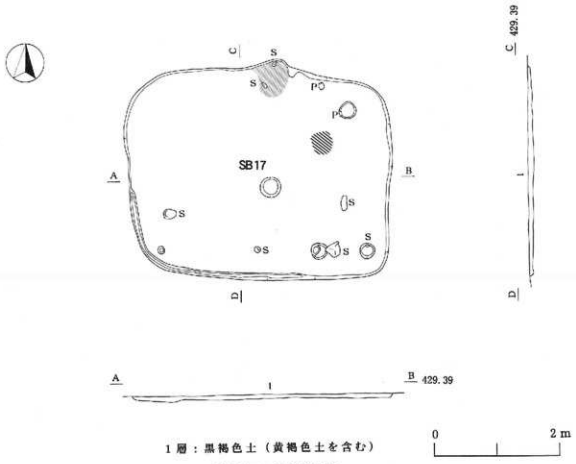
第23図　14号住居跡


C
SK308
SB15
A
B
SB16
D
A
B
429.19
1
2
1
C
D
429.19
2
1
1層：黒褐色土（黄褐色土を含む）
2層：暗褐色土
0
2 m

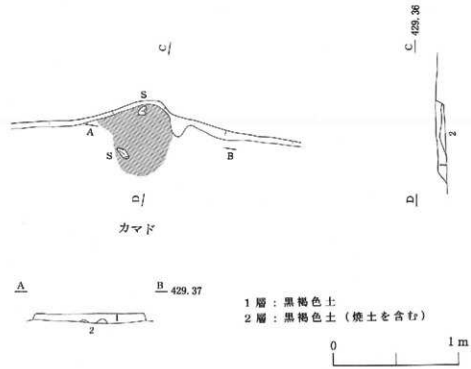
第24図　15号住居跡


C
SB15
A
B
SB16
D
A
B
429.19
1
2
1
C
D
429.19
2
1
1層：黒褐色土（黄褐色土を含む）
2層：暗褐色土
0
2 m

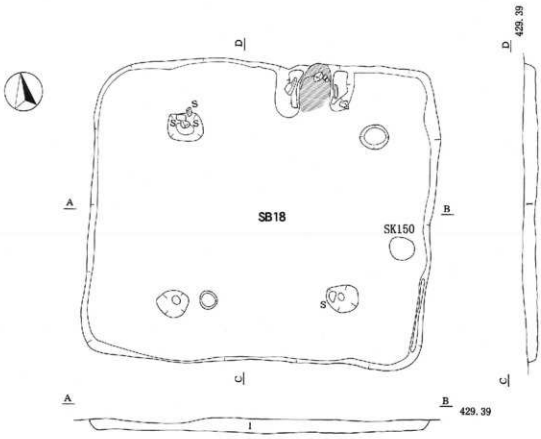
第25図　16号住居跡



第 26 図　17 号住居跡



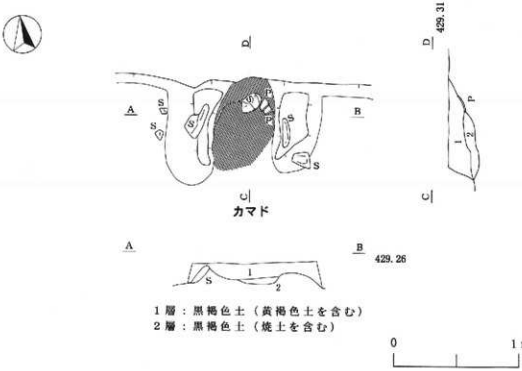
第 27 図　17 号住居跡カマド



1層：黒茶褐色土（シルト質・黄褐色土をブロック状に含む

0　2m

第28図　18号住居跡

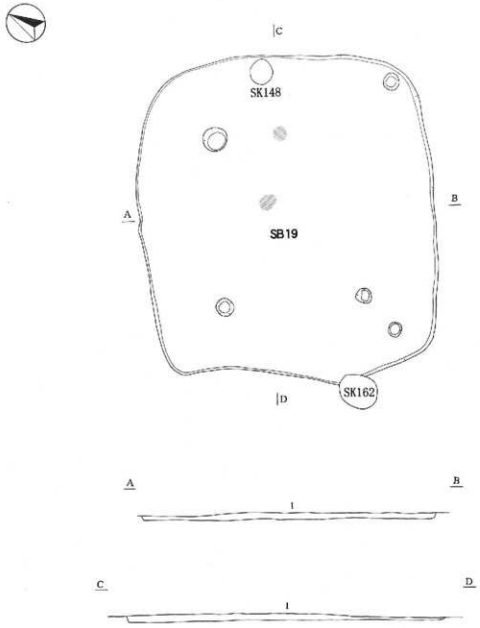


カマド

1層：黒褐色土（黄褐色土を含む）
2層：黒褐色土（焼土を含む）

0　1m

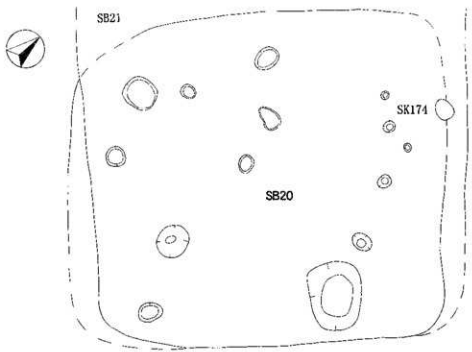
第29図　18号住居跡カマド



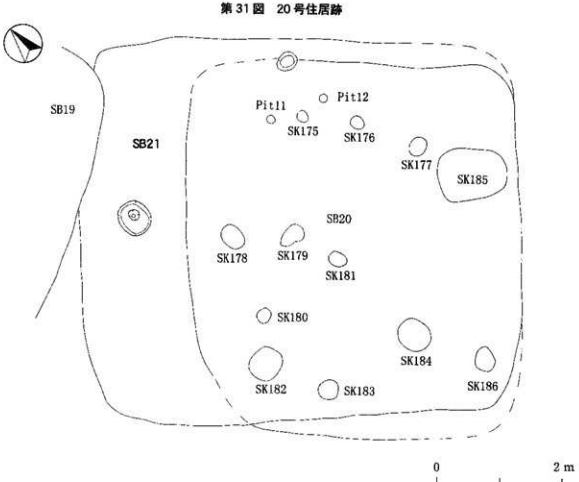
1 層：黒褐色土（黄褐色土を含む）

0　2 m

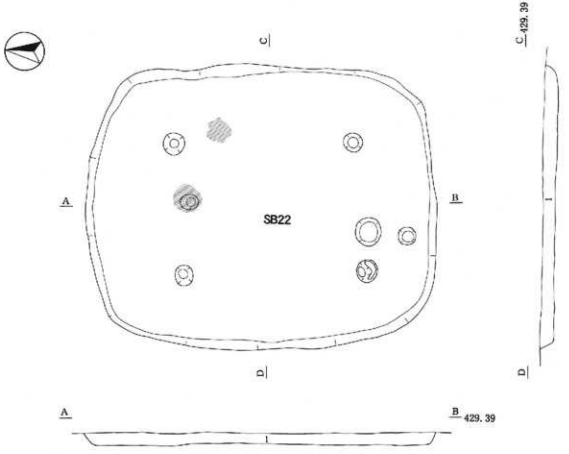
第 30 図　19 号住居跡



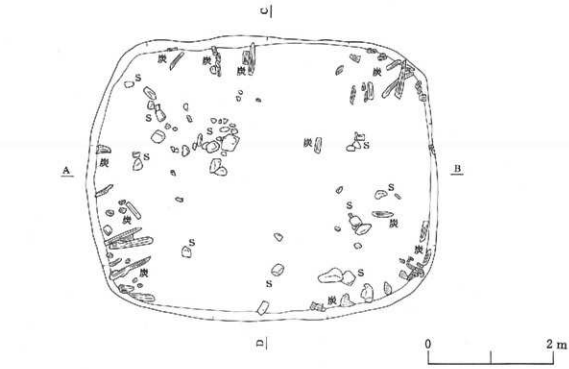
第 31 図　20 号住居跡



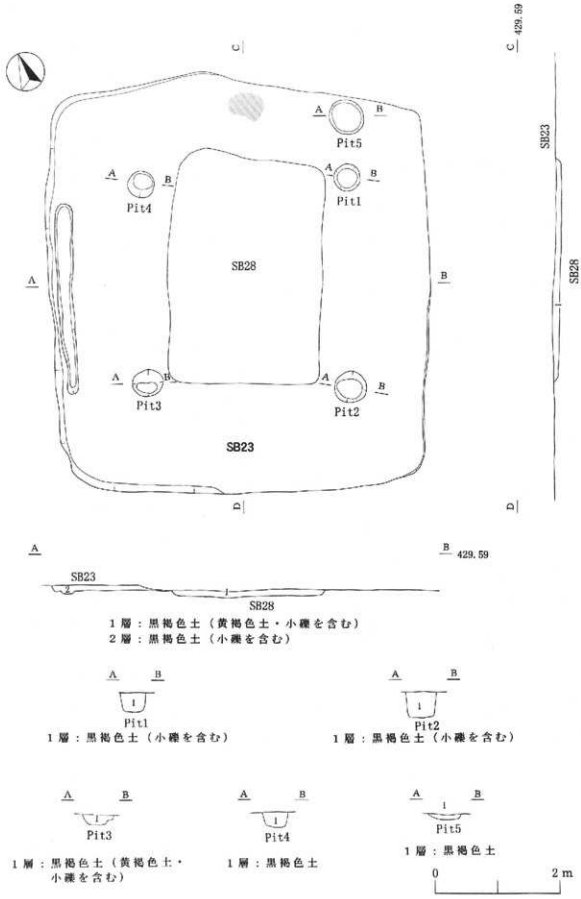
第 32 図　21 号住居跡



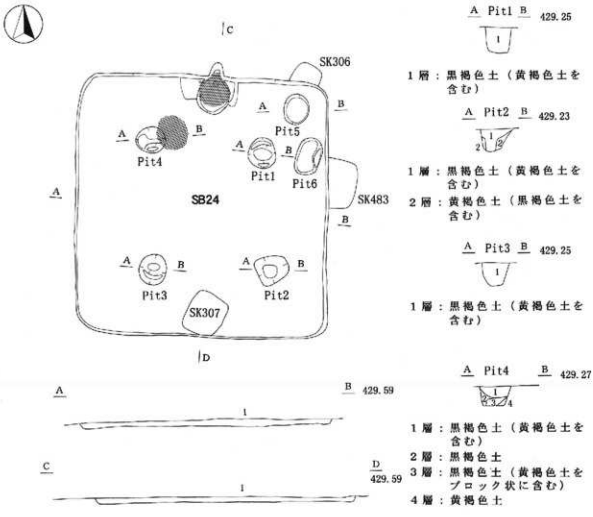
第 33 図　22 号住居跡



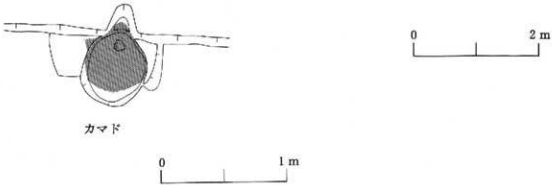
第 34 図　22 号住居跡炭化物出土状況


C
C 429.59
SB23
SB28
Pit5
Pit4
Pit1
Pit3
Pit2
A
B
D
D
A
B 429.59
SB23
SB28
1層：黒褐色土（黄褐色土・小礫を含む）
2層：黒褐色土（小礫を含む）
Pit1
1層：黒褐色土（小礫を含む）
Pit2
1層：黒褐色土（小礫を含む）
Pit3
1層：黒褐色土（黄褐色土・小礫を含む）
Pit4
1層：黒褐色土
Pit5
1層：黒褐色土
0
2 m

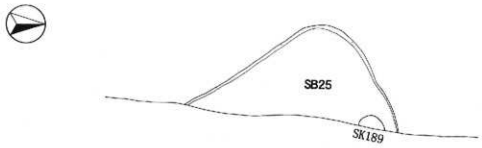
第35図　23号住居跡



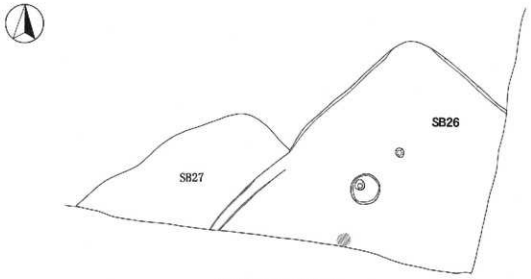
第36図　24号住居跡



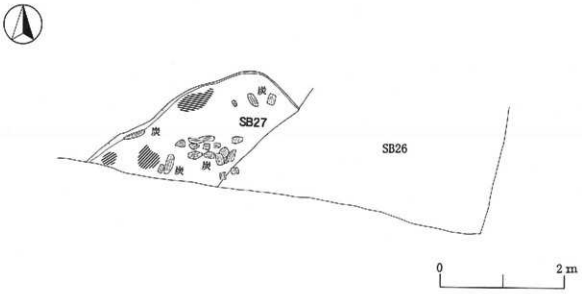
第37図　24号住居跡カマド



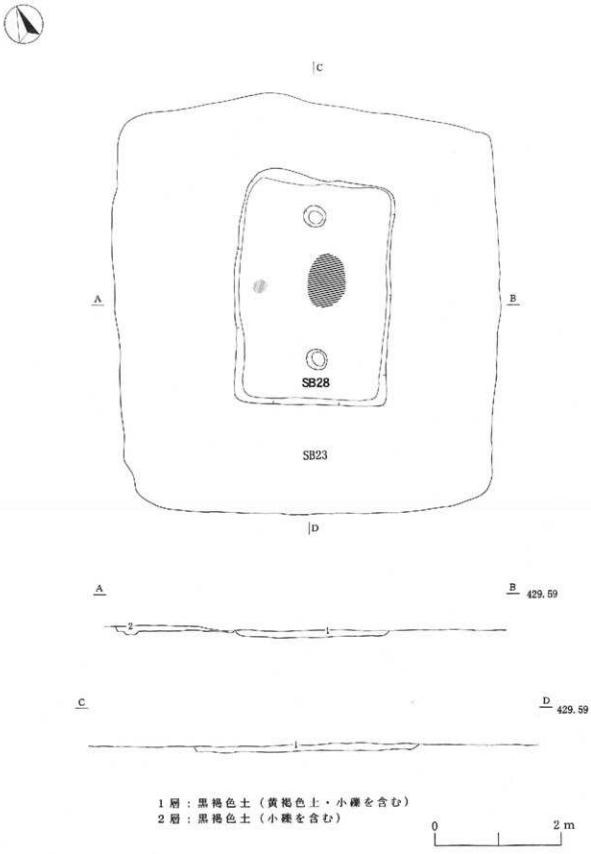
第 38 図　25 号住居跡



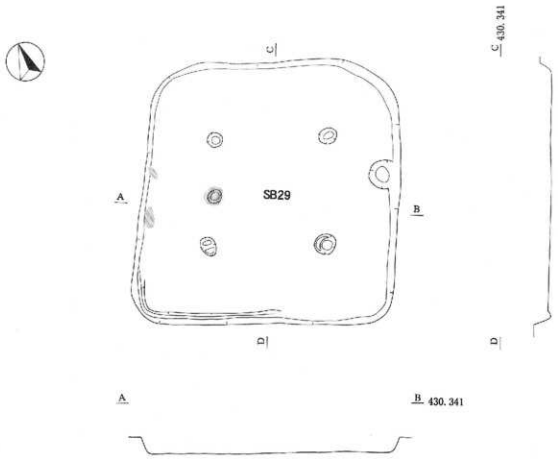
第 39 図　26 号住居跡



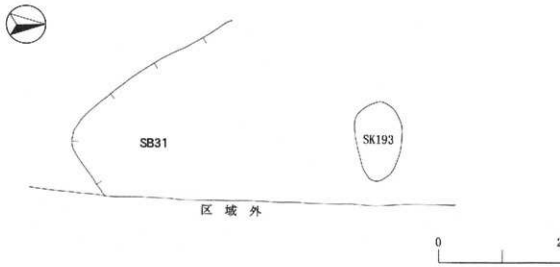
第 40 図　27 号住居跡


C
A
B
SB28
SB23
D
A
B
429.59
2
1
C
D
429.59
1
1層：黒褐色土（黄褐色土・小礫を含む）
2層：黒褐色土（小礫を含む）
0
2 m

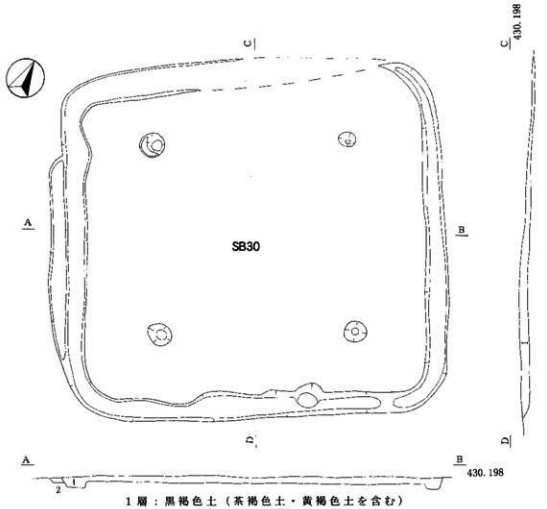
第41図　28号住居跡



第 42 図　29 号住居跡

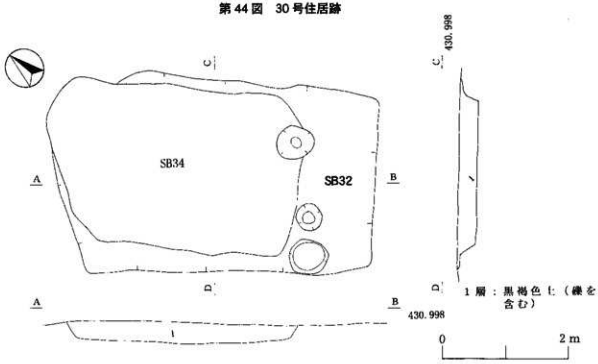


第 43 図　31 号住居跡



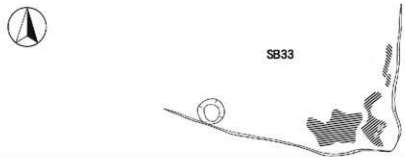
1層：黒褐色土（茶褐色土・黄褐色土を含む）
2層：黒灰色土（シルト質）

第44図　30号住居跡

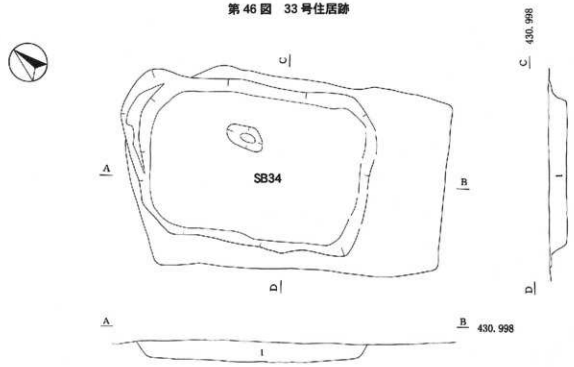


1層：黒褐色土（礫を含む）

第45図　32号住居跡

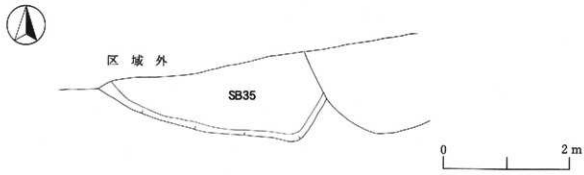


第46図　33号住居跡

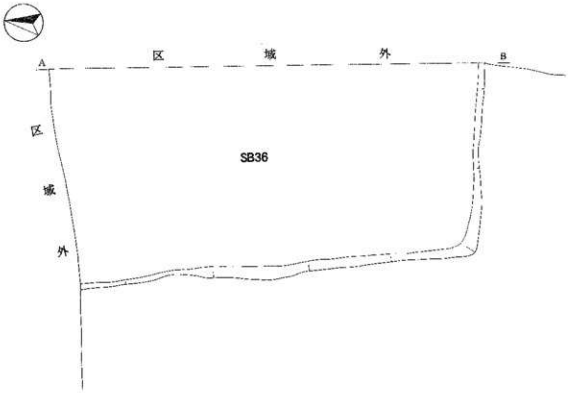


1層：黒褐色土（礫を含む）

第47図　34号住居跡

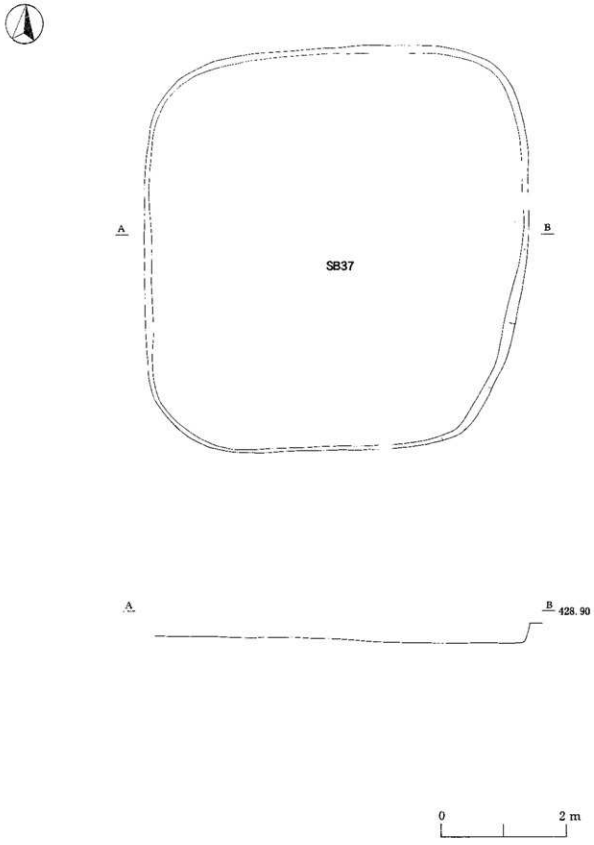


第48図　35号住居跡

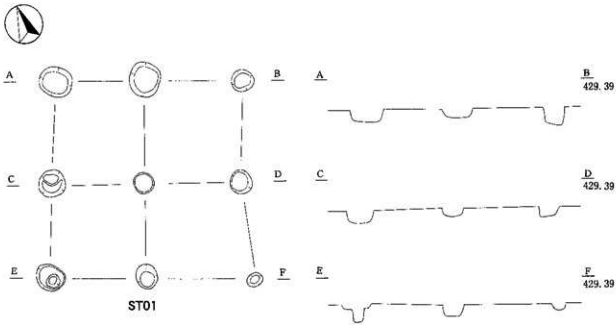


1層：耕作土
2層：褐褐色土（溶脱層）
3層：黒褐色土（砂質・上層に円礫を含む）
4層：黄黒褐色土（黄褐色土を含む）
5層：黒褐色土（シルト質）
6層：黄褐色土（砂・円礫が混在）

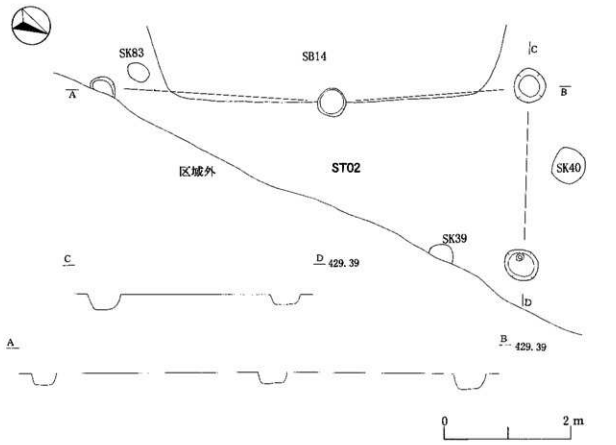
第49図　36号住居跡



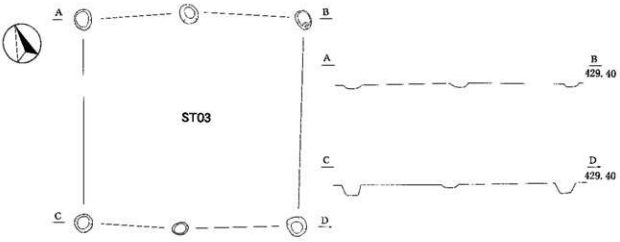
第50図　37号住居跡



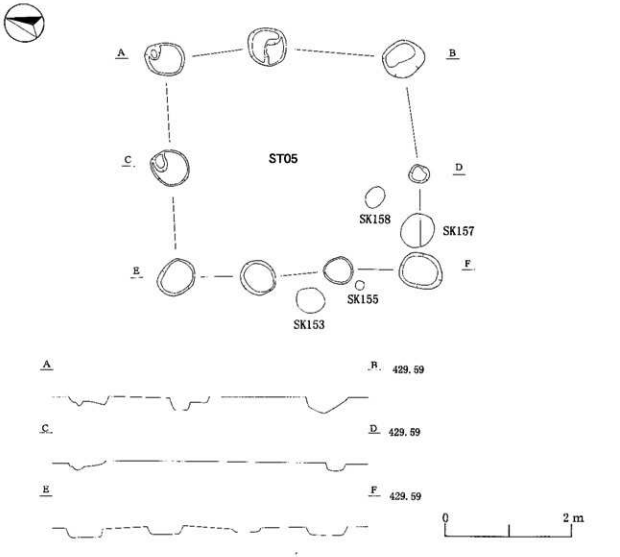
第51図　1号掘立柱建物跡



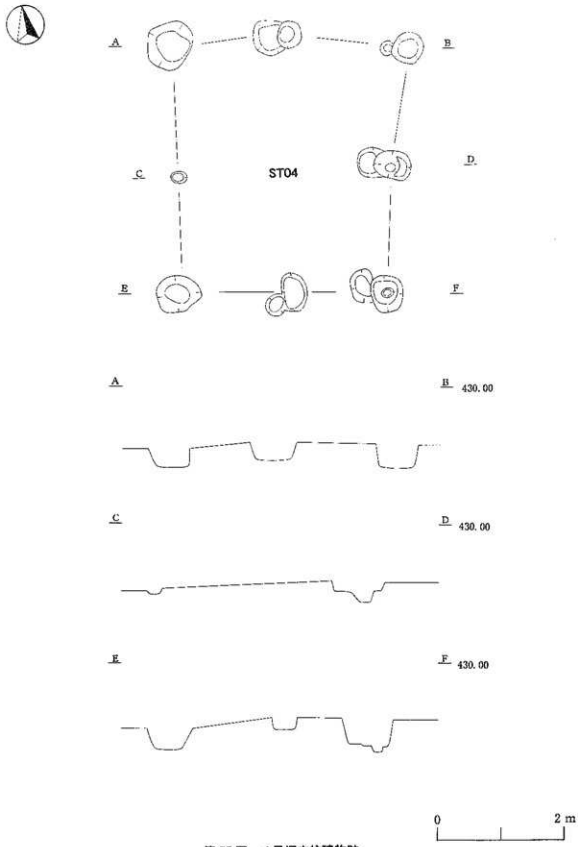
第52図　2号掘立柱建物跡



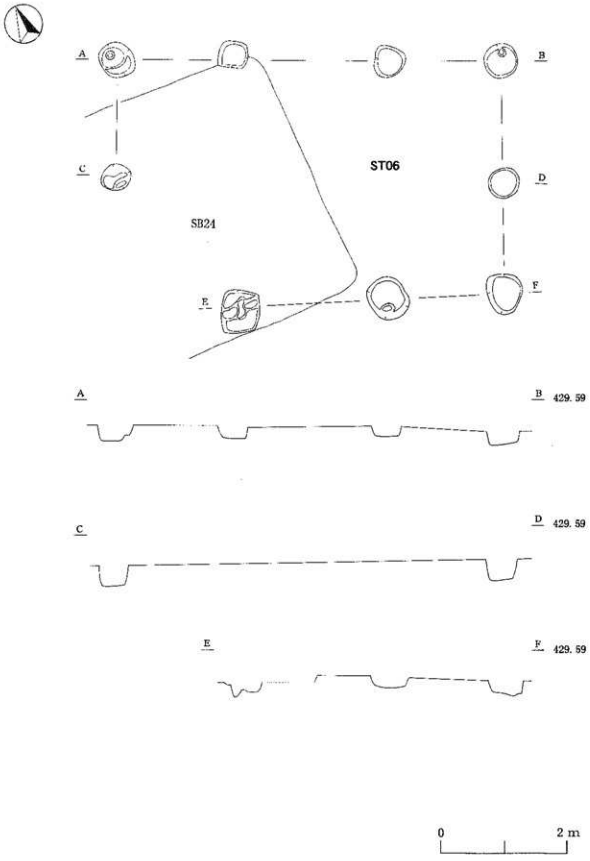
第 53 図　3 号掘立柱建物跡



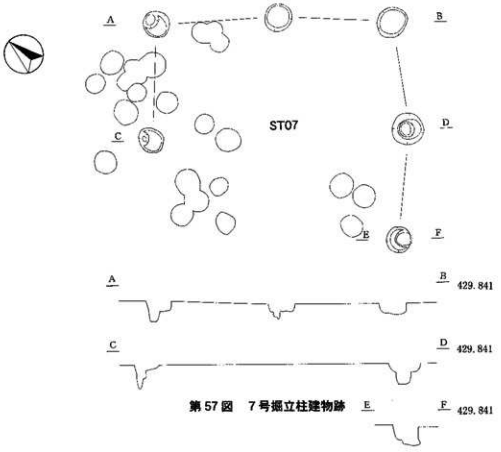
第 54 図　5 号掘立柱建物跡



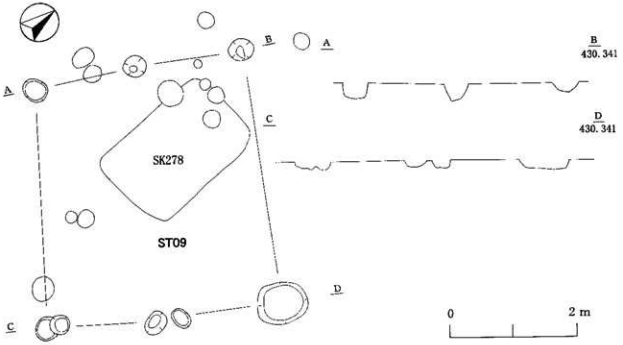
第 55 図　4 号掘立柱建物跡



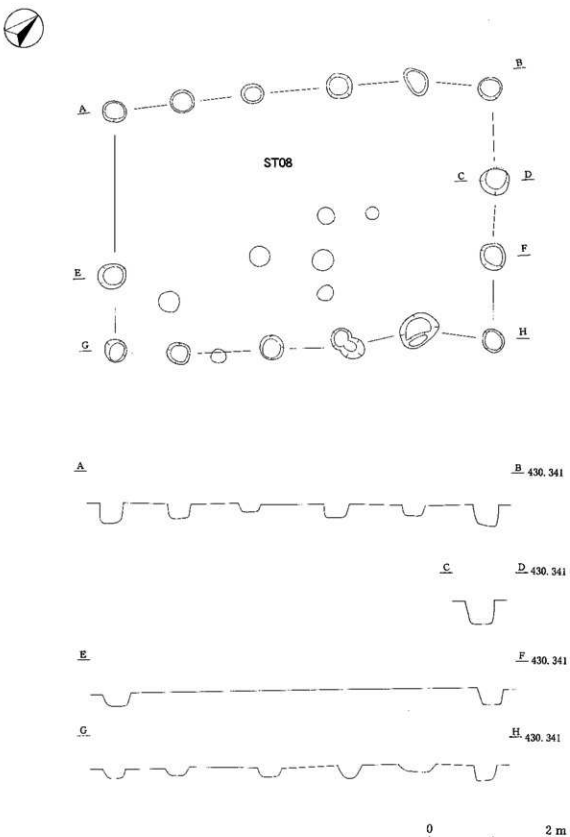
第56図　6号掘立柱建物跡



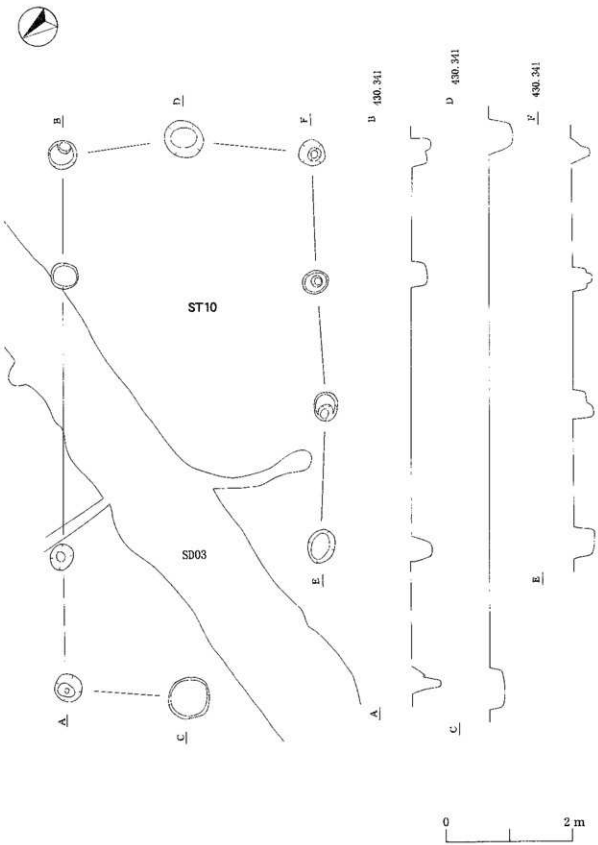
第 57 図　7 号掘立柱建物跡



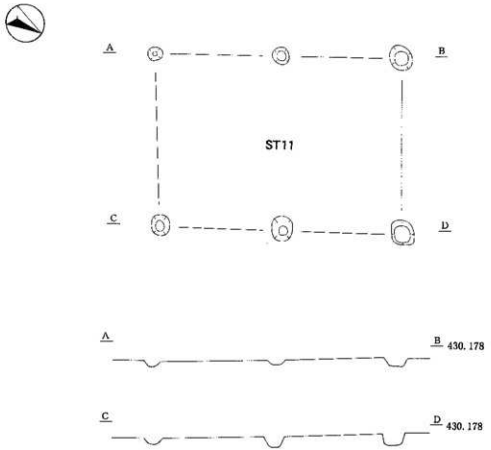
第 58 図　9 号掘立柱建物跡



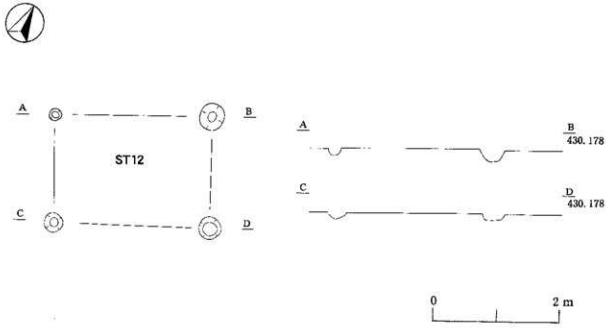
第59図　8号掘立柱建物跡



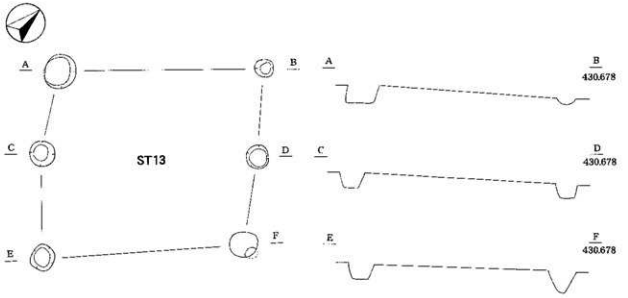
第 60 図　10 号掘立柱建物跡



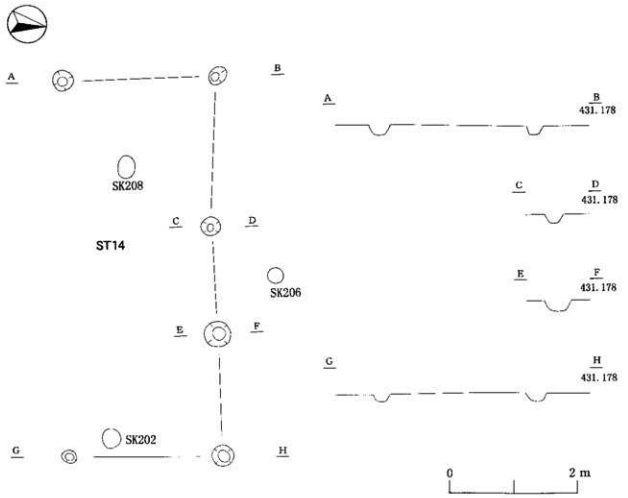
第61図　11号掘立柱建物跡



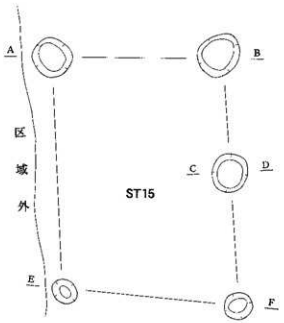
第62図　12号掘立柱建物跡

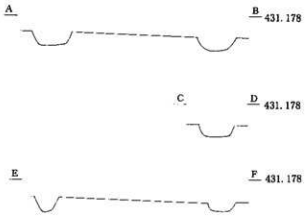


第 63 図　13 号掘立柱建物跡

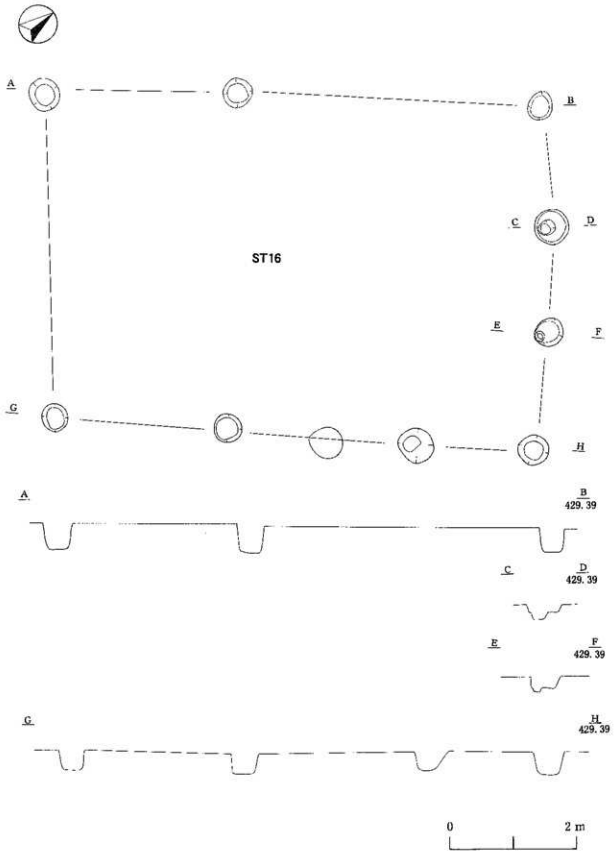


第 64 図　14 号掘立柱建物跡

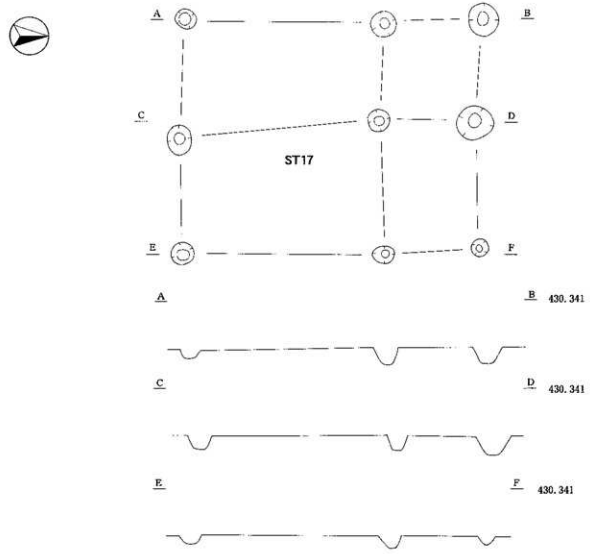




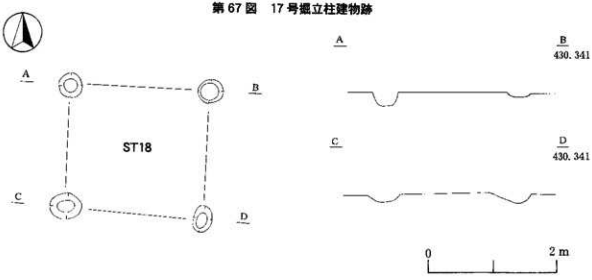
第65図　15号掘立柱建物跡



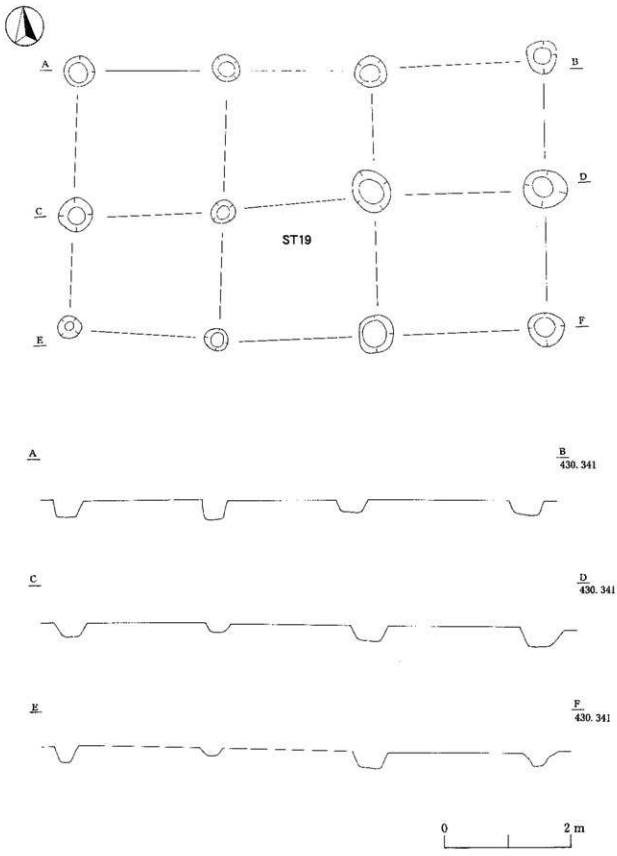
第 66 図　16 号掘立柱建物跡



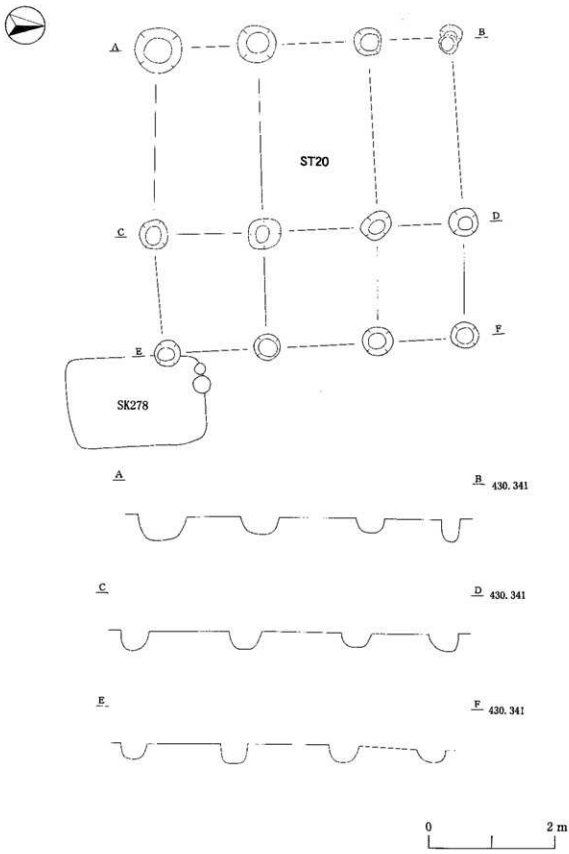
第 67 図　17 号掘立柱建物跡



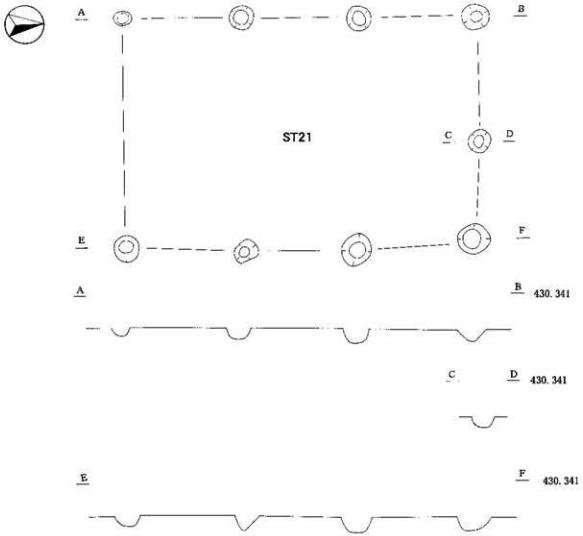
第 68 図　18 号掘立柱建物跡



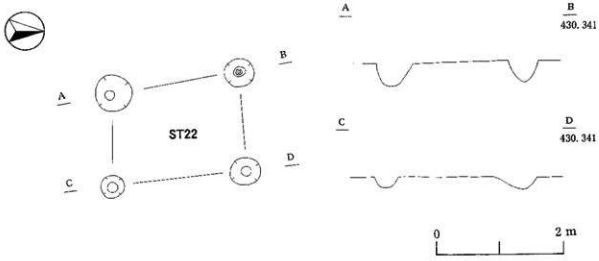
第69図　19号掘立柱建物跡



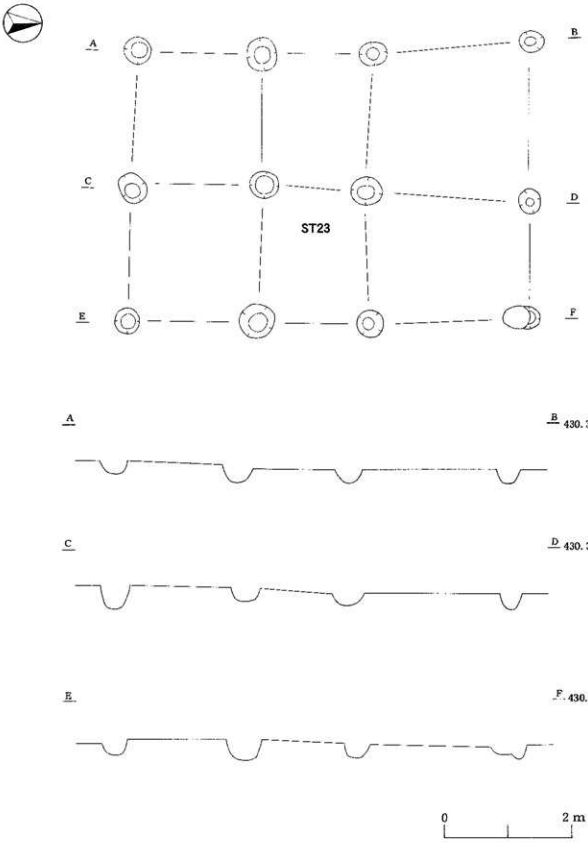
第 70 図　20 号掘立柱建物跡



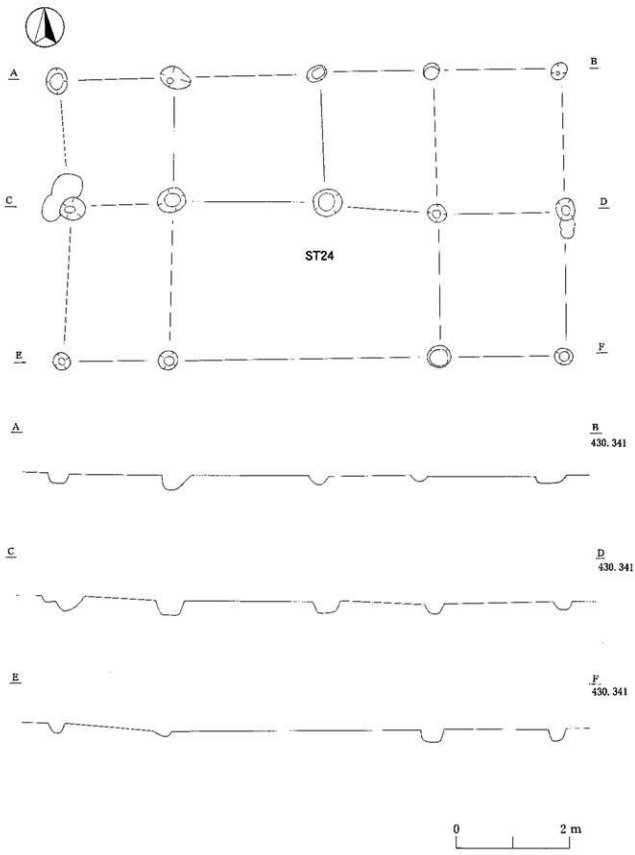
第71図　21号掘立柱建物跡



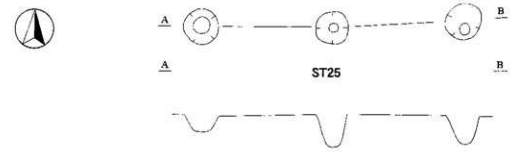
第72図　22号掘立柱建物跡



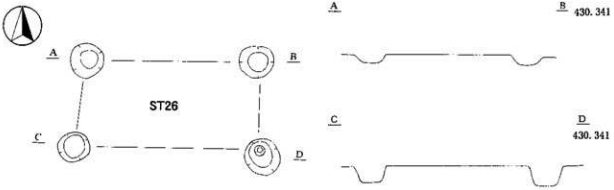
第 73 図　23 号掘立柱建物跡



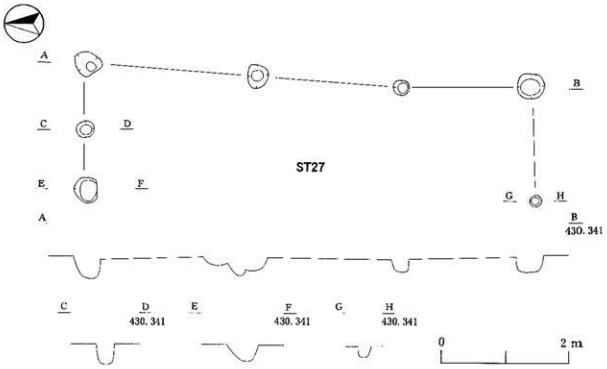
第 74 図　24 号掘立柱建物跡



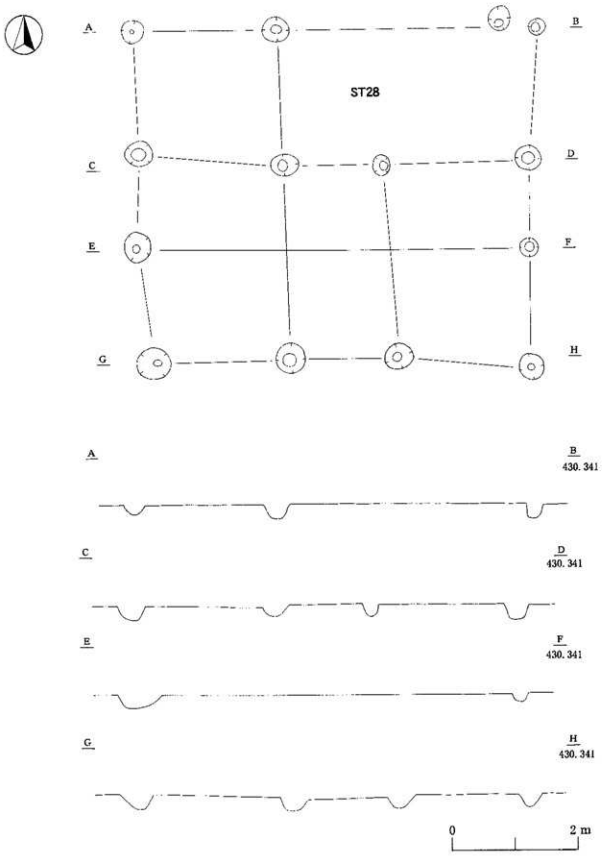
第 75 図　25 号掘立柱建物跡



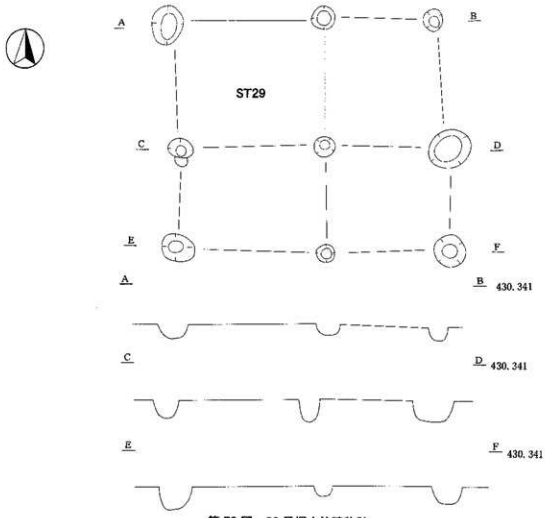
第 76 図　26 号掘立柱建物跡



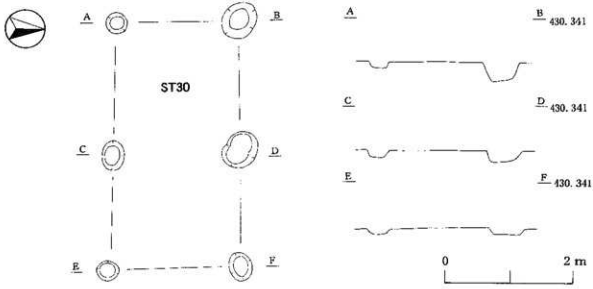
第 77 図　27 号掘立柱建物跡



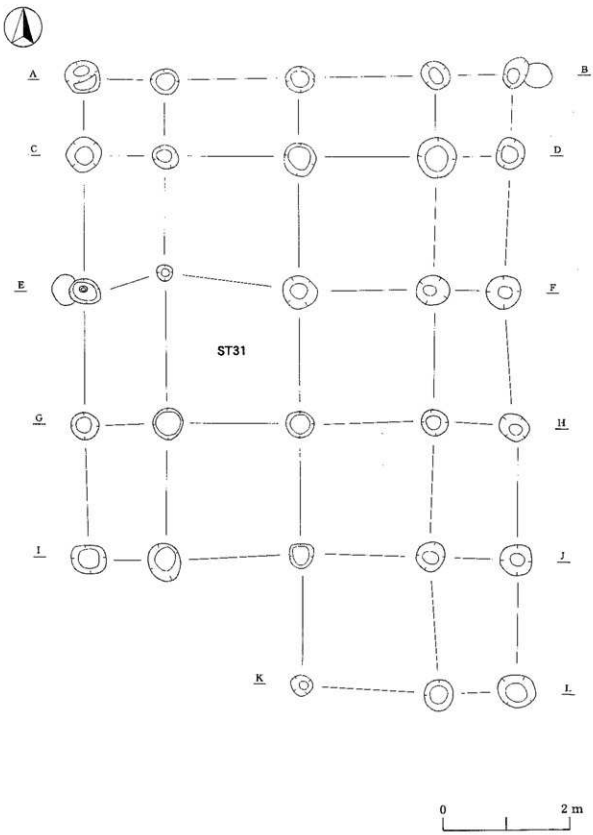
第 78 図　28 号掘立柱建物跡



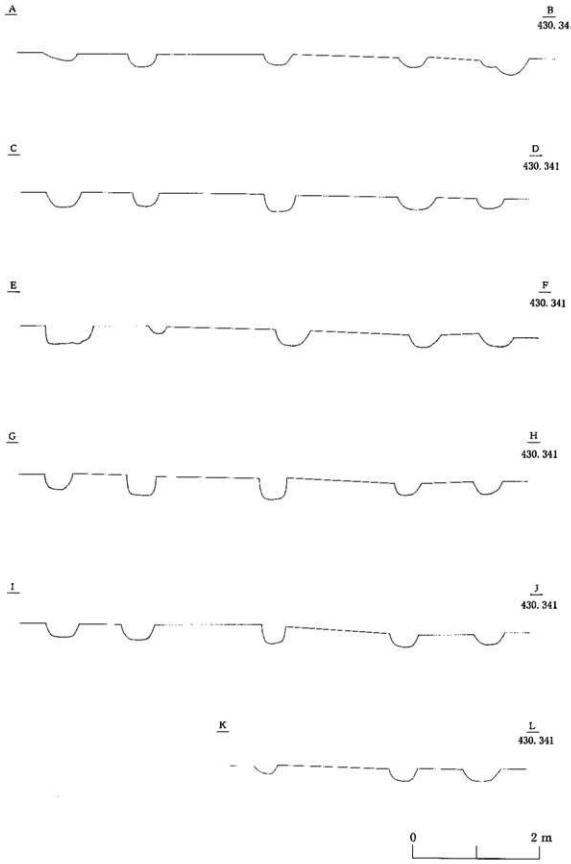
第 79 図　29 号掘立柱建物跡



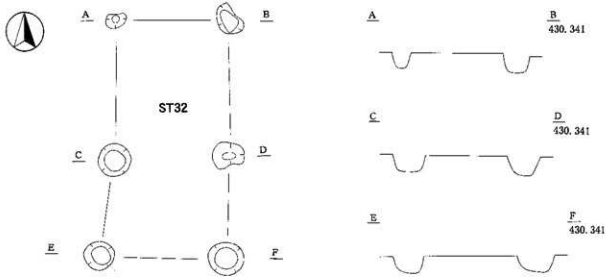
第 80 図　30 号掘立柱建物跡



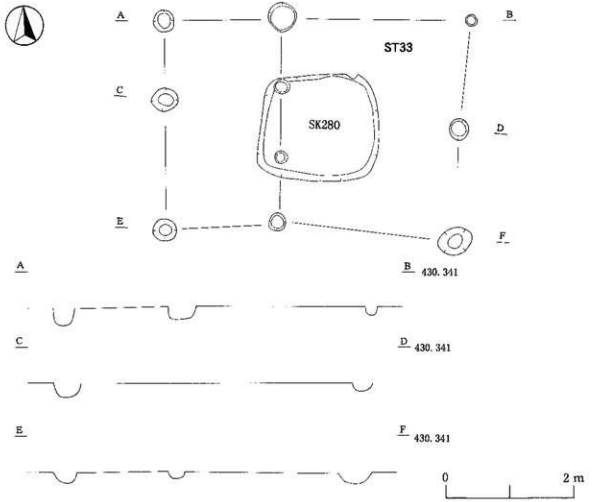
第 81 図　31 号掘立柱建物跡 ①



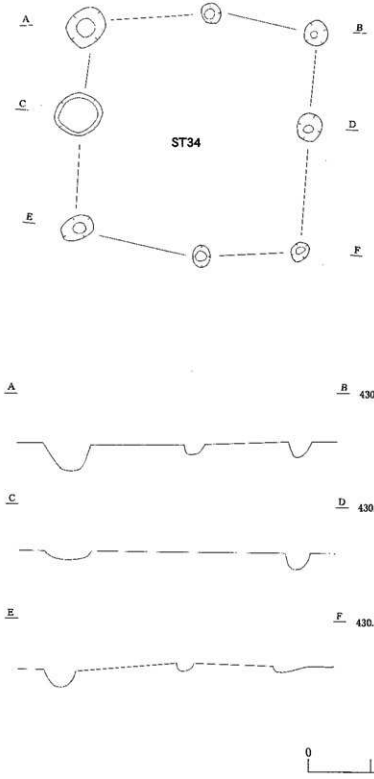
第82図　31号掘立柱建物跡 ②



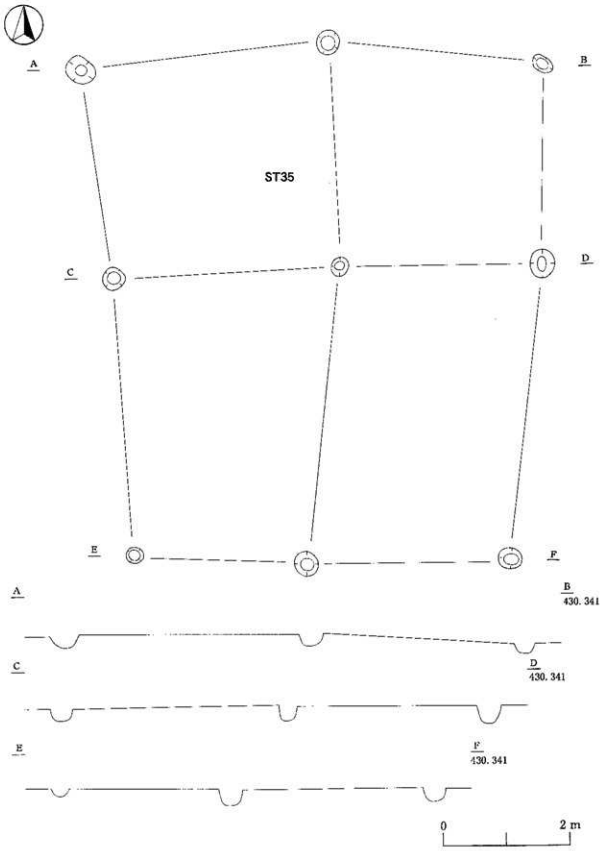
第 83 図　32 号掘立柱建物跡



第 84 図　33 号掘立柱建物跡

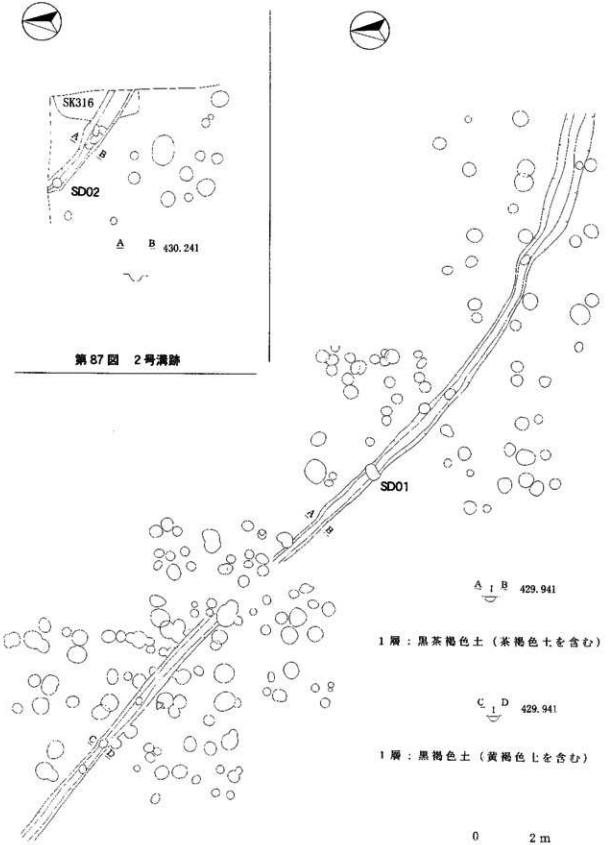


第85図　34号掘立柱建物跡

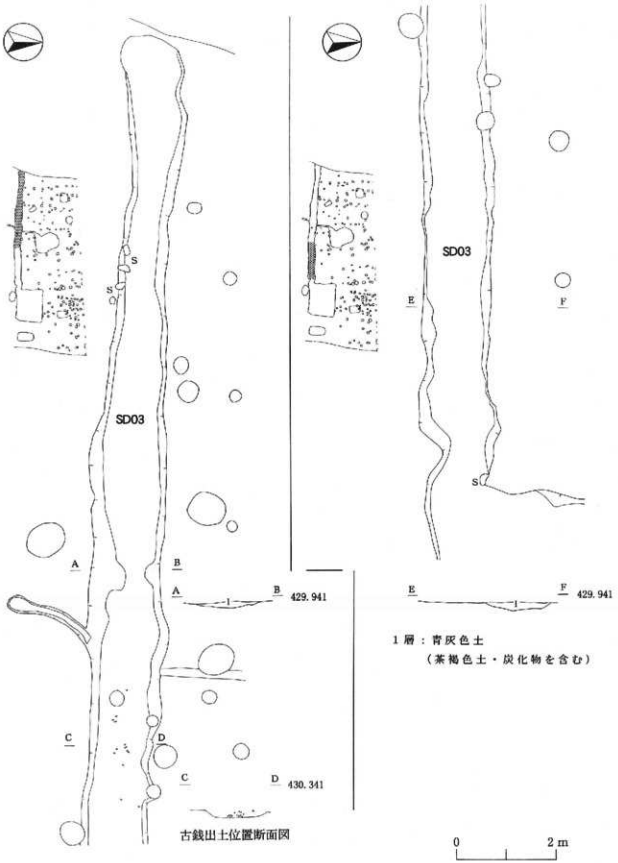


第 86 図　35 号掘立柱建物跡

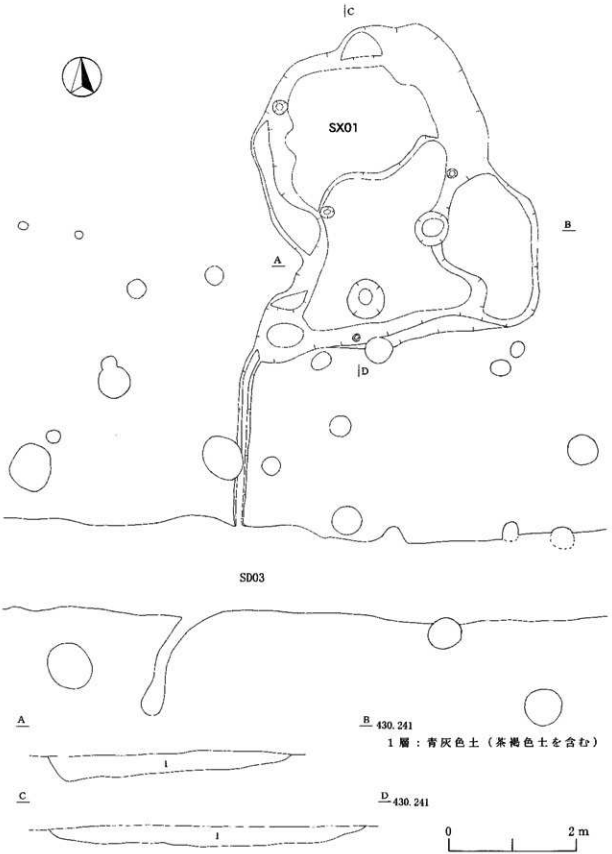
第87図　2号溝跡



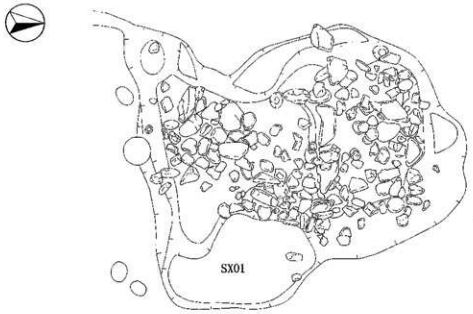
第88図　1号溝跡


SD03
S
A
B
A
B
429.941
C
D
C
D
430.341
古銭出土位置断面図
SD03
E
F
S
E
F
429.941
1層：青灰色土
（茶褐色土・炭化物を含む）
0
2m

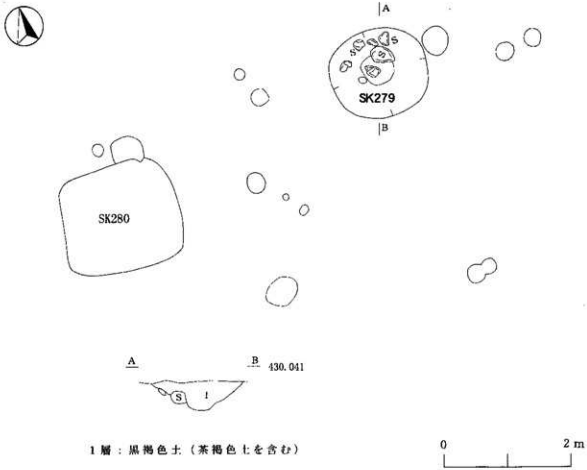
第89図　3号溝跡



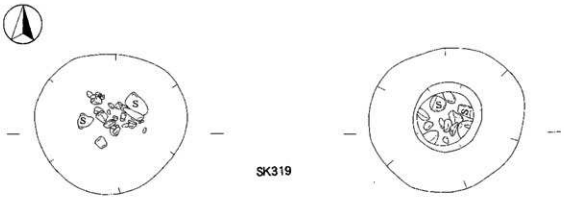
第90図　池状遺構跡

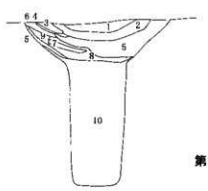


第 91 図　池状遺溝礫出土状況



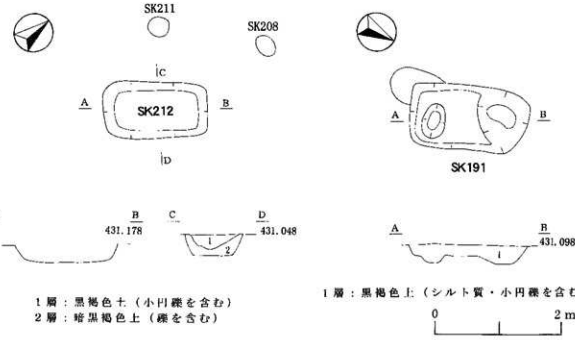
第 92 図　土　坑（SK279）



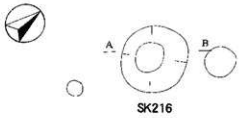


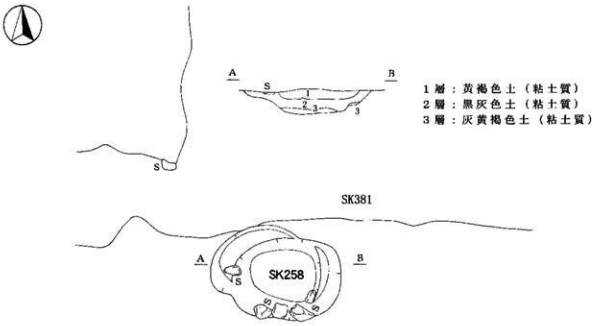
1層：黒灰色土（炭化物・茶褐色土を含む）
2層：暗黒灰色土（茶褐色土を含む）
3層：茶褐色土（黒灰色土を含む）
4層：茶褐色土（黒灰色土・茶褐色土を含む）
5層：黒灰色土（茶褐色土・礫を多く含む）
6層：黒灰色土（茶褐色土を含む・5層よりも薄い）
7層：黄褐色土（黒灰色土を多く含む）
8層：黄褐色土（茶褐色土を含む）
9層：黒灰色土（5・10層よりも白い）
10層：黒灰色土

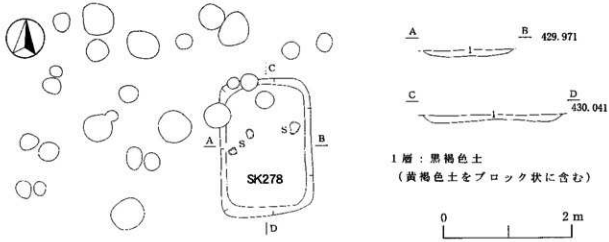
第93図　井戸跡（SK319）



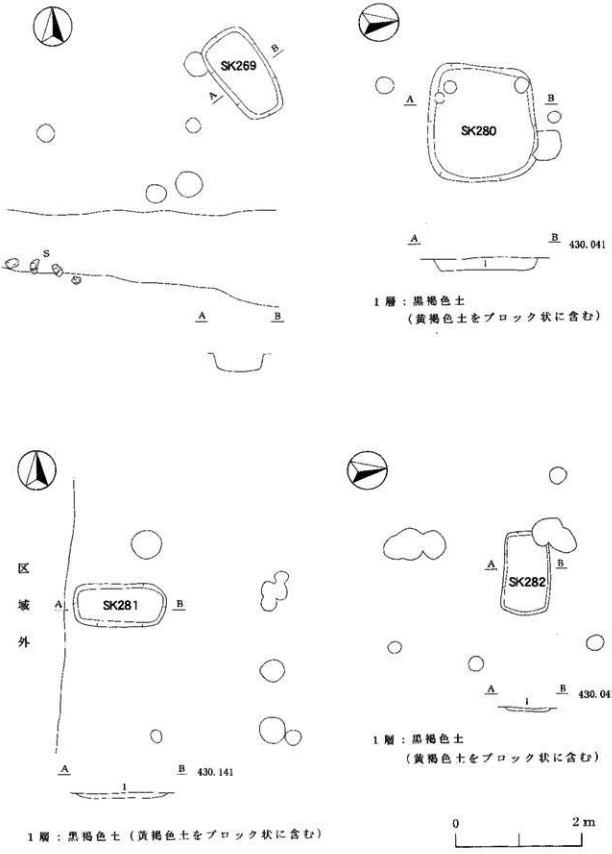
第94図　土坑（SK191、SK212）



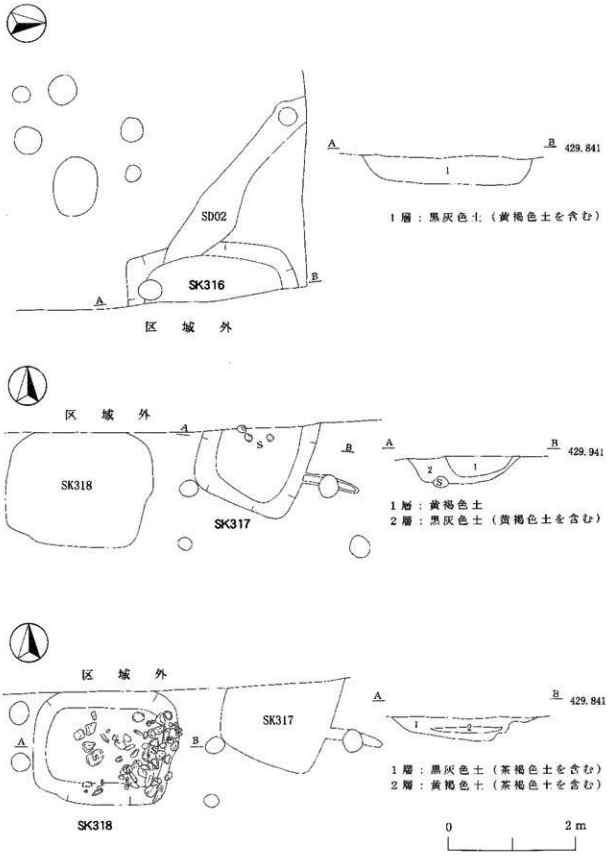




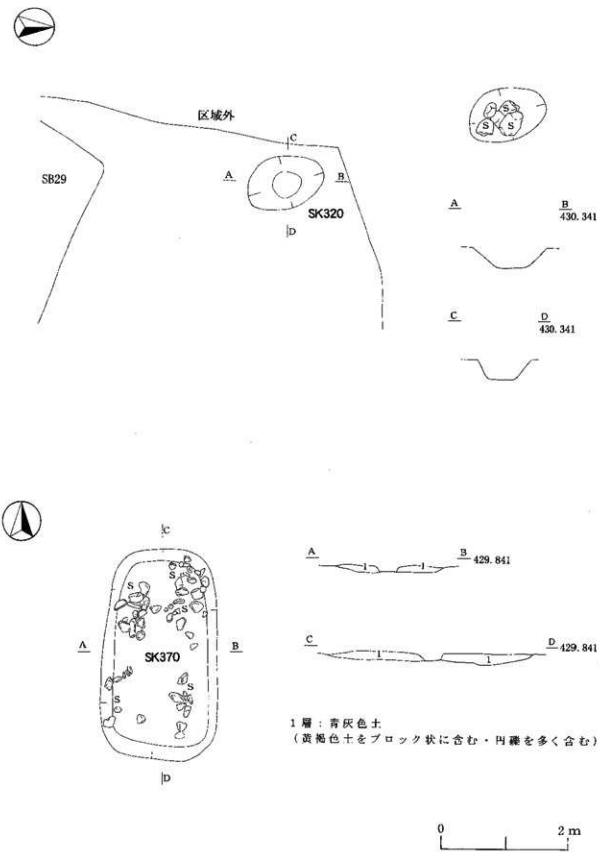
第95図　土坑（SK216、SK258、SK278）



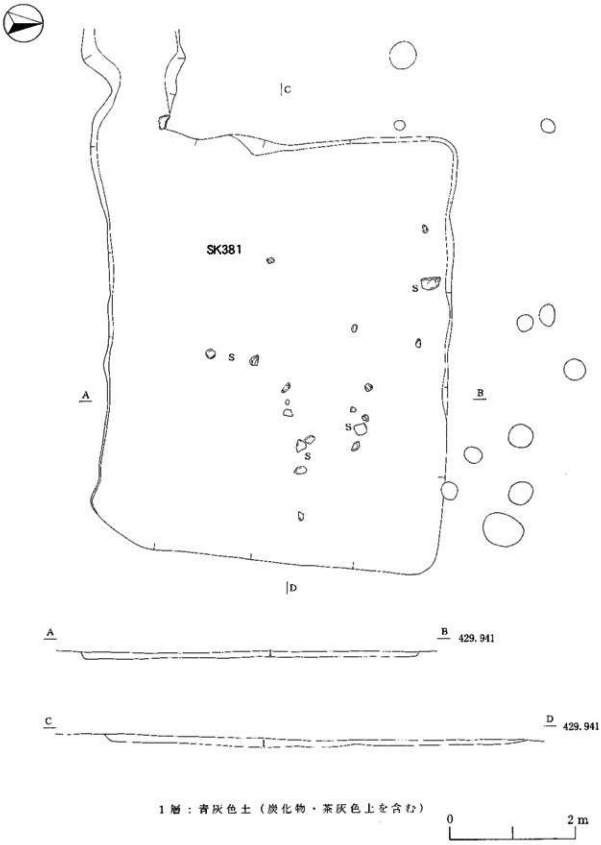
第96図　土坑（SK269、SK280、SK281、SK282）



第 97 図　土坑（SK316、SK317、SK318）



第98図　土坑（SK320、SK370）



第99図 土 坑 (SK381)

遺構観察表

竪穴住居（ＳＢ）

No	時　期	平面形	主軸方向	炉又はカマド	柱穴	その他の屋内施設	出土遺物
1	古墳（初頭）	（方　形）	N-28°-W	地床炉	(1)		1～7・533・588
2	古墳（前期）	方　形	N-28°-E	不明	4		8～18・555・556・606
3	弥生（後期）	（方　形）	N-5°-E	不明	(1)		19～39・563・564・570・601
4	弥生（後期）	長方形	N-83°-E	地床炉（中央部やや北寄り）	不明		56～66
5	弥生（後期）	不　明	N-8°-W		(2)		67～94・656・660
6	古墳（初頭）	長方形	N-25°-W		(2)		95～143・537・538・589・644・661
7	平安（後期）	方　形	N-11°-E	カマド（南壁の東隅）	4		144～157・575・646・649
8	奈良（前期）	方　形	N-40°-E	不明	4		158～169・535
9	奈良（後期）	方　形	N-8°-E	カマド（北壁の中央やや東寄り）	4		170～177
10	古墳（前期）	方　形	N-51°-W	不明	不明		178
11	古墳（後期）？	長方形	N-55°-E	不明	(2)		179・573
12	古墳（前期）	（方　形）	N-14°-W	不明	不明		180～191・540・541
14	弥生（後期）	長方形	N-25°-W	不明	4		192～206・559・591
15	古墳（後期）	長方形	N-18°-E	不明	不明		207～221・536・604
16	弥生（後期）	長方形	N-107°-E	不明	4		222～242・539・576
17	平安（前期）	長方形	N-90°-E	カマド（北壁のほぼ中央）	(2)	南西隅に周溝	243～245
18	奈良（後期）	方　形	N-104°-E	カマド（北壁の中央から東寄り）	4		246～251
19	古墳（初頭）	長方形	N-60°-E	不明	(3)		252～260
20	弥生（後期）	長方形	N-48°-W	不明	(2)		
21	不明	方　形	N-48°-W	不明	不明		
22	弥生（後期）	長方形	N-6°-W	地床炉（北側の柱穴間）	4		261～297・542・574・605・610・619
23	奈良（前期）	方　形	N-20°-E	不明	4	北壁際に焼土	298～301
24	奈良（前期）	方　形	N-2°-W	カマド（北壁の中央）		カマド右側に土坑をもつ	302～307・602・612・616

No	時　期	平面形	主軸方向	炉又はカマド	柱穴	その他の屋内施設	出土遺物
25	弥生（終末）	不　明	N-28°-W	不明	不明		308～311・658
26	古墳（初頭）	不　明	N-44°-E	不明	(1)		312～318・562・590
27	弥生（後期）？	不　明	N-66°-E	不明	不明		
28	奈良（前期）	長方形	N-22°-E	不明	2		319～324・565・608
29	弥生（終末）	方　形	N-23°-E	地床炉（西側柱間）	4		325～327・580・611
30	古墳（初頭）	方　形	N-62°-E	不明	4		328～342・543～545
31	古墳（前期）	不　明	N-32°-W	不明	不明		343～345・584
32	弥生（後期）	長方形	N-38°-W	不明	(2)		346～348・647
33	平安	不　明	N-14°-E	不明	不明		349
34	古墳（初頭）	不整長方形	N-27°-W	不明	不明		350～353
35	弥生（後期）	不　明	N-22°-E	不明	不明		354～358
36	弥生（後期）	不　明	N-8°-W	（地床炉）	不明	5層までは住居の覆土	359～412・532・544・546・547・566・596・620・648・659・662
37	古墳（初頭）	（方　形）	N-5°-W	不明	不明		413～465・577・593・657

掘立柱建物（ＳＴ）

No	時　期	規　模	主軸方向	柱の数	備　考
1		2間×2間	N-23°-E	(9)	総柱
2		不　明	N-26°-W	(4)	
3		1間×2間	N-24°-W	6	
4		2間×2間	N-6°-E	8	
5		2間×3間	N-16°-W	(10)	
6		2間×3間	N-65°-W	(10)	
7		2間×2間	N-42°-W	(6)	
8		3間×5間	N-40°-E	(16)	
9		2間×1間	N-57°-W	6	
10		2間×4間	N-50°-W	(12)	
11		1間×2間	N-28°-W	6	
12		1間×1間	N-111°-W	4	
13		1間×2間	N-44°-W	6	

No	時　期	規　模	主軸方向	柱の数	備　　考
14		3間×	N-96°-W	(6)	
15		2間×	N-10°-W	(5)	
16		3間×	N-38°-E	(10)	
17	中　世	2間×2間	N-1°-E	9	総柱
18	中　世	1間×1間	N-6°-E	4	
19	中　世	2間×3間	N-94°-E	12	総柱
20	中　世	3間×2間	N-6°-W	12	総柱
21	中　世	2間×	N-3°-E	(9)	
22	中　世	1間×1間	N-6°-W	4	
23	中　世	2間×3間	N-3°-W	12	
24	中　世	4間×2間	N-89°-E	(14)	総柱
25	中　世	2間×	N-86°-E	(3)	
26	中　世	1間×1間	N-91°-E	4	
27	中　世	3間×	N-3°-E	(6)	
28	中　世	3間×3間	N-91°-E	(14)	総柱
29	中　世	2間×2間	N-89°-E	9	総柱
30	中　世	2間×	N-0°	(6)	(総柱)
31	中　世	(4間×4間)	N-90°-E	(28)	総柱
32	中　世	2間×	N-91°-E	(6)	(総柱)
33	中　世	2間×2間	N-92°-E	10	SK280を伴う。
34	中　世	2間×2間	N-96°-E	8	
35	中　世	2間×2間	N-2°-E	9	SK278を伴う可能性がある。

柵列（SA）

No	時　期	規　模	主軸方向	柱の数	備　　考
1	中　世	6間	N-3°-E	7	L字状に配列される。

溝（SD）

No	時　期	断 面 形	備　　考	出土遺物
1	古墳～奈良	V字状	SK316に切られる。	471～472・572
2	古墳～奈良	U字状	一部はトレンチにより破壊。	473
3	中　世	皿状	古銭を出土する。	592・595・621～638

その他（ＳＸ）

No	時　期	平　面　形	備　　考	出土遺物
1	中　世	不整方形	人頭大の石が投げ込まれている。	466～470・615・639

土坑（ＳＫ）

No	時　期	平面形	備　　考	出土遺物
１９１	中　世	不整長方形	骨片等の遺物は出土していない。	
２１２	中　世	隅丸長方形	骨片等の遺物は出土していない。	
２１６	中　世	円　形		
２５８	中　世	楕円形	人頭大の礫をもつ。	
２６９	中　世	隅丸長方形	骨片等の遺物は出土していない。	
２７８	中　世	隅丸長方形	骨片等の遺物は出土していない。	
２７９	中　世	円　形	人頭大の礫をもつ。井戸？	486
２８０	中　世	隅丸方形		
２８１	中　世	隅丸長方形		
２８２	中　世	隅丸長方形		
３１６	中　世	隅丸長方形		
３１７	中　世	隅丸長方形		488
３１８	中　世	隅丸長方形		489～491
３１９	中　世	円　形	井戸	492・493
３２０	中　世	円　形	人頭大の礫が投げ込まれている。	
３７０	中　世	隅丸長方形	拳大の礫が投げ込まれている。	
３８１	中　世	隅丸長方形	拳大の礫が少し投げ込まれている。比較的、浅くて広い。	

第三節　遺　物

遺物は土器・陶磁器・石器・金属器・土製品などが出土している。その所属時期から①弥生時代後期から古墳時代初頭の遺物②古墳時代前期の遺物③奈良時代の遺物④平安時代の遺物⑤中世の遺物⑥その他の遺物（縄文時代・弥生時代前期）に分けることができる。

①弥生時代後期から古墳時代初頭

当該期の遺物は、土器・石器・金属器・土製品などが出土している。弥生時代後期の土器は、「箱清水式土器」と呼ばれている。甕の器面に櫛描波状文を施し、壺や鉢などに赤色塗彩を施すことを特徴としている。また、弥生時代終末から古墳時代初頭の土器は千曲川流域では「御屋敷式土器」と呼ばれている。甕の器面に櫛描波状文を施し、壺や鉢などに赤色塗彩を施すことを特徴としていることは「箱清水式土器」と同様であるが、胴部が球形状にふくらみをもつ。また、器種構成の上では外来系の土器であるS字口縁の台付甕をもつようになる。北陸系の土器なども多く出土している。

弥生時代後期の土器は、SB04・14・16・22・32・35などから出土している。これらは、在地系の箱清水式土器の器種構成を守っている。

弥生時代終末から古墳時代初頭の土器は、SB01・03・05・06・19・25・26・29・30・34・36・37などから出土している。所謂、外来系の土器が在来系の土器と共に多くみられる。東海系の土器には、S字口縁の台付甕（2・14・73・417）・壷（319）・高坏（436～438）・器台（339）などがある。北陸系の土器には、口縁部を面取りした甕（28・41・74・102・106・108）・口縁部が直立する甕（425）・壷（77）・広口壷（125）・器台（34）などが目立つ。その他にも、在地系でない土器や在地系と外来系の特徴を合わせ持った土器がみられる。

石器では、石包丁（537～549）・石鏃（561）・凹石（563・564・566）・磨石（589～591・605・608・610・611）・敲石（562・570）・砥石（576・580）などが出土している。石包丁は、浦田A遺跡の状況と似ており、製作途中のものも出土している。石材となる頁岩も稜土中にみられ、石包丁を製作していたことが推測される。原石の採集場所は、遺跡の下を流れる浦野川の対岸の城山山系の露頭と思われる。また、SB36からは管玉も出土している。

土製品では、土製スプーン（655）・土製円盤（658・659）・紡錘車（656・657）・土製勾玉（661）が確認されている。勾玉には赤色塗彩が施されていた。

鉄器では、鑿（648）・棒状鉄製品（644）・不明鉄製品（647）が出土している。鑿は、刃先が片刃となっている。当該期での東日本の類例は聞かない。不明鉄製品は、鉄製で袋状のものの中に刀子の刃先の様なものが入った状態で出土している。

②古墳時代前期

当該期の遺物は、土器・石器などがSB10・12・31から出土している。土器は、箱清水式系の土器が消滅した段階で、ハケ甕を中心とした器種構成に変わっている。石器は台石（584）がある。

③奈良時代

当該期の遺物は、SB08・09・15・17・18・24・28などから出土している。土器の製作技法及び形態から3時期に分けることができる。SB15の出土土器は8世紀第一四半期頃、SB08・09・24・28のものは8世紀第二四半期頃、SB18のものは8世紀第三四半期頃と考えられる。土師器の坏は、底部が丸底から平底に変化する過程を示している。

④平安時代

当該期の遺物は、ＳＢ０７・２３・３３などから出土している。土師器の製作技法及び形態から出土土器は１０世紀第四四半期の様相を呈している。ＳＢ０７では、土師器の皿が多く出土している。１４８・１４９はカマド祭祀に使用されたと思われる。１４８で蓋をした１４９の中に炭化物が納められていた。その他の皿（１５０～１５３）・坏（１４７）もカマド付近から出土しており、同様の祭祀行為に使用されていた可能性がある。また、ＳＢ０７からは刀子も出土している。

⑤中世の遺物

中世の遺物には、土師器・瓦質土器・須恵質土器・陶磁器・石製品・金属・木材などが出土している。これらはかなり多く出土しているが、破片が多く図示できたのはわずかであった。中世の土師器は、かわらけと呼ばれるような土師質の皿（４８７・４９４・４９６・４９９・５０５）などが出土している。４９６は外面下半をユビオサエで調整している。このようなものは、京都系のかわらけとされている。他のものは、器面が荒れているものもありはっきりしないが在地のかわらけであろう。瓦質土器では、すり鉢（４８９）が一点出土している。口縁部のみの破片であるが、その形態は古い特徴をもつ。須恵質土器では、鉢（４９０）・瓶子（４９３）などが確認されている。在地系の須恵質土器（４９０）と珠洲系のもの（４９３）などがある。陶磁器には、国内のものとしては常滑焼（４７０・４９１・５０１・５０６・５１１）・古瀬戸（図示はできなかったがおろし皿がある）がある。輸入陶磁器には、龍泉窯の青磁（４６８・４６９・４９２・５００・５０７・５０８）がある。碗（４６８・４９２・５００・５０８）・皿（４６９・５０７）・壷形合子（４９２）が確認されている。

石製品では、台石（５８３・５７９・５８７）・砥石（５７８）が出土している。その他に、用途のはっきりしない石製品（５５０・５５１・５５３・５５４・５９９・６００・６１７・６１８）が柱穴の中から出土している。丸石（５５０・５５１・５５３・５５４・５９９・６００）・大きな窪みをもつ石（５６８・５６９）・穴のあいた石（６１７・６１８）がある。柱穴の底に意識的に置かれていると思われる。古銭も同様に柱穴から出土しており、柱を建てる際に意識的に入れた可能性がある。

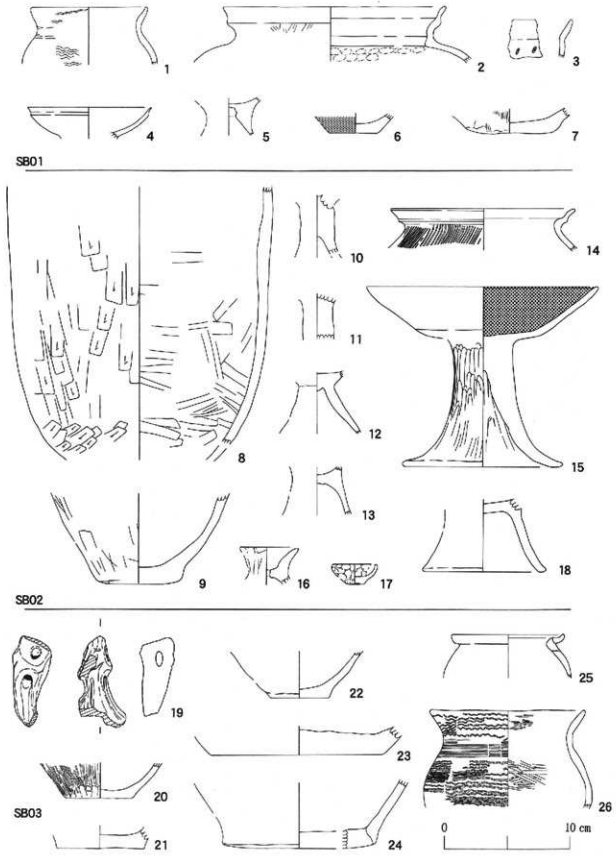
金属では２３枚の古銭（北宋銭）が出土している。１０種類の銭銘が確認できる。「祥符元宝」（初鋳年１００８年）が１枚・「天聖元宝」（初鋳年１０２３年）が２枚・「皇宋通宝」（初鋳年１０３９年）が２枚・「熙寧元宝」（初鋳年１０６８年）が３枚・「元豊通宝」（初鋳年１０７８年）が４枚・「元祐通宝」（初鋳年１０８６年）が１枚・「紹聖元宝」（初鋳年１０９４年）が２枚・「聖宋元宝」（初鋳年１１０１年）が１枚・「大観通宝」（初鋳年１１０７年）が２枚・「政和通宝」（初鋳年１１１１年）が２枚確認できる。その他に銭銘がはっきりしないものが３枚ある。これらを出土状況からみるとⓐＳＸ０１の南に隣接した溝（ＳＤ０３）から１８枚もの古銭が集中して出土している。それに伴うと思われるがＳＸ０１からも１枚出土している。ⓑ掘立柱建物の柱穴からも３枚出土している。また、鉄滓（６５０～６５４）もこの中世の遺構上の覆土から出土している。

井戸（ＳＫ３１９）の中からは木材（薄い板・表皮を剥いで先を手斧で削ってある柄）や種子（ナツメ・もも）が出土している。また、ＳＫ３１８・３６８からも種子（もも）が出土している。

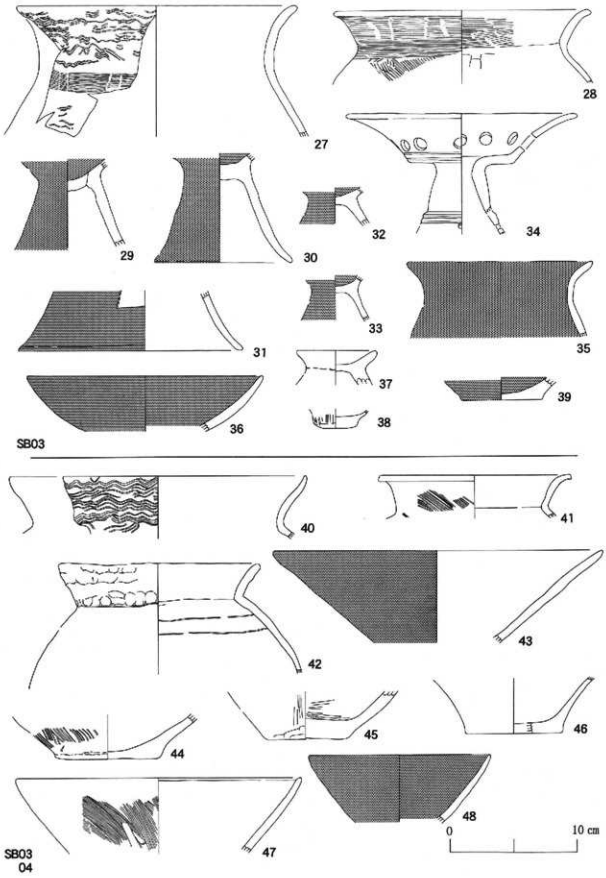
⑥その他（縄文時代・弥生時代前期）

縄文時代の遺物としては、土器では縄文時代後期の土器（１９・９４・１４３）がある。石器としては縄文時代草創期の有舌尖頭器（５３２）や打製石鏃（５３３～５３６）・打製石斧（５５５～５６０）がある。遺構は確認されていないが付近に集落などの遺構のある可能性がある。

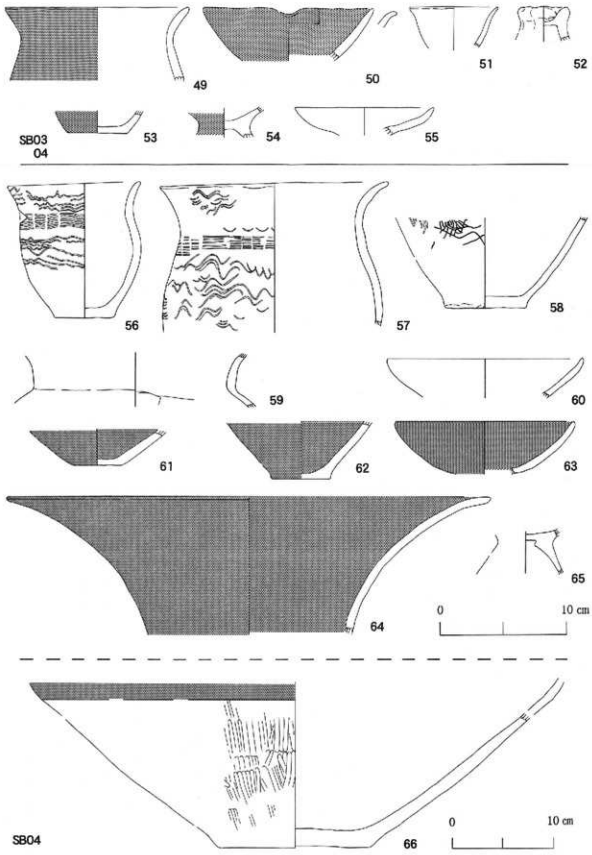
弥生時代前期の遺物としては、土器（５１６～５１８）がある。隣接する浦田Ａ遺跡や上田原遺跡からも同じ時代の土器が出土している。現在までのところ、上小地域の当該期の遺物はこの付近一帯を中心に出土しており、重要な遺跡が付近に存在する可能性がある。



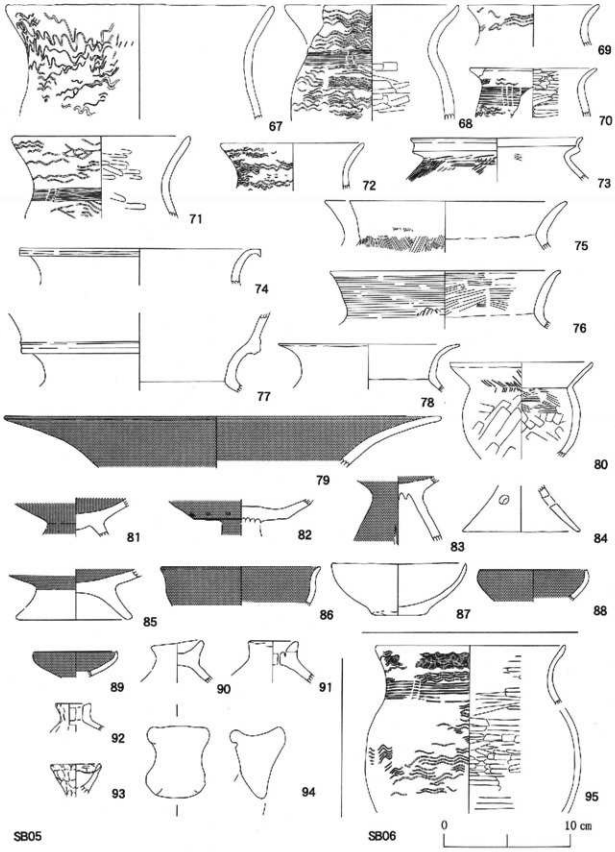
第 100 図　1・2・3 号住居跡出土土器



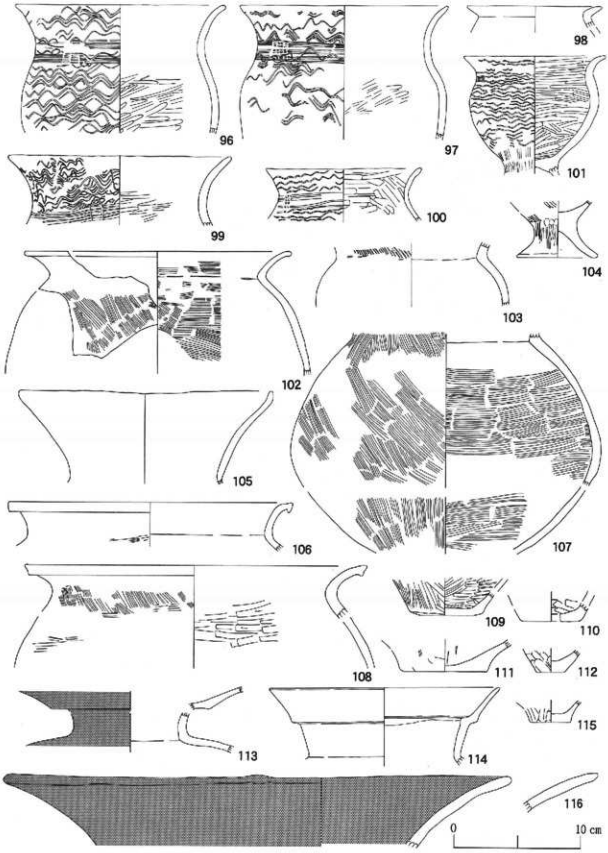
第 101 図　3・4 号住居跡出土土器



第 102 図　3・4 号住居跡出土土器

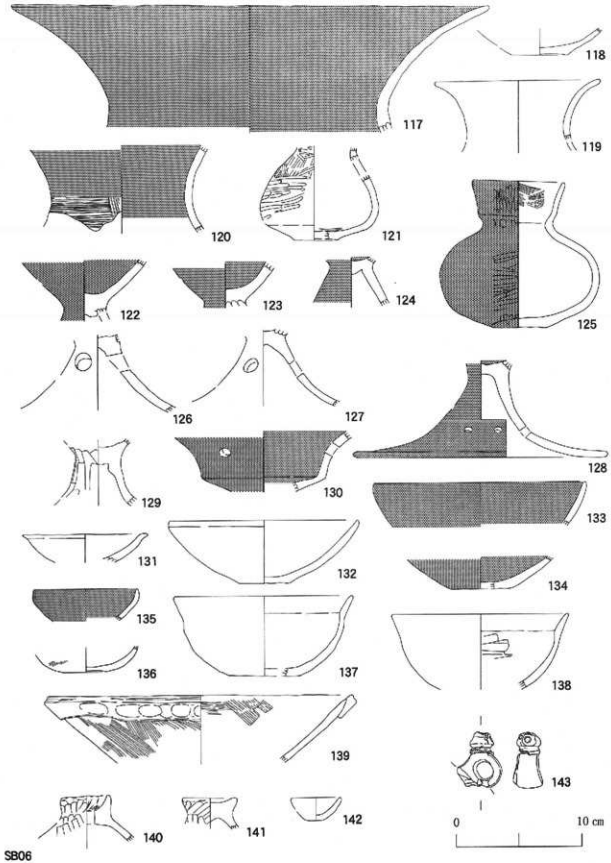


第 103 図　5・6 号住居跡出土土器

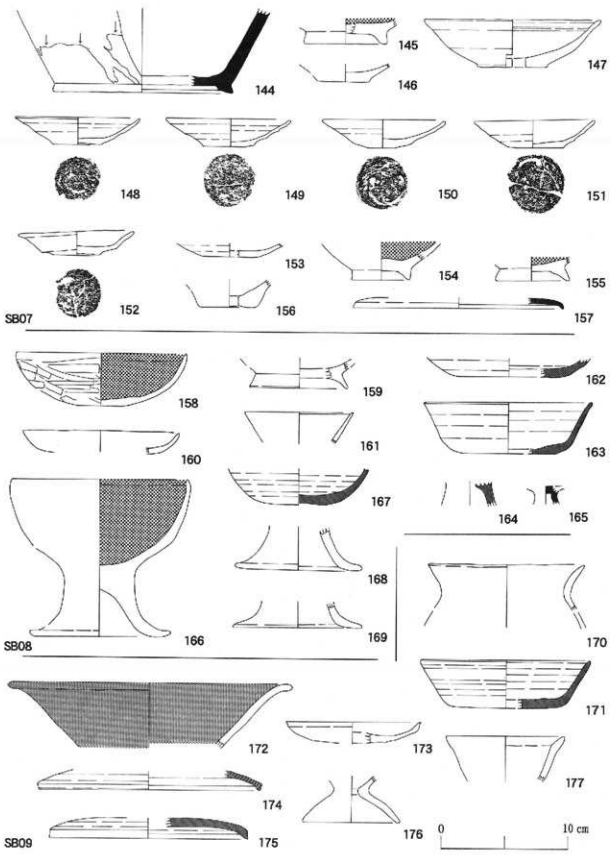


SB06

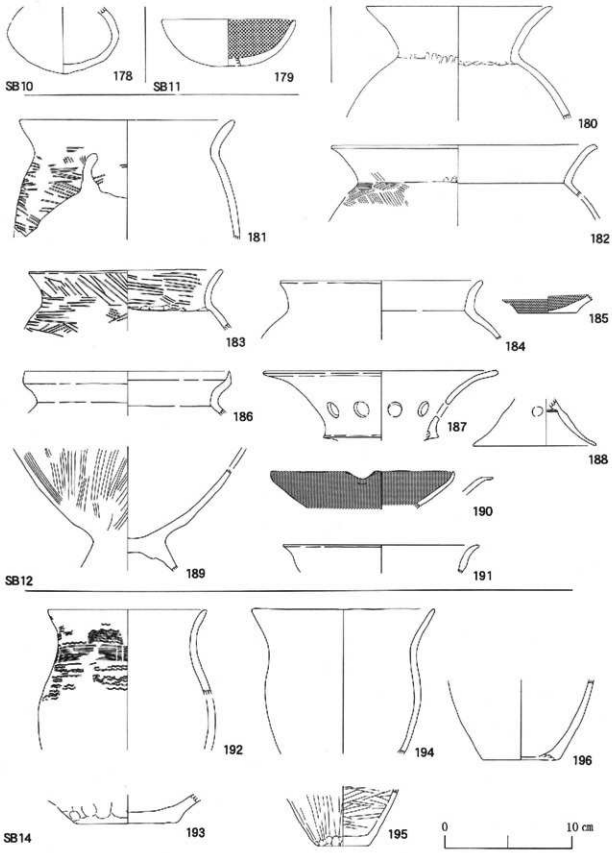
第 104 図　6 号住居跡出土土器



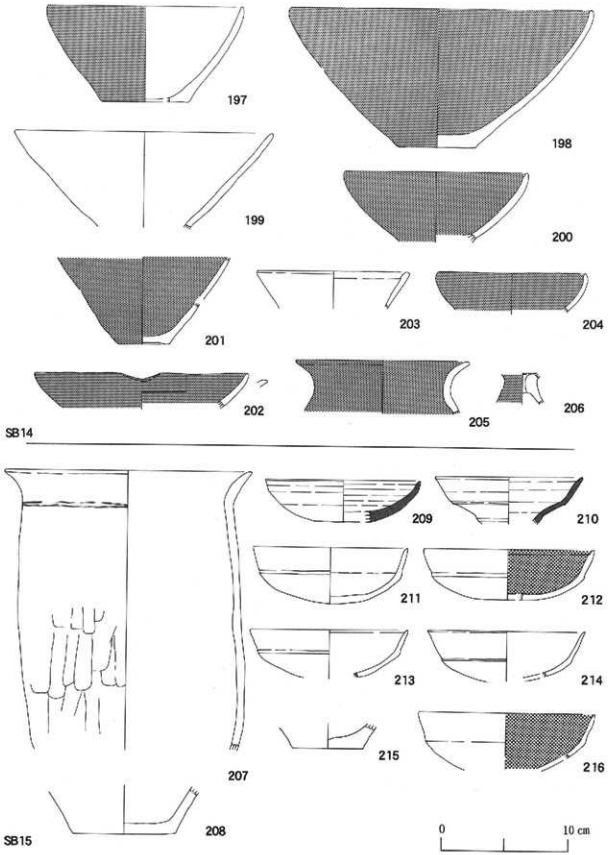
第 105 図　6 号住居跡出土土器



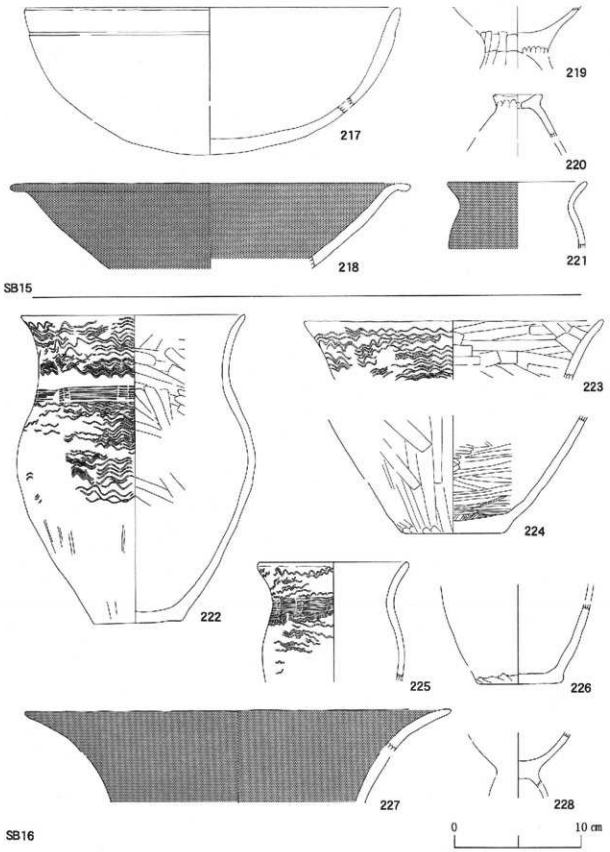
第 106 図　7・8・9 号住居跡出土土器



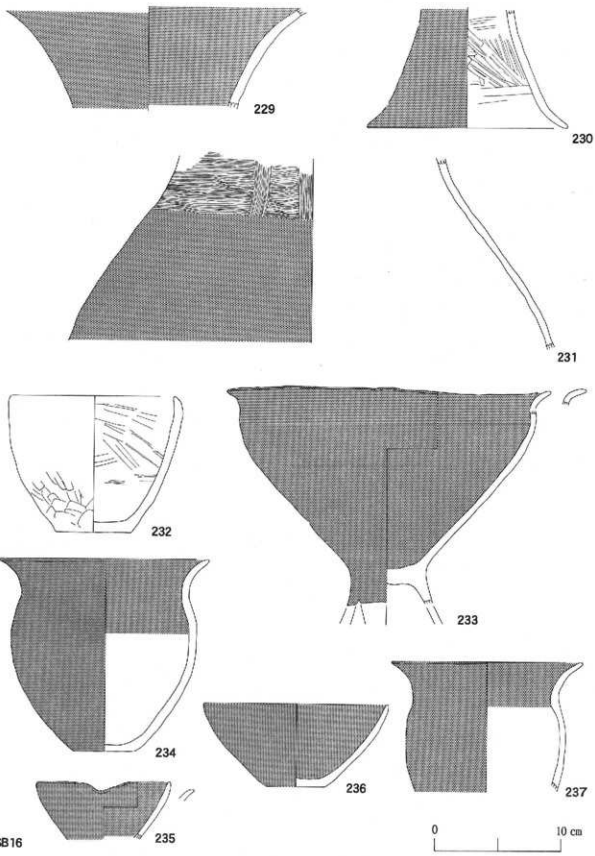
第 107 図　10・11・12・14 号住居跡出土土器



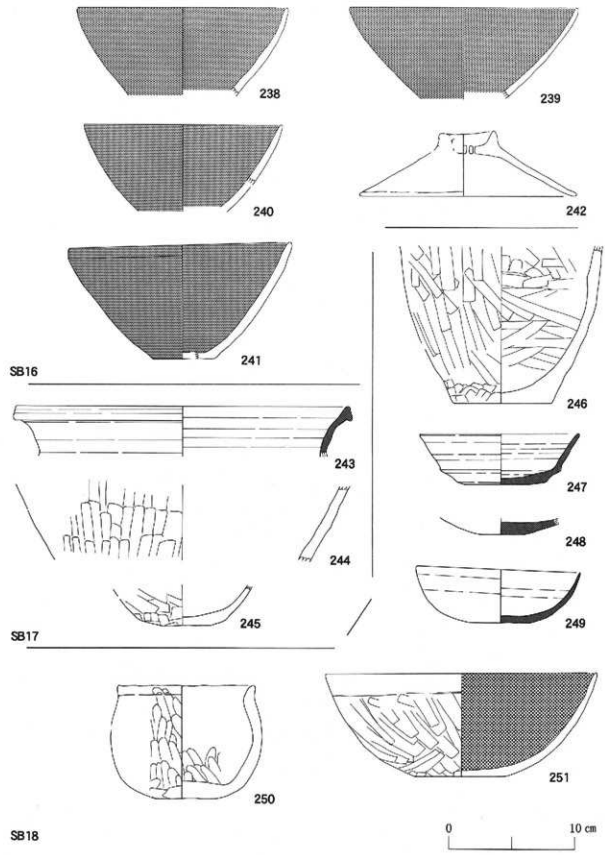
第 108 図　14・15 号住居跡出土土器



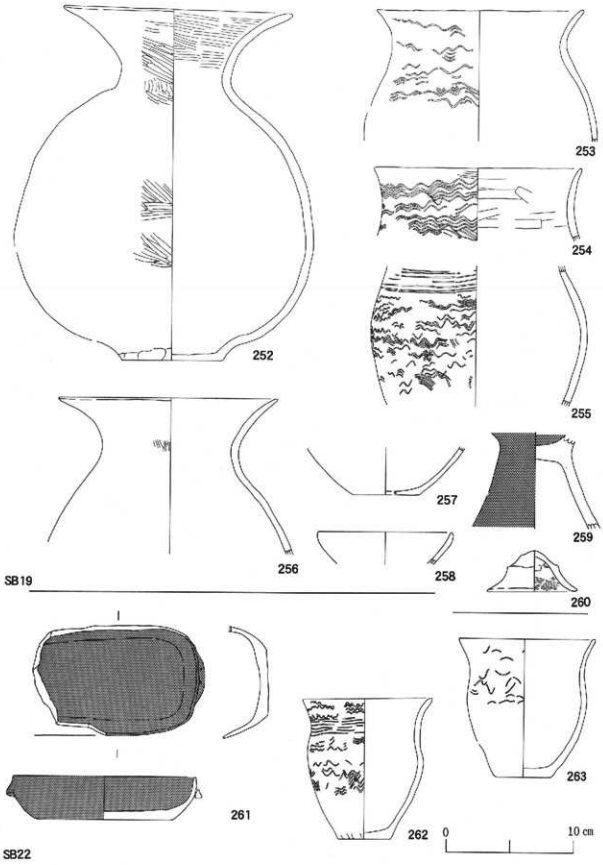
第 109 図　15・16 号住居跡出土土器



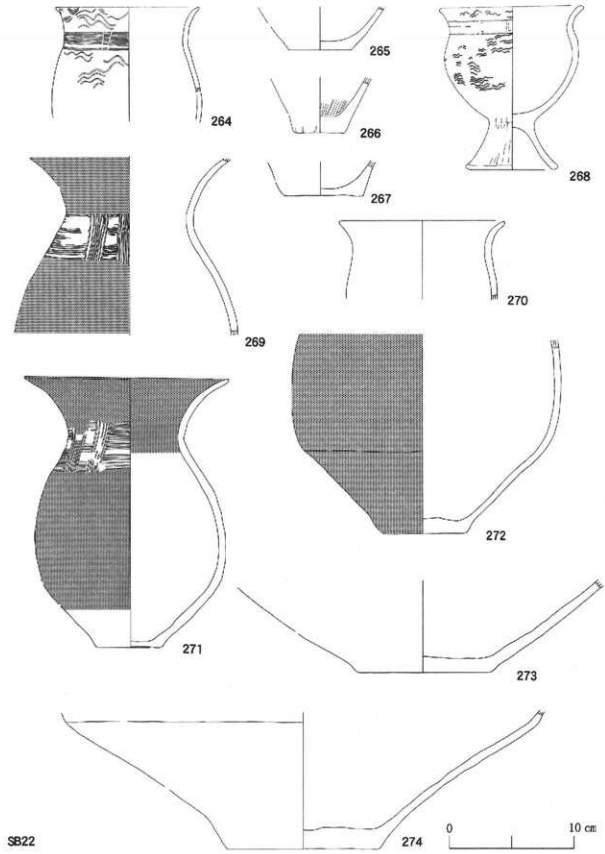
第 110 図　16 号住居跡出土土器



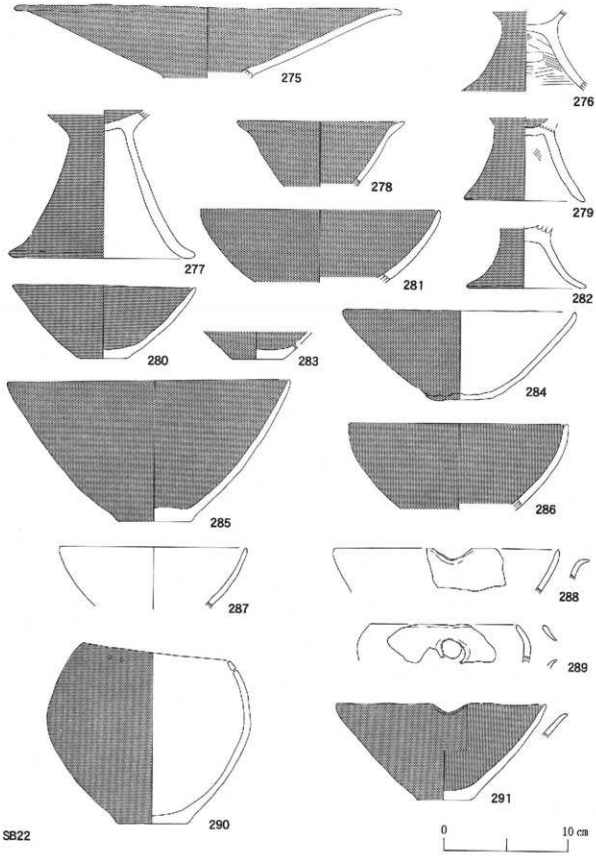
第 111 図　16・17・18 号住居跡出土土器



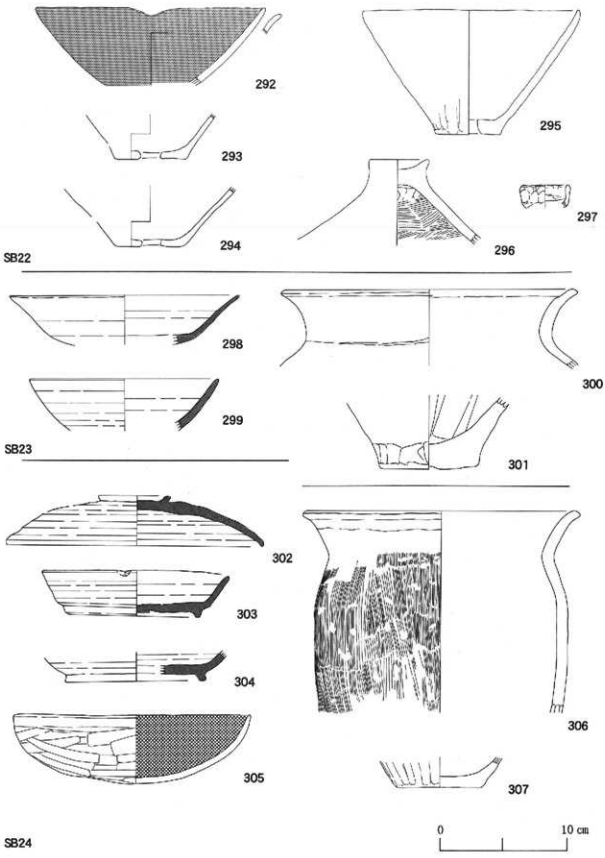
第 112 図　19・22 号住居跡出土土器



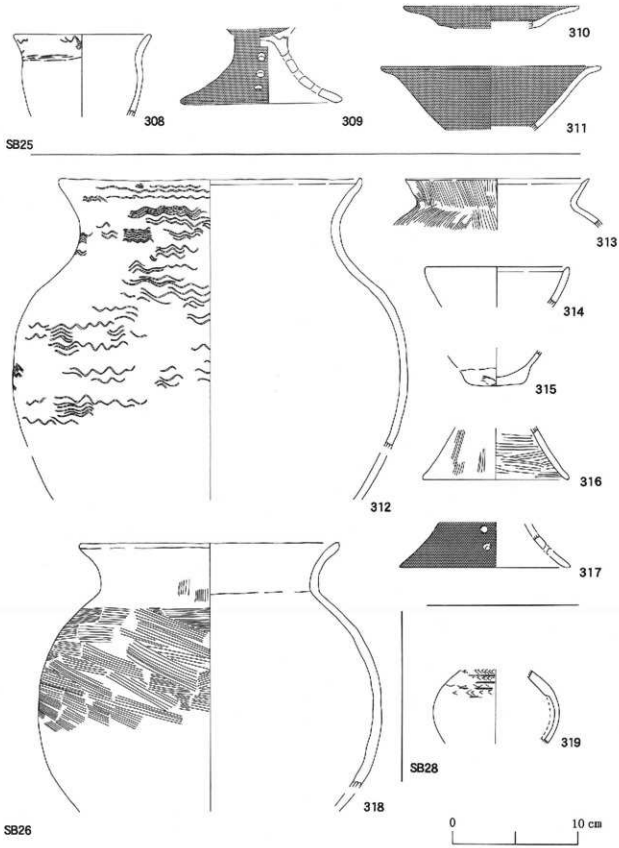
第 113 図　22 号住居跡出土土器



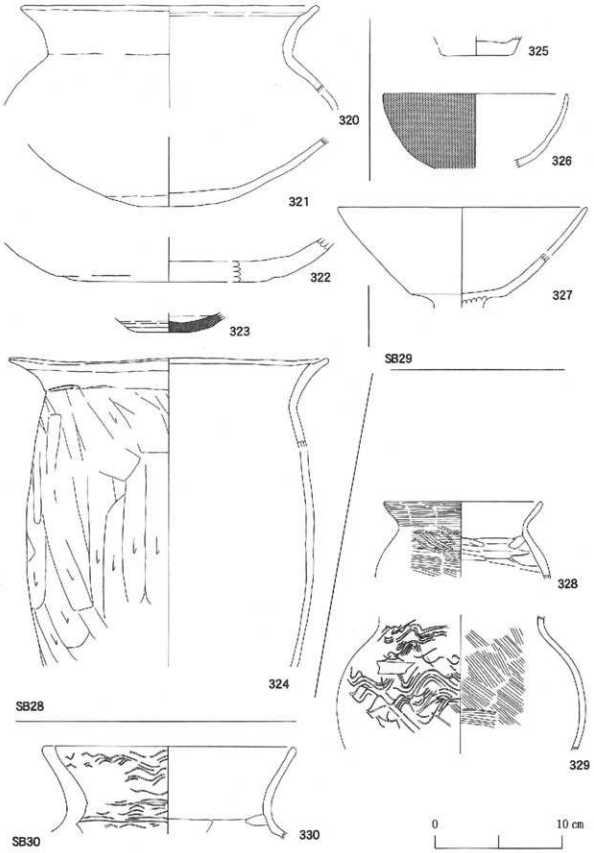
第 114 図　22 号住居跡出土土器



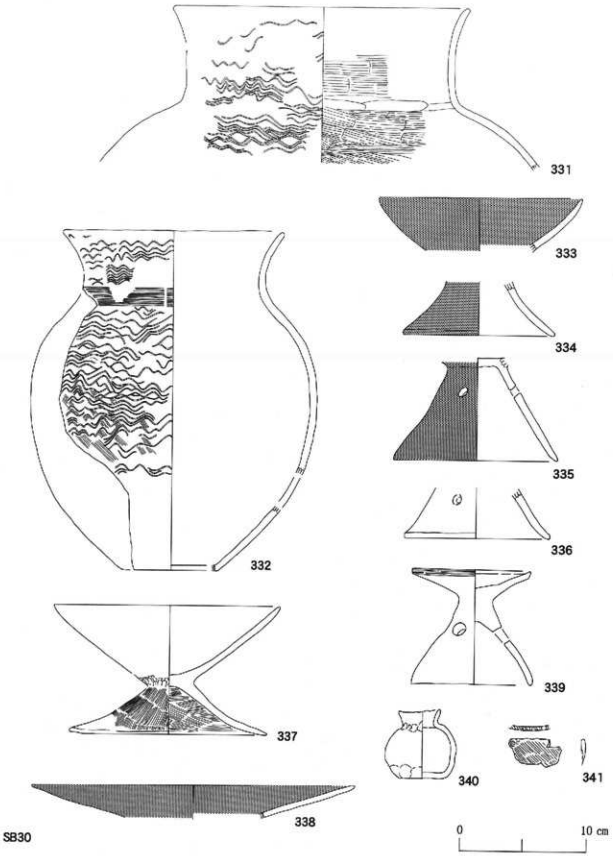
第 115 図　22・23・24 号住居跡出土土器



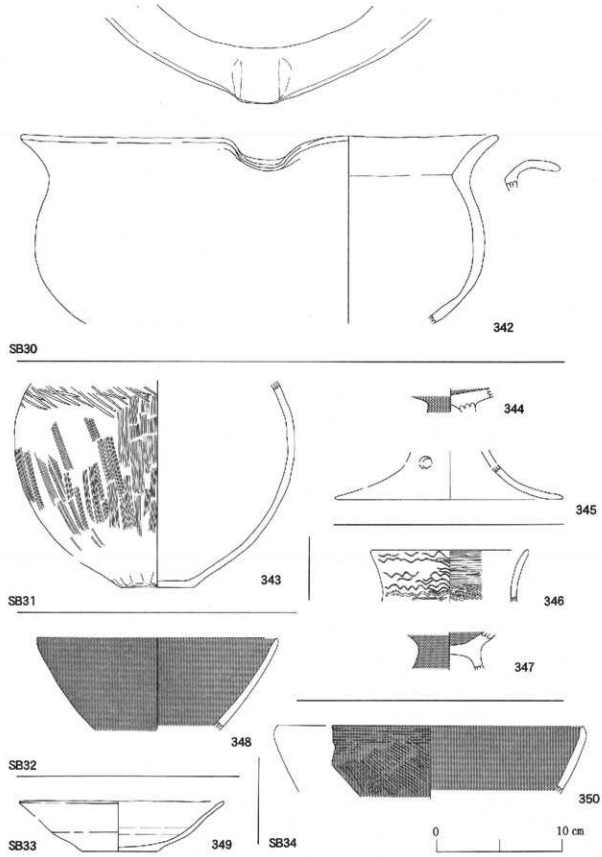
第 116 図　25・26・28 号住居跡出土土器



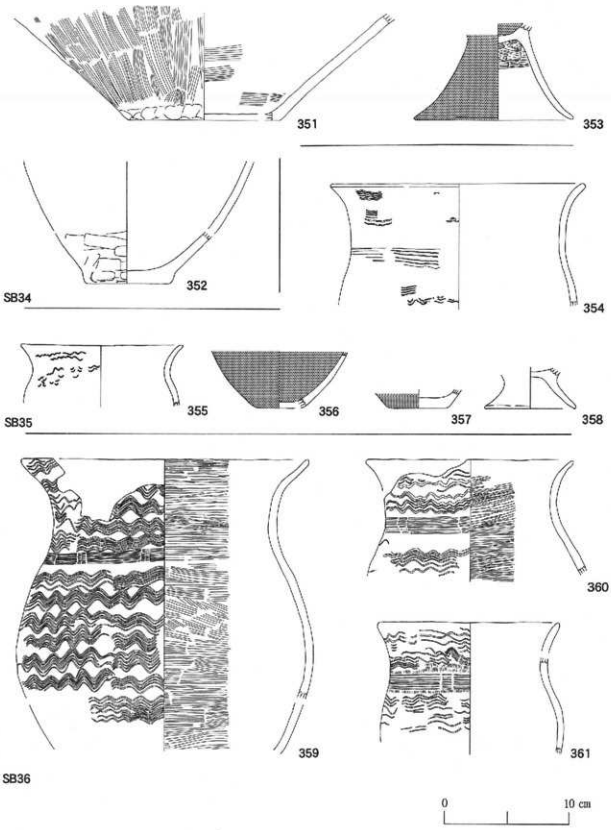
第 117 図　28・29・30 号住居跡出土土器



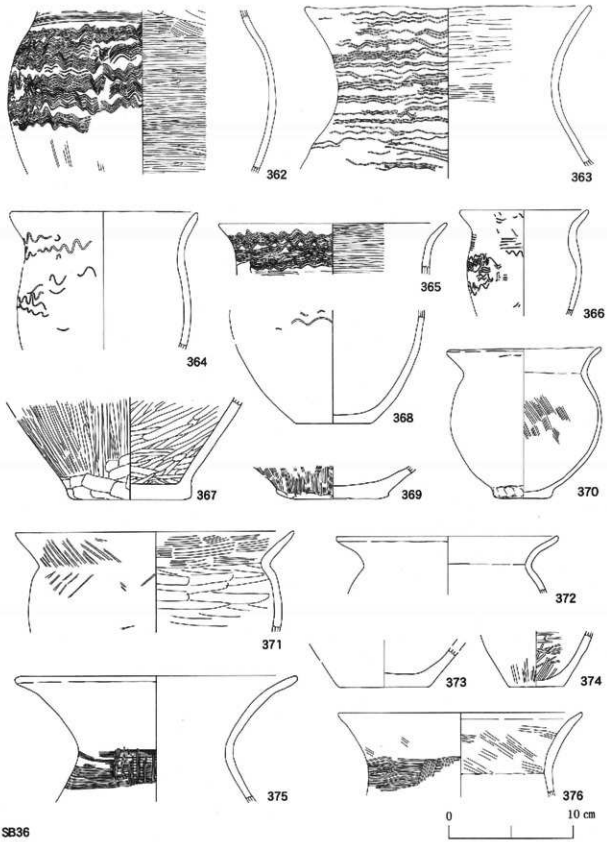
第 118 図　30 号住居跡出土土器



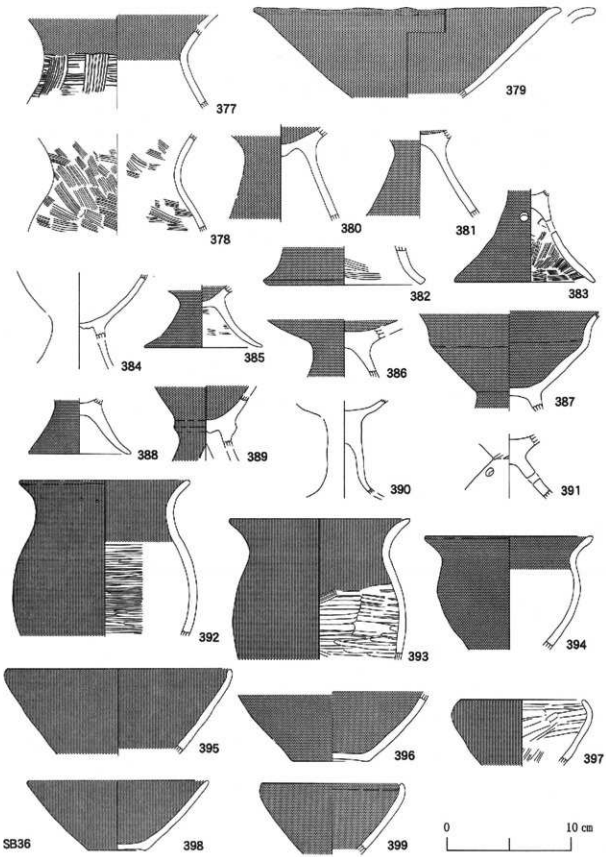
第 119 図　30・31・32・33・34 号住居跡出土土器



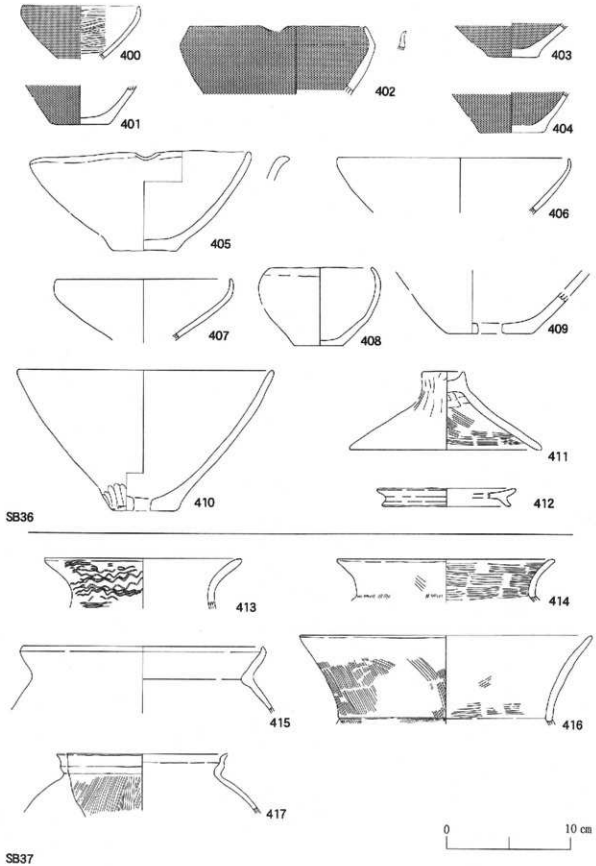
第 120 図　34・35・36 号住居跡出土土器



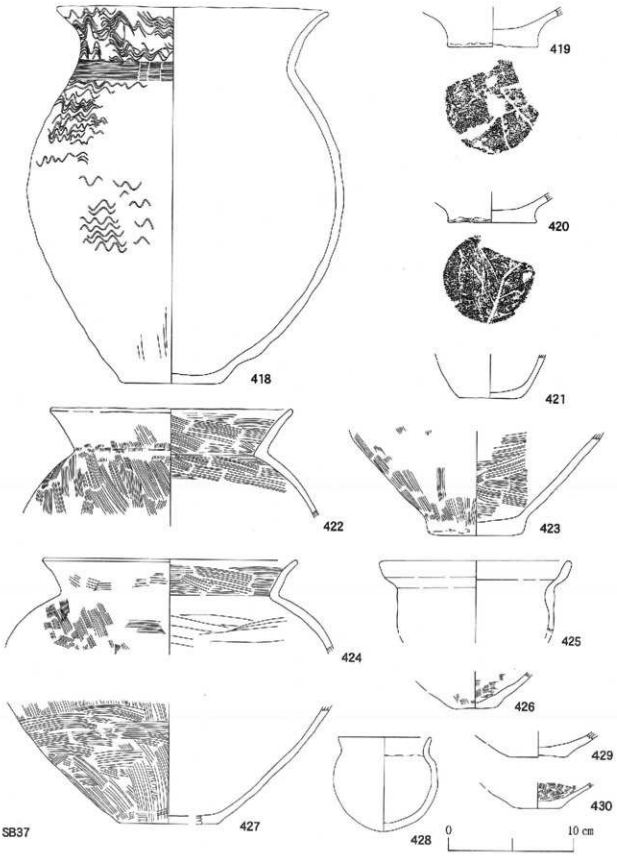
第 121 図　36 号住居跡出土土器



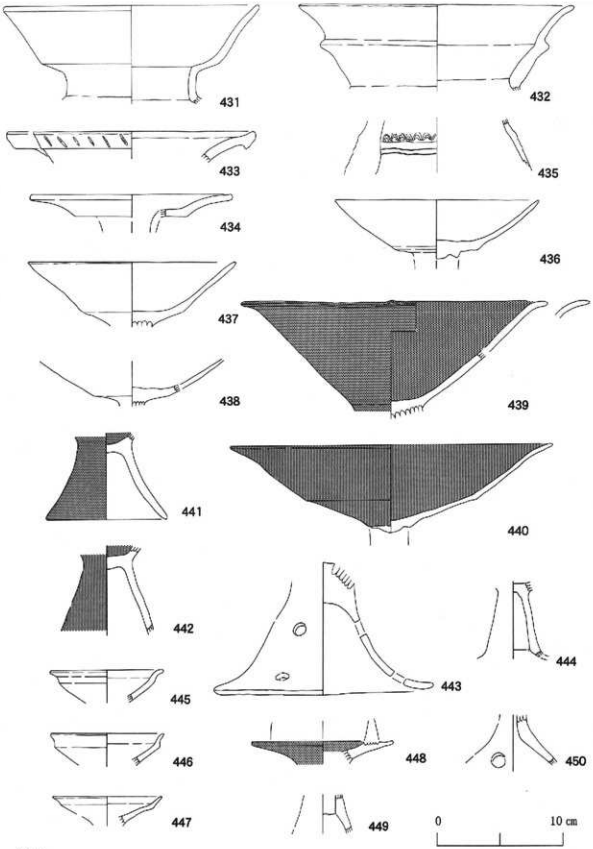
第 122 図　36 号住居跡出土土器



第 123 図　36・37 号住居跡出土土器

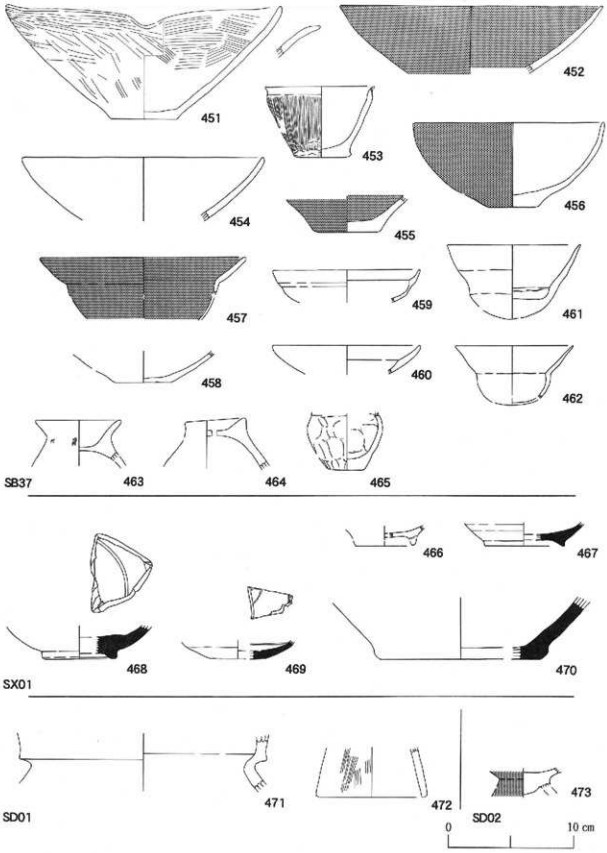


第 124 図　37 号住居跡出土土器

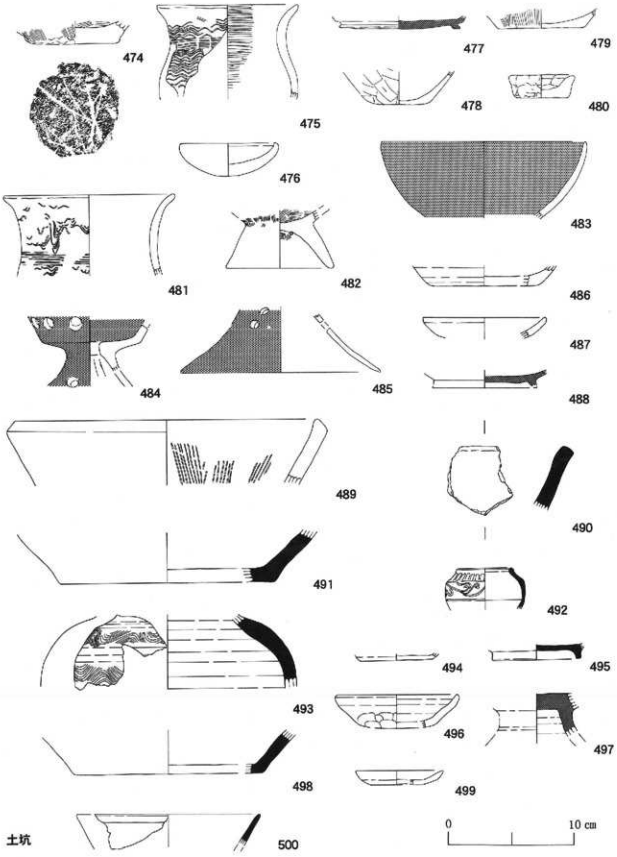


SB37

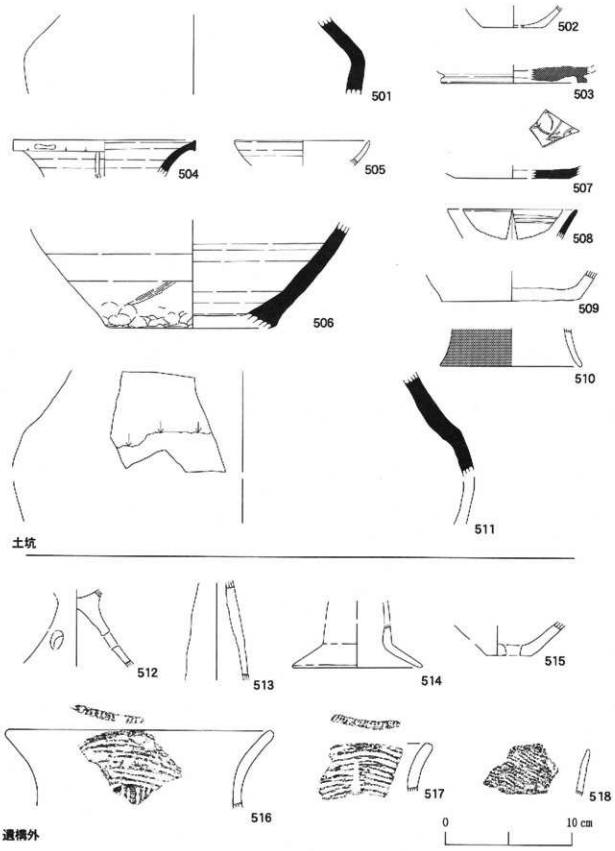
第 125 図　37 号住居跡出土土器



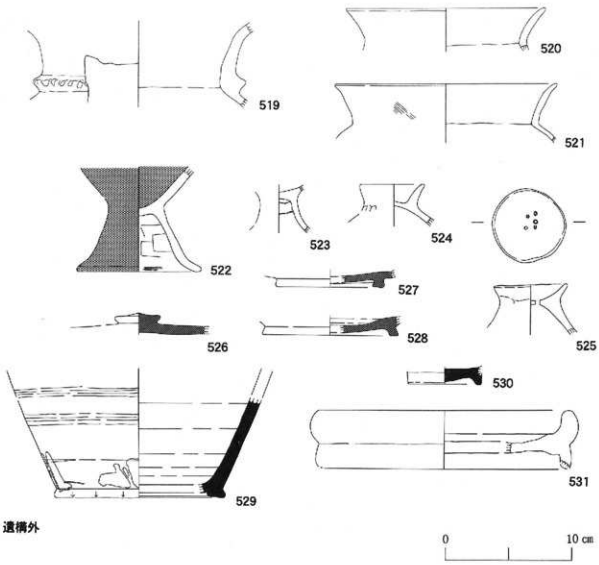
第 126 図　37 号住居跡・土坑・1・2 号溝跡出土土器



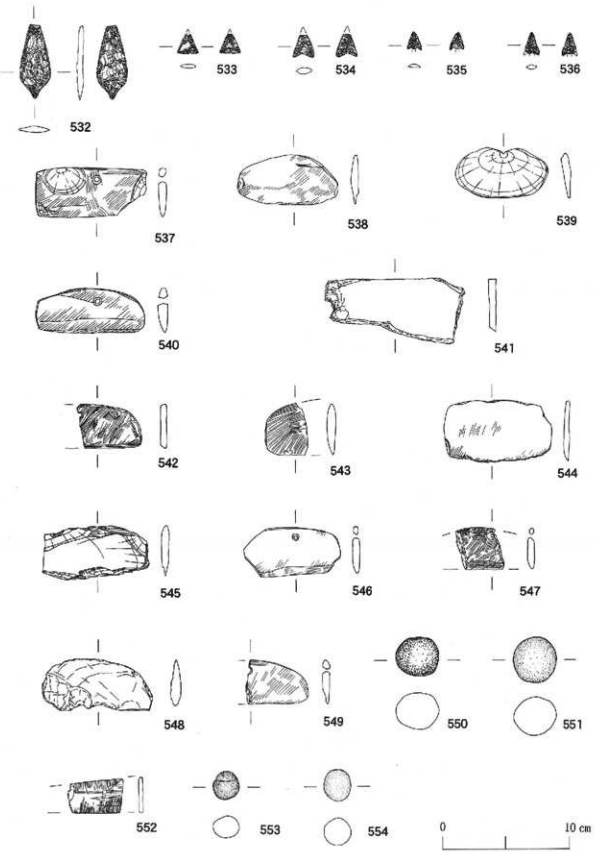
第 127 図　土坑出土土器



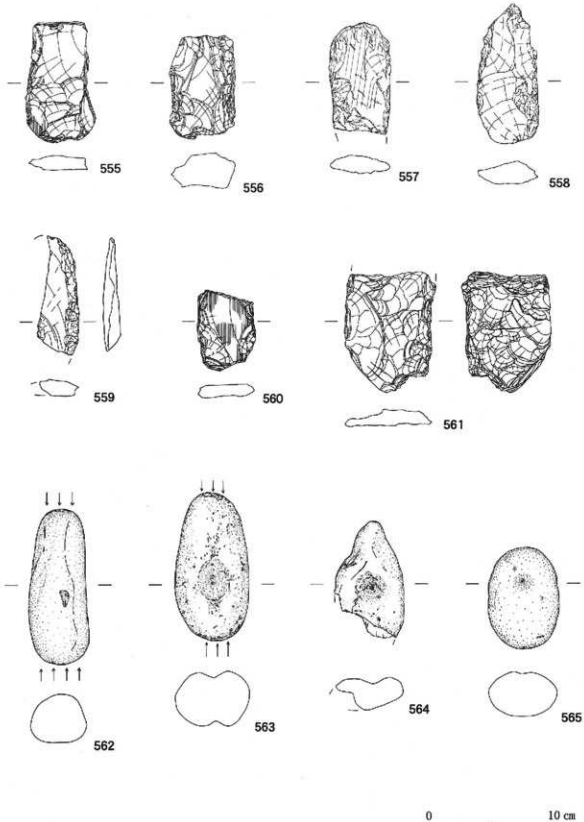
第 128 図　土坑・遺構外出土土器



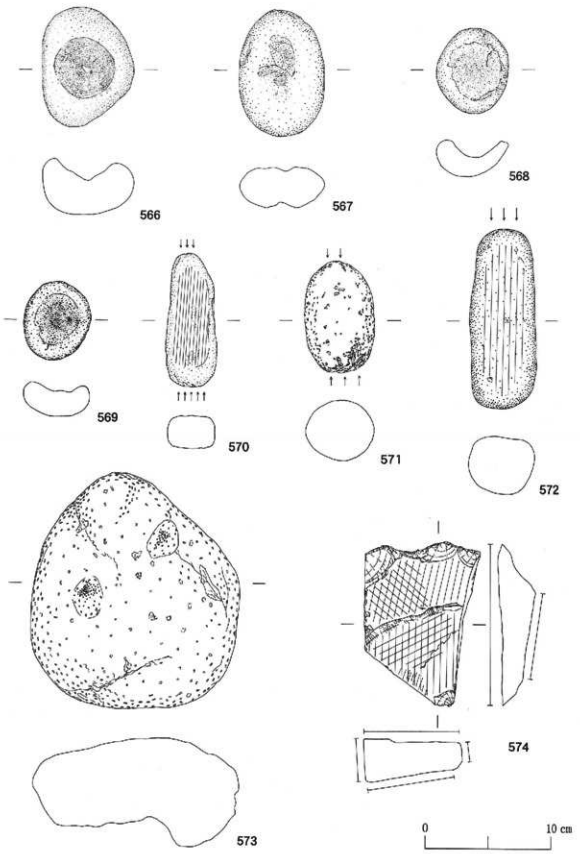
第 129 図　遺構外出土土器


532
533
534
535
536
537
538
539
540
541
542
543
544
545
546
547
548
549
550
551
552
553
554
0
10 cm

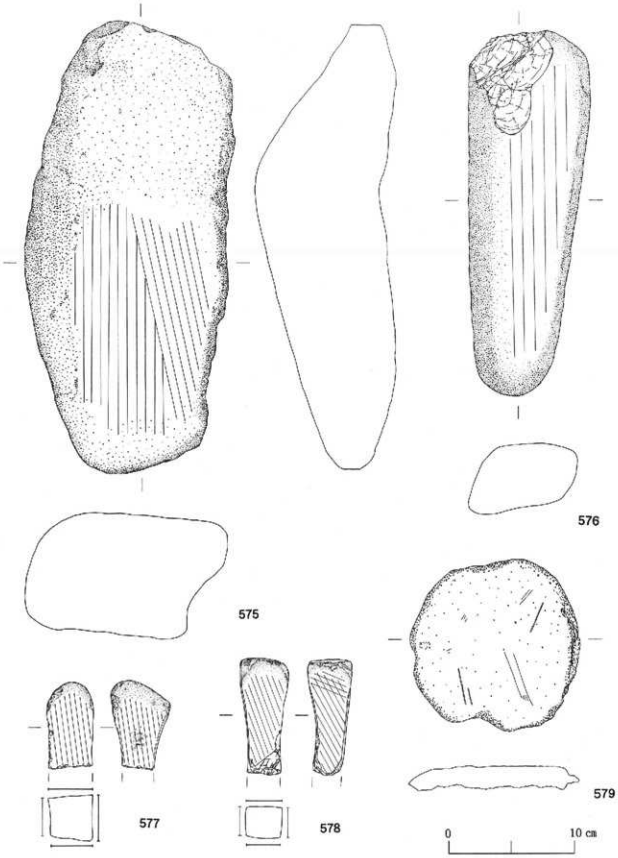
第 130 図　石器 ①



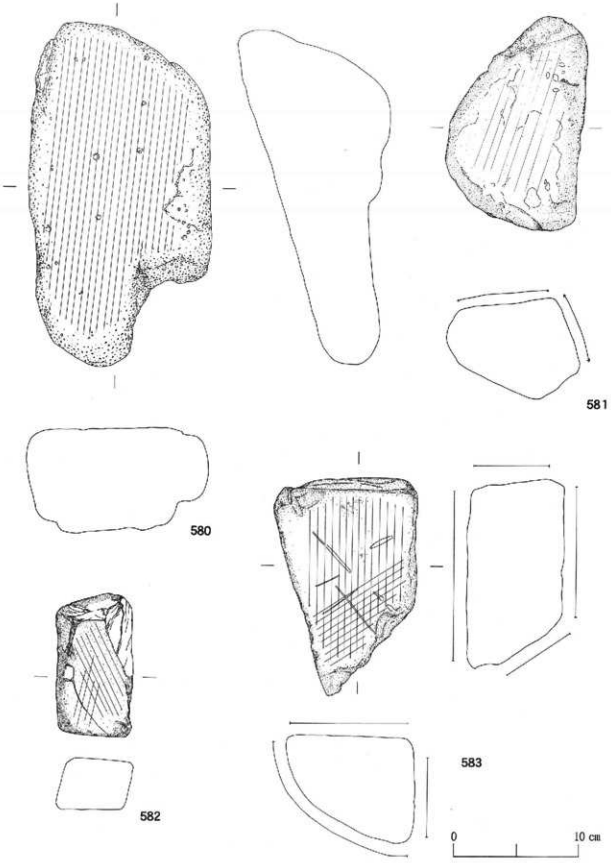
第131図　石器②



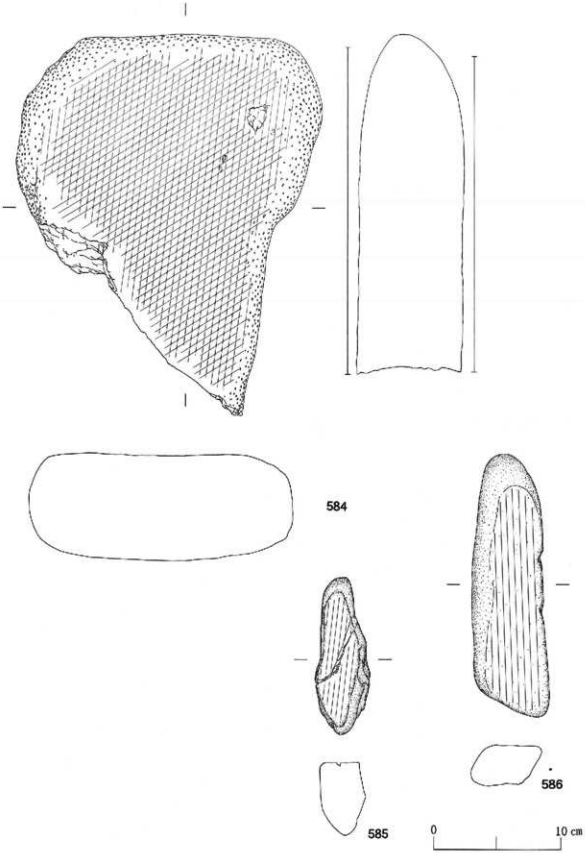
第 132 図　石器 ③



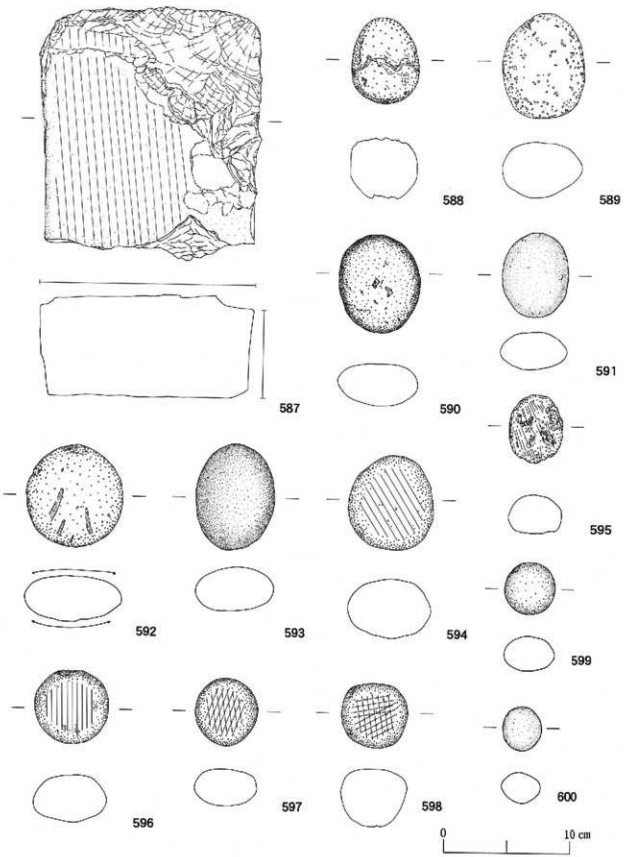
第 133 図　石器 ④



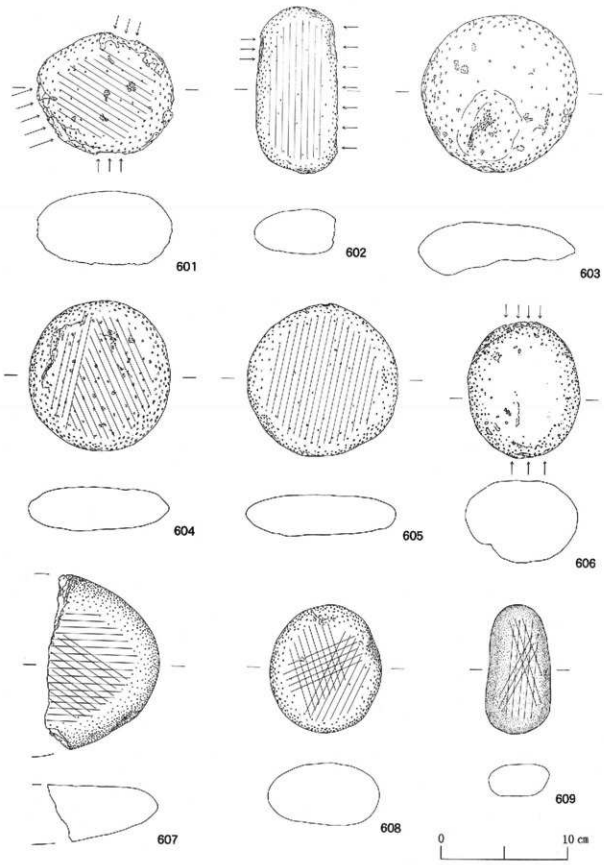
第 134 図　石器 ⑤



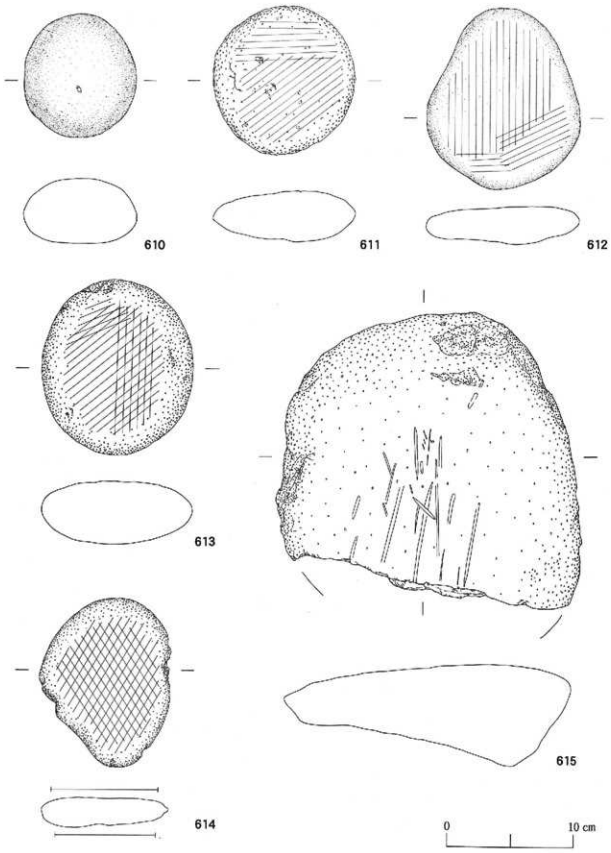
第135図　石器⑥



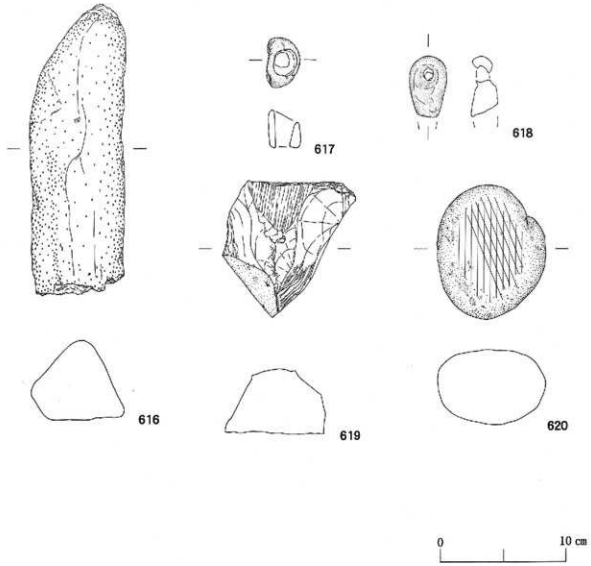
第136図　石器⑦



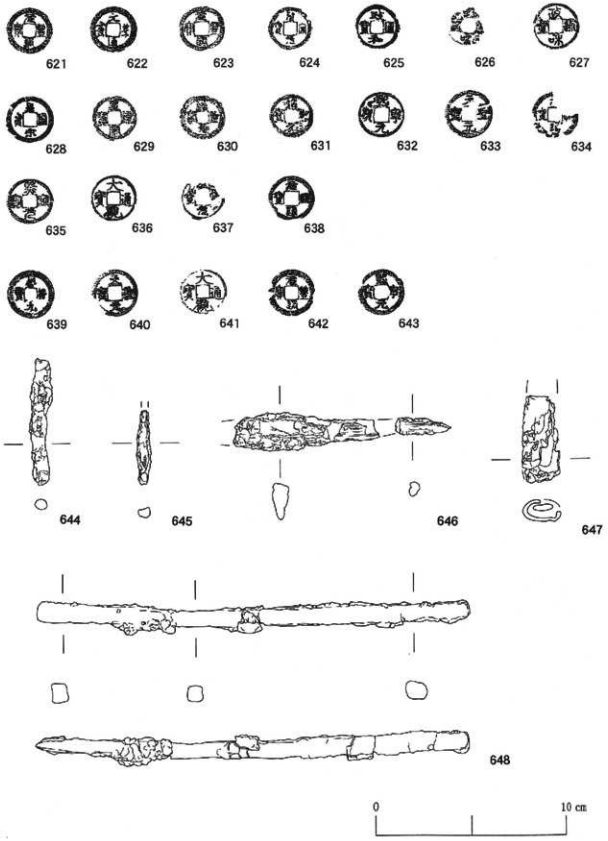
第137図　石器⑧



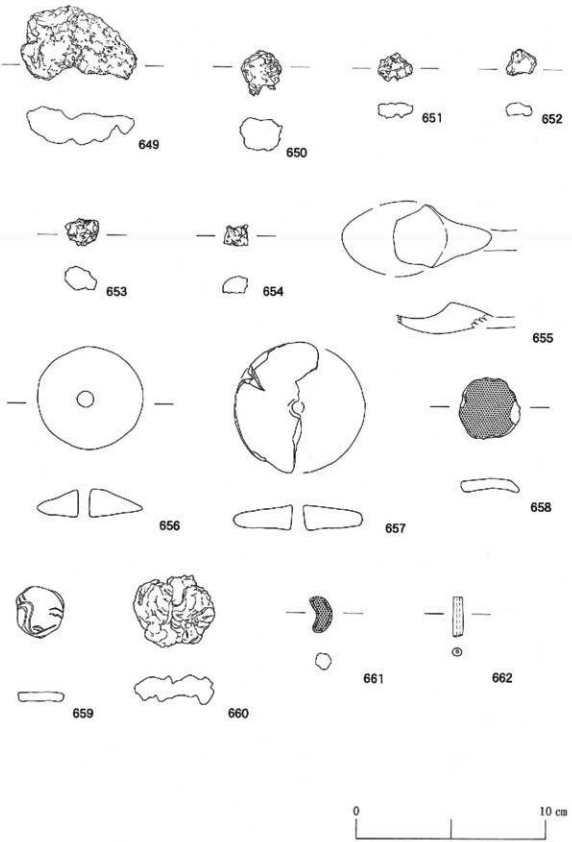
第 138 図　石器 ⑨



第139図　石器⑯


621
622
623
624
625
626
627
628
629
630
631
632
633
634
635
636
637
638
639
640
641
642
643
644
645
646
647
648
0
10 cm

第 140 図　古銭・金属器



第 141 図　その他

土器観察表

NO.	出土遺構	A器種　B器形　C文様　D製作技法の特徴	a色調　b胎土　c焼成	残率
1	SB01	A甕　C波状文　D器面荒れている。	a明赤褐　b砂粒を含む　c良好	1/8（口縁）
2	SB01	A甕　D口縁部がS字状を呈する。	a にぶい橙　b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む　c良好	1/7（口縁）
3	SB01	A甕　C縄文圧痕有り。	a 橙　b 茶色粒子・白雲母・砂粒を含む　c良好	1/7（口縁）
4	SB01	A器台	a 灰褐　b 白雲母・黒雲母・砂粒を含む　c良好	1/4（口縁）
5	SB01	A高坏	a 橙　b 茶色粒子・白雲母・砂粒を含む　c良好	接合部
6	SB01	A鉢　D外面に赤彩を施す。	a にぶい橙　b 黒雲母・砂粒を含む　c良好	底部
7	SB01	A長胴甕	a 橙　b 茶色粒子・白雲母・砂粒を含む　c良好	底部
8	SB02	A長胴甕	a 赤褐　b 黒雲母・砂粒を含む　c 良好	1/3（胴部）
9	SB02	A甕	a 橙　b 茶色粒子・白雲母・黒雲母・砂粒を含む　c良好	胴部～底部
10	SB02	A高坏	a明赤褐　b砂粒を含む　c良好	接合部
11	SB02	A高坏	a 橙　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	接合部
12	SB02	A高坏	a明赤褐　b砂粒を含む　c良好	3/4（脚部）
13	SB02	A高坏　D脚部に三角透窓をもつ。	a 明赤褐　b 茶色粒子・白雲母・砂粒を含む　c良好	接合部
14	SB02	A甕　D口縁部がS字状を呈する。	a 明赤褐　b 茶色粒子・白雲母・砂粒を含む　c良好	1/8（口縁）
15	SB02	A高坏　D坏部内面に黒色処理を施す。	a浅黄橙　b茶色粒子・砂粒を含む　c良好	3/4
16	SB02	Aふた　Dつまみ部に穴を1つもつ。	a明赤褐　b砂粒を含む　c良好	つまみ
17	SB02	Aミニチュア土器	a にぶい赤褐　b砂粒を含む　c良好	1/4
18	SB02	A台付甕	a 橙　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	1/2（脚部）
19	SB03	A深鉢（縄文）	a にぶい橙　b砂粒を含む　c良好	取っ手
20	SB03	A甕	a にぶい赤褐　b 茶色粒子・黒雲母を含む　c良好	底部
21	SB03	A壺	a 橙　b 白雲母・黒雲母・砂粒を含む　c良好	底部
22	SB03	A甕	a明赤褐　b茶色粒子・砂粒を含む　c良好	底部
23	SB03	A甕	a にぶい橙　b 白雲母・黒雲母・砂粒を含む　c良好	底部
24	SB03	A甕	a 橙　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	1/2（底部）
25	SB03	A甕　B口縁部が内湾する。	a橙　b白雲母・砂粒を含む　c良好	1/2（口縁）

26	SB03	A小型甕　C波状文・櫛状文	a 明赤褐　b 白雲母・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	2/3（口縁）
27	SB03	A甕　C波状文・櫛状文	a 黄橙　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	1/4（口縁）
28	SB03	A甕	a にぶい赤褐　b 白雲母・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	1/2（口縁）
29	SB03	A高坏　D坏部内面・外面に赤彩を施す。	a 橙　b 黒雲母・砂粒を含む　c 良好	脚部
30	SB03	A高坏　D坏部内面・外面に赤彩を施す。	a 橙　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	脚部
31	SB03	A高坏　D脚部に三角透窓をもつ。外面に赤彩を施す。	a にぶい橙　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	1/5（脚部）
32	SB03	A高坏　D坏部内面・外面に赤彩を施す。	a にぶい橙　b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	接合部
33	SB03	A高坏　D坏部内面・外面に赤彩を施す。	a にぶい橙　b 白雲母・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	接合部
34	SB03	A器台　D受部と脚部に円形透窓をもつ。受部と脚部に2本ずつの沈線をもつ。	a 橙　b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	2/3
35	SB03	A甕型土器　D内外面に赤彩を施す。	a 明赤褐　b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	1/2（口縁）
36	SB03	A鉢　D内外面に赤彩を施す。	a 橙　b 黒雲母・砂粒を含む　c 良好	1/5（口縁）
37	SB03	Aふた	a にぶい橙　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	つまみ
38	SB03	A鉢	a 橙　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	底部
39	SB03	A鉢　D内外面に赤彩を施す。	a 橙　b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	底部
40	SB03・04	A甕　C波状文	a 橙　b 茶色粒子・雲母・砂粒を含む　c 良好	1/7（口縁）
41	SB03・04・05	A甕　D外面にハケ調整。口縁部に面取りを施す。	a 橙　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	口縁
42	SB03・04・05	A甕	a にぶい橙　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	1/2（口縁～胴部）
43	SB03・04	A高坏　D外面に赤彩を施す。	a 橙　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	1/5（口縁）
44	SB03・04	A甕　D外面にハケ調整。	a 橙　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	底部
45	SB03・04	A甕	a にぶい褐　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	底部
46	SB03・04	A甕　D内面に黒色処理を施す。	a にぶい褐　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	1/3（底部）
47	SB03・04	A鉢	a にぶい橙　b 砂粒を含む　c 良好	1/8（口縁）
48	SB03・04	A鉢　D内外面に赤彩を施す。	a 橙　b 雲母・砂粒を含む　c 良好	1/4
49	SB03・04	A甕型土器　D外面に赤彩を施す。	a 橙　b 茶色粒子・雲母・砂粒を含む　c 良好	1/3（口縁）
50	SB03・04	A片口鉢　D内外面に赤彩を施す。	a 橙　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	1/5

51	SB03・04	A鉢	a橙 b砂粒を含む c良好	1/8 (口縁)
52	SB03・04	Aふた	a にぶい橙 b 茶色粒子・雲母・砂粒を含む c良好	つまみ
53	SB03・04	A鉢 D外面に赤彩を施す。	a褐灰 b雲母・砂粒を含む c良好	底部
54	SB03・04	A高坏 D外面に赤彩を施す。脚部に三角透窓をもつ。	a にぶい橙 b 茶色粒子・雲母・砂粒を含む c良好	接合部
55	SB03・04	A器台	a 橙 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/2 (受部)
56	SB04	A甕 C波状文・簾状文	a にぶい橙 b 茶色粒子・砂粒を含む c良好	完形
57	SB04	A甕 C波状文・簾状文	a にぶい橙 b 茶色粒子・砂粒を含む c良好	1/2
58	SB04	A甕 C波状文	a 褐灰 b砂粒を含む c良好	1/4 (底部)
59	SB04	A甕	a 橙 b 茶色粒子・砂粒を含む c良好	1/6 (頸部)
60	SB04	A鉢	a にぶい橙 b 茶色粒子・砂粒を含む c良好	1/6 (口縁)
61	SB04	A鉢 D内外面に赤彩を施す。	a 橙 b 茶色粒子・雲母・砂粒を含む c良好	1/3 (底部)
62	SB04	A鉢 D内外面に赤彩を施す。	a 橙 b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む c良好	底部
63	SB04	A高坏 D内外面に赤彩を施す。	a にぶい橙 b 茶色粒子・雲母・砂粒を含む c良好	1/4 (受部)
64	SB04	A壺 D内外面に赤彩を施す。	a 橙 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/3 (口縁)
65	SB04	A高坏	a 橙 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	接合部
66	SB04	A壺	a にぶい橙 b 茶色粒子・砂粒を含む c良好	1/2 (底部)
67	SB05	A甕 C波状文	a 橙 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/3 (口縁)
68	SB05	A甕 C波状文・簾状文	a橙 b砂粒を含む c良好	1/2 (口縁)
69	SB05	A甕 C波状文	a灰褐 b雲母・砂粒を含む c良好	1/6 (口縁)
70	SB05	A甕 C波状文・簾状文	a橙 b雲母・砂粒を含む c良好	1/3 (口縁)
71	SB05	A甕 C波状文・簾状文	a 橙 b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む c良好	1/3 (口縁)
72	SB05	A甕 C波状文	a灰褐 b雲母・砂粒を含む c良好	1/4 (口縁)
73	SB05	A甕 BS字口縁をもつ。	a橙 b茶色粒子・雲母・砂粒を含む c良好	1/5 (口縁)
74	SB05	A甕 B口縁部に面取りを施す。	a にぶい橙 b 茶色粒子・砂粒を含む c良好	1/6 (口縁)
75	SB05	A甕 Dハケ調整	a にぶい橙 b 茶色粒子・砂粒を含む c良好	1/5 (口縁)

76	SB05	A壺	a にぶい橙 b 黒雲母・砂粒を含む c 良好	1/5 (口縁)
77	SB05	A壺 B有段口縁	a 橙 b 砂粒を含む c 良好	1/6 (頸部)
78	SB05	A甕	a 明赤褐 b 砂粒を含む c 良好	1/2 (口縁)
79	SB05	A壺 D内外面に赤彩を施す。	a にぶい橙 b 砂粒を含む c 良好	1/4 (口縁)
80	SB05	A甕 B口唇部が内湾ぎみとなる。	a にぶい橙 b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む c 良好	1/4 (口縁～胴部)
81	SB05	A高坏 D坏部内面・外面に赤彩を施す。	a にぶい橙 b 茶色粒子・雲母・砂粒を含む c 良好	接合部
82	SB05	A高坏 D外面に赤彩を施す。	a にぶい橙 b 茶色粒子・雲母・砂粒を含む c 良好	1/4 (坏部)
83	SB05	A高坏 D坏部内面・外面に赤彩を施す。脚部に三角透窓をもつ。	a にぶい橙 b 黒雲母・砂粒を含む c 良好	接合部
84	SB05	A高坏 D脚部に円形透窓をもつ。	a にぶい橙 b 砂粒を含む c 良好	1/2 (脚部)
85	SB05	A台付甕 D内外面に赤彩を施す。	a 橙 b 茶色粒子・雲母・砂粒を含む c 良好	台部
86	SB05	A鉢 D内外面に赤彩を施す。	a 橙 b 砂粒を含む c 良好	1/5 (口縁)
87	SB05	A鉢	a 橙 b 茶色粒子・雲母・砂粒を含む c 良好	完形
88	SB05	A鉢 D内外面に赤彩を施す。	a 橙 b 砂粒を含む c 良好	1/8 (口縁)
89	SB05	A器台 D内外面に赤彩を施す。	a 橙 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/4 (台部)
90	SB05	Aふた	a 橙 b 砂粒を含む c 良好	つまみ
91	SB05	Aふた Dつまみ部に穴を1つもつ。	a 褐灰 b 砂粒を含む c 良好	1/2 (つまみ)
92	SB05	Aふた Dつまみ部に穴を1つもつ。	a にぶい橙 b 砂粒を含む c 良好	つまみ
93	SB05	Aミニチュア土器	a にぶい橙 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/3
94	SB05	A深鉢 (縄文)	a 明赤褐 b 砂粒を含む c 良好	取っ手
95	SB06	A甕 C波状文・簾状文	a にぶい褐 b 茶色粒子・白雲母・黒雲母・砂粒を含む c 良好	1/3
96	SB06	A甕 C波状文・簾状文	a にぶい橙 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/2 (口縁～頸部)
97	SB06	A甕 C波状文・簾状文	a 橙 b 茶色粒子・白雲母・砂粒を含む c 良好	1/4 (口縁～胴部)
98	SB06	A甕 B口縁部の屈曲が強い。	a 橙 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	口縁
99	SB06	A甕 C波状文・簾状文	a にぶい橙 b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む c 良好	1/4 (口縁)
100	SB06	A甕 C波状文・簾状文	a にぶい橙 b 茶色粒子・黒雲母・白雲母・砂粒を含む c 良好	1/4 (口縁)

101	SB06	A台付甕　C波状文	a 明赤褐　b 茶色粒子・白雲母・砂粒を含む　c 良好	口縁～胴部
102	SB06	A甕　C内外面にハケ調整を施す。	a 橙　b 茶色粒子・黒雲母・白雲母・砂粒を含む　c 良好	1/5（口縁～胴部）
103	SB06	A甕　C頸部にハケ状工具による強い調整をもつ。	a 橙　b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	1/2（頸部～胴部）
104	SB06	A台付甕	a 明赤褐　b 茶色粒子・白雲母・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	台部
105	SB06	A甕　B口唇部が内湾する。	a 橙　b 茶色粒子・白雲母・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	口縁部
106	SB06	A甕　B口縁部に面取りを施す。	a 橙　b 茶色粒子・白雲母・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	1/8（口縁～頸部）
107	SB06	A甕　C内外面にハケ調整を施す。	a にぶい橙　b 白雲母・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	胴部
108	SB06	A甕　B口縁部に面取りを施す。	a 橙　b 黒雲母・砂粒を含む　c 良好	1/4（頸部）
109	SB06	A甕	a 橙　b 茶色粒子・白雲母・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	2/3（底部）
110	SB06	Aこしき　D底部に穴を1つもつ。	a 明赤褐　b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	1/2（底部）
111	SB06	A甕	a 明赤褐　b 茶色粒子・白雲母・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	底部
112	SB06	Aミニチュア土器	a 橙　b 砂粒を含む　c 良好	底部
113	SB06	A壺　D口縁部に段をもつ。外面に赤彩を施す。	a にぶい橙　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	1/3（頸部）
114	SB06	A壺　D口縁部に段をもつ。	a 橙　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	1/3（口縁～頸部）
115	SB06	Aミニチュア土器	a にぶい橙　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	底部
116	SB06	A壺　D内外面に赤彩を施す。口縁部に舌状突起をもつ。	a 橙　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	1/6（口縁）
117	SB06	A壺　D内外面に赤彩を施す。	a 橙　b 茶色粒子・白雲母・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	1/3（口縁～頸部）
118	SB06	A鉢	a 橙　b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	底部
119	SB06	A壺	a 橙　b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	1/3（口縁～頸部）
120	SB06	A壺　C頸部に丁字文を施す。D内外面に赤彩を施す。	a にぶい褐　b 茶色粒子・白雲母・砂粒を含む　c 良好	1/2（頸部）
121	SB06	A広口壺　B胴部下半に屈曲をもつ。胴部の最大径を下半にもつ。	a 橙　b 白雲母・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	胴部
122	SB06	A高坏　D坏部内面・外面に赤彩を施す。	a 褐灰　b 茶色粒子・白雲母・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	接合部
123	SB06	A高坏　D内外面に赤彩を施す。	a にぶい橙　b 茶色粒子・白雲母・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	接合部

１２４	ＳＢ０６	A高坏　D坏部内面・外面に赤彩を施す。	a 橙　b 茶色粒子・白雲母・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	接合部
１２５	ＳＢ０６	A壺　B頸部を意識的にくびれさせている。口縁部が直立する。　D外面に赤彩を施す。	a にぶい褐　b 茶色粒子・雲母・砂粒を含む　c 良好	完形
１２６	ＳＢ０６	A高坏　D脚部に円形透窓を３ヶ所もつ。	a 橙　b 茶色粒子・白雲母・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	1/2（接合部～脚部）
１２７	ＳＢ０６	A高坏　D脚部に円形透窓を３ヶ所もつ。	a にぶい橙　b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	接合部
１２８	ＳＢ０６	A高坏　B脚部の裾が広い。D内外面に赤彩を施す。脚部に２穴で一対の穴をもつ。	a 橙　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	脚部
１２９	ＳＢ０６	A高坏	a 橙　b 茶色粒子・白雲母・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	接合部
１３０	ＳＢ０６	A器台　D内外面に赤彩を施す。受部に円形透窓をもつ。	a 橙　b 茶色粒子・白雲母・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	1/4（受部）
１３１	ＳＢ０６	A器台	a 橙　b 茶色粒子・白雲母・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	1/5（口縁）
１３２	ＳＢ０６	A鉢	a 橙　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	1/4
１３３	ＳＢ０６	A鉢　D内外面に赤彩を施す。	a 橙　b 茶色粒子・白雲母・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	1/5（口縁）
１３４	ＳＢ０６	A鉢　D内外面に赤彩を施す。	a にぶい橙　b 茶色粒子・白雲母・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	1/3（底部）
１３５	ＳＢ０６	A器台　D内外面に赤彩を施す。	a 橙　b 茶色粒子・白雲母・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	1/5（受部）
１３６	ＳＢ０６	A鉢	a にぶい赤褐　b 茶色粒子・白雲母・砂粒を含む　c 良好	1/2（底部）
１３７	ＳＢ０６	A鉢　B口縁部が「く」の字状にひらく。	a 橙　b 茶色粒子・白雲母・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	1/5
１３８	ＳＢ０６	A鉢　B口縁部が「く」の字状にひらく。	a にぶい赤褐　b 白雲母・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	1/6
１３９	ＳＢ０６	Aこしき　B口縁部に折り返しをもつ。口唇部に指頭圧痕をもつ。　C内外面にハケ調整を施す。	a 橙　b 茶色粒子・白雲母・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	1/5（口縁）
１４０	ＳＢ０６	Aふた　Dつまみ部に穴を１つもつ。	a にぶい褐　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	つまみ
１４１	ＳＢ０６	Aふた	a 橙　b 茶色粒子・白雲母・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	つまみ
１４２	ＳＢ０６	Aミニチュア土器	a にぶい橙　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	1/3
１４３	ＳＢ０６	A深鉢（縄文）	a 灰褐　b 白雲母・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	取っ手
１４４	ＳＢ０７	A壺（灰釉陶器）	a 灰白　c 良好	1/3（底部）
１４５	ＳＢ０７	A坏　D内面に黒色処理を施す。	a にぶい橙　b 茶色粒子・雲母・砂粒を含む　c 良好	底部
１４６	ＳＢ０７	A皿	a 橙　b 茶色粒子・砂粒・小石（1㎜前後）を含む　c 良好	底部
１４７	ＳＢ０７	A坏　D底部回転糸切り。底部に穴を１つもつ。	a 橙　b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	1/2
１４８	ＳＢ０７	A皿　D底部回転糸切り	a 橙　b 茶色粒子・雲母・砂粒を含む　c 良好	完形

149	SB07	A皿　D底部回転糸切り	a にぶい橙　b 茶色粒子・雲母・砂粒を含む　c 良好	完形
150	SB07	A皿　D底部回転糸切り	a 橙　b 茶色粒子・雲母・砂粒を含む　c 良好	完形
151	SB07	A皿　D底部回転糸切り	a 橙　b 茶色粒子・雲母・砂粒を含む　c 良好	完形
152	SB07	A皿　D底部回転糸切り	a 橙　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	完形
153	SB07	A皿	a にぶい橙　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	1/2（底部）
154	SB07	A椀　D内面に黒色処理を施す。底部に高台が付く。	a にぶい赤褐　b 黒雲母・砂粒・小石（1㎜前後）を含む　c 良好	底部
155	SB07	A坏　D内面に黒色処理を施す。底部に高台が付く。	a 橙　b 砂粒を含む　c 良好	底部
156	SB07	Aこしき　D底部に穴を1つもつ。	a 明赤褐　b 雲母・砂粒を含む　c 良好	底部
157	SB07	Aふた（灰釉陶器）	a 褐灰　c 良好	端部
158	SB08	A坏　C手持ちヘラケズリ　D内面に黒色処理を施す。	a 明赤褐　b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	1/2
159	SB08	A坏　D底部に高台が付く。	a にぶい橙　b 茶色粒子・雲母・砂粒を含む　c 良好	1/3（底部）
160	SB08	A坏	a にぶい褐　b 雲母・砂粒を含む　c 良好	1/5（口縁）
161	SB08	A広口壺	a 橙　b 砂粒を含む　c 良好	1/5（口縁）
162	SB08	A坏（須恵器）　D底部ヘラ調整	a 灰白　b 砂粒を含む　c 良好	1/3（底部）
163	SB08	A坏（須恵器）　D底部ヘラ調整	a 灰　b 砂粒を含む　c 良好	1/4
164	SB08	A高坏（須恵器）	a 灰　b 砂粒を含む　c 良好	1/2（接合部）
165	SB08	A高坏（灰釉陶器）	a 灰白　c 良好	接合部
166	SB08	A高坏　D坏部内面に黒色処理を施す。	a 橙　b 砂粒・小石（1.5㎜前後）を含む　c 良好	1/2（坏部～脚部）
167	SB08	A坏（須恵器）　D底部ヘラ調整	a 褐灰　b 砂粒を含む　c 良好	1/4（底部）
168	SB08	A高坏	a 橙　b 茶色粒子・砂粒・小石（1.5㎜前後）を含む　c 良好	1/2（脚部）
169	SB08	A高坏	a 橙　b 砂粒・小石（1.5㎜前後）を含む　c 良好	1/3（裾部）
170	SB09	A甕	a 橙　b 茶色粒子・雲母・砂粒・小石（1.5㎜前後）を含む　c 良好	1/3（口縁）
171	SB09	A坏（須恵器）	a 灰　b 砂粒・小石（1㎜前後）を含む　c 良好	1/3
172	SB09	A高坏　D内外面に赤彩を施す。	a 橙　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	1/6（口縁）
173	SB09	A坏	a 橙　b 雲母・砂粒を含む　c 良好	1/5
174	SB09	Aふた（須恵器）	a 褐灰　b 砂粒を含む　c 良好	1/8（口縁）

175	SB09	Aふた（須恵器）	a灰　b砂粒・小石（1.5㎜前後）を含む　c良好	1/3
176	SB09	A器台	a にぶい黄橙　b 茶色粒子・砂粒を含む　c良好	1/2（脚部）
177	SB09	A鉢	a にぶい黄橙　b 雲母・砂粒・小石（1㎜前後）を含む　c 良好	1/5（口縁）
178	SB10	A小型丸底土器	a 橙　b 茶色粒子・砂粒・小石（1㎜前後）を含む　c 良好	2/3
179	SB11	A坏　D内面に黒色処理を施す。	a にぶい黄橙　b 茶色粒子・砂粒を含む　c良好	1/5
180	SB12	A甕	a 橙　b 茶色粒子・砂粒・小石（1.5㎜前後）を含む　c 良好	1/3（口縁～胴部）
181	SB12	A甕　C外面ハケナデ	a 橙　b 茶色粒子・砂粒・小石（1㎜前後）を含む　c 良好	1/3（口縁～胴部）
182	SB12	A甕　C外面ハケ調整　D口縁部に面取りを施す。	a にぶい橙　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	1/3（口縁～胴部）
183	SB12	A甕　C外面ハケナデ	a 赤褐　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	1/3（口縁～胴部）
184	SB12	A甕	a 橙　b 茶色粒子・砂粒・小石（1㎜前後）を含む　c 良好	1/2（口縁～頸部）
185	SB12	A鉢　D内外面に赤彩を施す。	a 橙　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	底部
186	SB12	A甕　B口唇部が内湾する。	a 橙　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	1/2（口縁）
187	SB12	A器台　D受部に円形透窓をもつ。	a にぶい褐　b 茶色粒子・砂粒・小石（1.5㎜前後）を含む　c 良好	1/3（受部）
188	SB12	A高坏　D脚部に円形透窓をもつ。	a 橙　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	1/4（脚部）
189	SB12	A台付甕　C外面ハケ調整	a 灰褐　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	1/3（胴部）
190	SB12	A片口鉢　D内外面に赤彩を施す。	a 橙　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	1/9（口縁）
191	SB12	A鉢	a 橙　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	1/4（口縁）
192	SB14	A甕　C波状文・簾状文	a にぶい橙　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	1/3（口縁～胴部）
193	SB14	A甕	a 橙　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	底部
194	SB14	A甕　D器面荒れており調整等不明。	a 橙　b 茶色粒子・雲母・砂粒を含む　c 良好	1/3（口縁～胴部）
195	SB14	A甕	a にぶい橙　b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	1/2
196	SB14	A甕　D内外面に赤彩を施す。194と同一個体と思われる。	a にぶい橙　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	1/2（口縁～底部）

197	SB14	A鉢　D外面に赤彩を施す。	a にぶい橙　b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	1/4（口縁～底部）
198	SB14	A鉢　D内外面に赤彩を施す。	a 橙　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	2/3
199	SB14	A鉢	a 橙　b 茶色粒子・雲母・砂粒を含む　c 良好	1/8（口縁）
200	SB14	A高坏　D内外面に赤彩を施す。	a にぶい橙　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	1/3
201	SB14	A鉢　D内外面に赤彩を施す。	a にぶい橙　b 茶色粒子・雲母・砂粒を含む　c 良好	1/2（胴部～底部）
202	SB14	A片口鉢　D内外面に赤彩を施す。	a にぶい橙　b 雲母・砂粒を含む　c 良好	1/6（口縁）
203	SB14	A鉢　D口縁部を内側に折り返してある。	a 橙　b 茶色粒子・小石（1.5㎜前後）を含む　c 良好	1/8（口縁）
204	SB14	A甕型土器　D内外面に赤彩を施す。	a 明赤褐　b 雲母・砂粒を含む　c やや不良	1/6（口縁）
205	SB14	A鉢　D内外面に赤彩を施す。	a にぶい橙　b 茶色粒子・雲母・砂粒を含む　c 良好	1/3（口縁）
206	SB14	A器台　D受部内面・外面に赤彩を施す。	a にぶい橙　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	接合部
207	SB15	A長胴甕　D胴部に縦のヘラケズリ	a 橙　b 茶色粒子・雲母・砂粒・小石（1.5㎜前後）を含む　c 良好	1/2
208	SB15	A甕	a にぶい橙　b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	2/3（底部）
209	SB15	A坏（須恵器）	a 灰　b 砂粒を含む　c 良好	1/6（口縁）
210	SB15	Aはそう（須恵器）	a 灰　b 砂粒を含む　c 良好	1/2（口縁）
211	SB15	A坏	a にぶい黄橙　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	3/4
212	SB15	A坏　D内面に黒色処理を施す。	a 褐灰　b 砂粒を含む　c 良好	1/6
213	SB15	A坏	a 灰白　b 砂粒を含む　c 良好	1/2
214	SB15	A坏	a にぶい橙　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	1/5（口縁）
215	SB15	A甕	a にぶい赤褐　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	底部
216	SB15	A坏　D内面に黒色処理を施す。	a 橙　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	1/4（口縁）
217	SB15	A鉢	a にぶい橙　b 茶色粒子・砂粒・小石（1.5㎜前後）を含む　c 良好	底部
218	SB15	A高坏　D内外面に赤彩を施す。	a にぶい橙　b 砂粒・小石（1.5㎜前後）を含む　c 良好	1/8（坏部）
219	SB15	A台付甕	a 赤褐　b 雲母・砂粒・小石（1.5㎜前後）を含む　c 良好	接合部
220	SB15	Aふた　Dつまみ部に穴を1つもつ。	a にぶい橙　b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	つまみ
221	SB15	A甕型土器　D外面に赤彩を施す。	a にぶい赤褐　b 雲母・砂粒を含む　c 良好	1/3（口縁）

222	SB16	A甕　C波状文・簾状文	a 明赤褐　b 茶色粒子・雲母・砂粒を含む　c 良好	完形
223	SB16	A甕　C波状文	a 明赤褐　b 茶色粒子・雲母・砂粒を含む　c 良好	1/3（口縁）
224	SB16	A甕	a にぶい橙　b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	底部
225	SB16	A甕　C波状文・簾状文	a 赤褐　b 茶色粒子・雲母・砂粒を含む　c 良好	1/2（口縁～胴部）
226	SB16	A甕	a 橙　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	1/3（底部～胴部）
227	SB16	A壺　D内外面に赤彩を施す。	a 橙　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	1/3（口縁）
228	SB16	A台付甕	a 明赤褐　b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	接合部
229	SB16	A壺　D内外面に赤彩を施す。	a 橙　b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	1/4（口縁）
230	SB16	A高坏　D外面に赤彩を施す。	a 橙　b 茶色粒子・雲母・砂粒を含む　c 良好	脚部
231	SB16	A壺　CT字文　D内面に赤彩を施す。	a 明赤褐　b 茶色粒子・雲母・砂粒を含む　c 良好	1/3（頸部～胴部）
232	SB16	A鉢	a 明赤褐　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	完形
233	SB16	A高坏　D坏部内面・外面に赤彩を施す。口縁部に舌状突起をもつ。	a 橙　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	1/2（坏部）
234	SB16	A甕型土器　D内外面に赤彩を施す。	a にぶい橙　b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	完形
235	SB16	A片口鉢　D内外面に赤彩を施す。	a にぶい橙　b 茶色粒子・雲母・砂粒を含む　c 良好	1/6
236	SB16	A鉢　D内外面に赤彩を施す。	a にぶい橙　b 茶色粒子・雲母・砂粒を含む　c 良好	1/3
237	SB16	A甕型土器　D内外面に赤彩を施す。	a 明赤褐　b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	2/3
238	SB16	A鉢　D内外面に赤彩を施す。	a 橙　b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	1/4
239	SB16	A鉢　D内外面に赤彩を施す。	a 橙　b 茶色粒子・雲母・砂粒を含む　c 良好	1/5
240	SB16	A鉢　D内外面に赤彩を施す。	a にぶい褐　b 茶色粒子・雲母・砂粒を含む　c 良好	1/4
241	SB16	A鉢　D内外面に赤彩を施す。	a にぶい橙　b 茶色粒子・雲母・砂粒を含む　c 良好	完形
242	SB16	Aふた　Dつまみ部に4ヶ所穴をもつ。	a 明赤褐　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	1/2
243	SB17	A甕（須恵器）	a 灰　b 砂粒を含む　c 良好	1/10（口縁）
244	SB17	A甕	a にぶい黄橙　b 雲母・砂粒・小石（1㎜前後）を含む　c 良好	胴部
245	SB17	A長胴甕	a 橙　b 茶色粒子・砂粒・小石（1.5㎜前後）を含む　c 良好	底部

246	SB18	A甕　D底部に葉圧痕をもつ。	a にぶい橙　b 茶色粒子・砂粒・小石（1.5㎜前後）を含む　c 良好	1/2（胴部～底部）
247	SB18	A坏（須恵器）　D底部回転ヘラ切りの後、ヘラ調整。	a 青灰　b 砂粒を含む　c 良好	1/2
248	SB18	A坏（須恵器）　D底部手持ちヘラケズリ	a 灰白　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	底部
249	SB18	A坏（須恵器）	a にぶい褐　b 砂粒を含む　c 良好	3/4
250	SB18	A鉢	a にぶい橙　b 茶色粒子・黒雲母・砂粒・小石（1㎜前後）を含む　c 良好	2/3
251	SB18	A鉢　D内面に黒色処理を施す。底部ヘラ調整	a 橙　b 茶色粒子・砂粒・小石（1㎜前後）を含む　c 良好	1/2
252	SB19	A壺	a 橙　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	2/3
253	SB19	A甕　C波状文	a 橙　b 茶色粒子・砂粒・小石（1.5㎜前後）を含む　c 良好	1/3（口縁～胴部）
254	SB19	A甕　C波状文	a にぶい橙　b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	1/3（口縁）
255	SB19	A甕　C波状文・簾状文	a にぶい橙　b 茶色粒子・砂粒・小石（1.5㎜前後）を含む　c 良好	1/2（胴部）
256	SB19	A壺	a にぶい橙　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	1/2（口縁～胴部）
257	SB19	A甕	a 橙　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	1/2（底部）
258	SB19	A鉢	a にぶい橙　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	1/4（口縁）
259	SB19	A高坏　D坏部内面・外面に赤彩を施す。	a 橙　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	接合部
260	SB19	A高坏	a にぶい黄橙　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	脚部
261	SB22	A皿　D内外面に赤彩を施す。	a にぶい橙　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	2/3
262	SB22	A甕　C波状文・簾状文	a 灰褐　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	完形
263	SB22	A甕　C波状文	a にぶい赤褐　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	2/3
264	SB22	A甕　C波状文・簾状文	a にぶい赤褐　b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	1/2
265	SB22	A甕	a 橙　b 茶色粒子・雲母・砂粒を含む　c 良好	底部
266	SB22	A甕　D器面荒れており調整等不明。	a 褐灰　b 茶色粒子・雲母・砂粒を含む　c 良好	底部
267	SB22	A甕	a にぶい褐　b 茶色粒子・雲母・砂粒を含む　c 良好	底部
268	SB22	A台付甕　C波状文・簾状文	a 橙　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	完形
269	SB22	A壺　CT字文　D外面に赤彩を施す。	a 明赤褐　b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	頸部～胴部

270	SB22	A壺型土器	a にぶい褐 b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む c 良好	1/3 (口縁～頸部)
271	SB22	A壺 CT字文 D内外面に赤彩を施す。	a にぶい褐 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	完形
272	SB22	A壺 D外面に赤彩を施す。	a 橙 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	底部
273	SB22	A壺	a 橙 b 茶色粒子・白雲母・砂粒を含む c 良好	底部
274	SB22	A壺	a 橙 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	底部
275	SB22	A高坏 D内外面に赤彩を施す。	a 橙 b 茶色粒子・黒雲母・砂粒・小石 (1.5㎜前後) を含む c 良好	1/5 (坏部)
276	SB22	A高坏 D外面に赤彩を施す。	a にぶい赤褐 b 茶色粒子・黒雲母・金雲母・砂粒を含む c 良好	脚部
277	SB22	A高坏 D坏部内面・外面に赤彩を施す。	a 橙 b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む c 良好	2/3 (脚部)
278	SB22	A高坏 D内外面に赤彩を施す。	a 明赤褐 b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む c 良好	1/2 (坏部)
279	SB22	A高坏 D坏部内面・外面に赤彩を施す。	a 橙 b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む c 良好	脚部
280	SB22	A鉢 D内外面に赤彩を施す。	a にぶい橙 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	完形
281	SB22	A鉢 D内外面に赤彩を施す。	a 灰褐 b 黒雲母・砂粒を含む c 良好	1/5 (口縁)
282	SB22	A高坏 D外面に赤彩を施す。	a にぶい赤褐 b 茶色粒子・白雲母・砂粒を含む c 良好	2/3 (脚部)
283	SB22	A鉢 D内外面に赤彩を施す。	a にぶい橙 b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む c 良好	底部
284	SB22	A鉢 D外面に赤彩を施す。	a にぶい橙 b 茶色粒子・雲母・砂粒を含む c 良好	1/3
285	SB22	A鉢 D内外面に赤彩を施す。	a 橙 b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む c 良好	完形
286	SB22	A鉢 D内外面に赤彩を施す。	a にぶい橙 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/3 (口縁)
287	SB22	A鉢	a 橙 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/6 (口縁)
288	SB22	A片口鉢	a にぶい橙 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/8 (口縁)
289	SB22	A鉢 D口縁部に注口をもつ。	a にぶい橙 b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む c 良好	1/5 (口縁)
290	SB22	A鉢 D外面に赤彩を施す。口縁部に2つで一対の穴をもつ。	a にぶい橙 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	完形
291	SB22	A片口鉢 D内外面に赤彩を施す。	a 橙 b 茶色粒子・雲母・砂粒を含む c 良好	完形
292	SB22	A片口鉢 D内外面に赤彩を施す。	a 橙 b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む c 良好	1/2 (口縁)
293	SB22	Aこしき D底部に穴を1つもつ。	a にぶい褐 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	底部
294	SB22	Aこしき D底部に穴を1つもつ。	a 橙 b 茶色粒子・砂粒・小石 (2㎜前後) を含む c 良好	底部

295	SB22	Aこしき　D底部に穴を1つもつ。	a 明赤褐　b 茶色粒子・雲母・砂粒を含む　c 良好	完形
296	SB22	Aふた　D端部を欠く。	a 黒褐　b 茶色粒子・雲母・砂粒を含む　c 良好	つまみ～端部
297	SB22	Aふた	a にぶい赤褐　b 砂粒を含む　c 良好	1/4（口縁）
298	SB23	A坏	a にぶい黄橙　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	1/8
299	SB23	A坏（須恵器）	a灰白　b茶色粒子・砂粒を含む　c良好	1/7（口縁）
300	SB23	A甕	a 橙　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	1/8（口縁）
301	SB23	A長胴甕	a 灰褐　b 金雲母・砂粒・小石（1 mm前後）を含む　c 良好	底部
302	SB24	Aふた（須恵器）	a にぶい黄橙　b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	完形
303	SB24	A坏（須恵器）　D底部回転ヘラケズリ。付高台。	a にぶい赤褐　b 砂粒・小石（3 mm前後）を含む　c 良好	1/2
304	SB24	A坏（須恵器）　D底部回転ヘラケズリ。付高台。	a灰　b砂粒を含む　c良好	1/3（底部）
305	SB24	A坏　D内面に黒色処理を施す。手持ちヘラケズリ。	a にぶい橙　b 茶色粒子・砂粒・小石（1.5 mm前後）を含む　c 良好	完形
306	SB24	A長胴甕　D外面ハケ調整	a橙　b茶色粒子・雲母・砂粒を含む　c良好	1/4（口縁～胴部）
307	SB24	A甕	a橙　b茶色粒子・雲母・砂粒を含む　c良好	底部
308	SB25	A甕　C波状文・簾状文	a明赤褐　b茶色粒子・砂粒を含む　c良好	1/6（口縁～胴部）
309	SB25	A高坏　D坏部内面、脚部外面に赤彩を施す。脚部に縦に3つ並んだ円形透窓を4ヶ所もつ。	a にぶい橙　b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	2/3（脚部）
310	SB25	A壺　B口縁部に段をもつ。D内外面に赤彩を施す。	a にぶい橙　b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	破片（口縁）
311	SB25	A高坏　D坏部内外面に赤彩を施す。	a にぶい褐　b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	1/6（坏部）
312	SB26	A甕　C波状文	a褐灰　b砂粒を含む　c良好	1/4（口縁～胴部）
313	SB26	A甕　C外面ハケ調整	a にぶい橙　b茶色粒子・砂粒を含む　c良好	1/7（口縁）
314	SB26	A鉢	a橙　b茶色粒子・砂粒を含む　c良好	1/5（口縁）
315	SB26	A甕	a橙　b茶色粒子・雲母・砂粒を含む　c良好	底部
316	SB26	A台付甕	a にぶい橙　b 茶色粒子・雲母・砂粒を含む　c 良好	1/4（台部）
317	SB26	A高坏　D脚部外面に赤彩を施す。脚部に円形透窓を2ヶ所もつ。	a褐灰　b砂粒を含む　c良好	1/7（脚部）
318	SB26	A甕　C外面ハケ調整	a にぶい橙　b茶色粒子・砂粒を含む　c良好	1/3（口縁～胴部）

319	SB28	A甕　C胴部上方に矢羽状の文様をもつ。	a 橙　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	1/4（胴部）
320	SB28	A甕	a 明赤褐　b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	1/8（口縁～胴部）
321	SB28	A甕	a にぶい橙　b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	底部
322	SB28	A甕　D底部に葉圧痕をもつ。	a にぶい橙　b 黒雲母・砂粒を含む　c 良好	1/5（底部）
323	SB28	A坏（須恵器）　D底部にヘラ状工具による1条の沈線をもつ。	a 褐灰　b 砂粒を含む　c 良好	底部
324	SB28	A長胴甕	a 明赤褐　b 砂粒・小石（1～3㎜前後）を含む　c 良好	1/2（口縁～胴部）
325	SB29	A甕	a 明赤褐　b 茶色粒子・雲母・砂粒を含む　c 良好	底部
326	SB29	A鉢　D外面に赤彩を施す。	a にぶい黄橙　b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	1/6（口縁）
327	SB29	A高坏	a にぶい橙　b 茶色粒子・金雲母　砂粒を含む　c 良好	坏部完形
328	SB30	A甕　D外面ナデ調整	a 明赤褐　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	1/7（口縁）
329	SB30	A甕　C波状文	a 橙　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	1/4（胴部）
330	SB30	A甕　C波状文	a 橙　b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	1/6（口縁）
331	SB30	A甕　C波状文	a にぶい橙　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	1/3（口縁～頸部）
332	SB30	A甕　C波状文・簾状文	a にぶい橙　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	2/3（口縁～頸部）
333	SB30	A鉢　D内外面に赤彩を施す。	a にぶい橙　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	1/7（口縁）
334	SB30	A高坏　D脚部外面に赤彩を施す。	a にぶい橙　b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	1/5（脚部）
335	SB30	A高坏　D坏部内面・外面に赤彩を施す。脚部上方に円形透窓を3ヶ所もつ。	a にぶい橙　b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	2/3（脚部）
336	SB30	A高坏　D脚部に円形透窓をもつ。	a 橙　b 茶色粒子・雲母・砂粒を含む　c 良好	1/8（脚部）
337	SB30	A高坏	a にぶい橙　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	1/3
338	SB30	A高坏　D内外面に赤彩を施す。	a にぶい橙　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	1/4（坏部）
339	SB30	A器台　D脚部に円形透窓を3ヶ所もつ。	a 橙　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	完形
340	SB30	Aミニチュア土器	a 橙　b 黒雲母・砂粒を含む　c 良好	完形
341	SB30	A甕　D口唇部に刻目を施す。外面ハケ調整	a にぶい褐　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	破片（口縁）
342	SB30	A片口鉢	a 橙　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	2/3（口縁～胴部）

343	SB31	A甕　D外面ハケ調整	a にぶい褐　b 砂粒・小石を含む c 良好	1/2 (胴部～ 底部)
344	SB31	A高坏　D坏部内面、外面に赤彩を施す。	a にぶい橙　b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	接合部
345	SB31	A高坏　D脚部に円形透窓をもつ。	a 橙　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	1/2 (脚部)
346	SB32	A甕　C波状文	a にぶい橙　b 茶色粒子・雲母・砂粒を含む　c やや不良	1/7 (口縁)
347	SB32	A高坏　D坏部内面、外面に赤彩を施す。	a にぶい橙　b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	接合部
348	SB32	A鉢　D内外面に赤彩を施す。	a 橙　b 茶色粒子・雲母・砂粒を含む c 良好	1/9 (口縁)
349	SB33	A坏	a にぶい橙　b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	2/3
350	SB34	A鉢　D内外面に赤彩を施す。	a にぶい橙　b 茶色粒子・雲母・砂粒を含む　c 良好	1/10 (口縁)
351	SB34	A甕　D外面ハケ調整	a にぶい橙　b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/3 (底部)
352	SB34	A甕	a にぶい赤褐　b 茶色粒子・雲母・砂粒を含む　c 良好	底部
353	SB34	A高坏　D坏部内面、脚部外面に赤彩を施す。	a にぶい橙　b 茶色粒子・雲母・砂粒を含む　c 良好	脚部完形
354	SB35	A甕　C波状文・簾状文	a にぶい褐　b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	1/4 (口縁～ 胴部)
355	SB35	A甕　C波状文	a にぶい橙　b 茶色粒子・雲母・砂粒を含む　c 良好	1/3 (口縁)
356	SB35	A鉢　D内外面に赤彩を施す。	a にぶい橙　b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	1/5 (胴部)
357	SB35	A鉢　D外面に赤彩を施す。	a にぶい褐　b 茶色粒子・雲母・砂粒を含む　c 良好	底部
358	SB35	A高坏	a 橙　b 茶色粒子・雲母・砂粒を含む c 良好	脚部完形
359	SB36	A甕　C波状文・簾状文	a 橙　b 茶色粒子・雲母・砂粒を含む c 良好	1/3 (口縁～ 胴部)
360	SB36	A甕　C波状文・簾状文	a にぶい赤褐　b 茶色粒子・雲母・砂粒を含む　c 良好	1/2 (口縁～ 胴部)
361	SB36	A甕　C波状文・簾状文	a 橙　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	2/3 (口縁～ 胴部)
362	SB36	A甕　C波状文・簾状文	a 橙　b 茶色粒子・雲母・砂粒を含む c 良好	1/2 (頸部～ 胴部)
363	SB36	A甕　C波状文	a 橙　b 茶色粒子・雲母・砂粒を含む c 良好	口縁～ 胴部
364	SB36	A甕　C波状文	a 赤褐　b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/2 (口縁～ 胴部)

365	SB36	A甕　C波状文・簾状文	a にぶい赤褐　b 茶色粒子・雲母・砂粒を含む　c 良好	1/3（口縁）
366	SB36	A甕　C波状文・簾状文	a 橙　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	1/2（口縁～胴部）
367	SB36	A甕	a 橙　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	1/2（底部～胴部）
368	SB36	A甕　C波状文	a にぶい橙　b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	1/2（底部～胴部）
369	SB36	A甕　D外面ハケ調整	a にぶい橙　b雲母・砂粒を含む　c 良好	底部
370	SB36	A甕	a 橙　b 茶色粒子・雲母・砂粒を含む　c 良好	完形
371	SB36	A甕	a にぶい橙　b 茶色粒子・雲母・砂粒を含む　c 良好	1/4（口縁～胴部）
372	SB36	A甕　D口唇部に面取りを施す。	a にぶい橙　b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	1/3（口縁）
373	SB36	A甕	a にぶい橙　b 茶色粒子・雲母・砂粒を含む　c 良好	底部
374	SB36	A甕	a にぶい橙　b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	1/2（底部）
375	SB36	A壺　C頸部にT字文を施す。	a にぶい褐　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	2/3（口縁～頸部）
376	SB36	A壺　C頸部にT字文を施す。	a にぶい橙　b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	1/4（口縁）
377	SB36	A壺　C頸部にT字文を施す。　D内外面に赤彩を施す。	a にぶい橙　b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	頸部
378	SB36	A壺　D外面ハケ調整	a にぶい橙　b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	1/3（頸部）
379	SB36	A高坏　D内外面に赤彩を施す。口縁部に舌状の突起をもつ。	a にぶい橙　b 茶色粒子・雲母・砂粒を含む　c 良好	1/3（口縁）
380	SB36	A高坏　D坏部内面・外面に赤彩を施す。	a にぶい橙　b 茶色粒子・金雲母・砂粒を含む　c 良好	2/3（脚部）
381	SB36	A高坏　D坏部内面・外面に赤彩を施す。	a にぶい橙　b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	2/3（脚部）
382	SB36	A高坏　D脚部外面に赤彩を施す。脚部先端に面取りを施す。	a にぶい橙　b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	1/4（脚部）
383	SB36	A高坏　D脚部外面に赤彩を施す。脚部に4つの穴をもつ。	a にぶい橙　b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	脚部完形
384	SB36	A高坏	a にぶい褐　b 茶色粒子・雲母・砂粒を含む　c 良好	接合部
385	SB36	A高坏　D坏部内面・外面に赤彩を施す。	a にぶい橙　b 茶色粒子・雲母・砂粒を含む　c 良好	2/3（脚部）
386	SB36	A高坏　D坏部内面・外面に赤彩を施す。	a 灰褐　b雲母・砂粒を含む　c 良好	接合部
387	SB36	A高坏　D内外面に赤彩を施す。	a にぶい橙　b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	1/4（坏部）
388	SB36	A高坏　D外面に赤彩を施す。	a にぶい橙　b 茶色粒子・雲母・砂粒を含む　c 良好	脚部完形

389	SB36	A高坏　D坏部内面と外面に赤彩を施す。脚部上方に三角透意をもつ。接合部に段をもつ。	a にぶい橙　b 茶色粒子・雲母・砂粒を含む　c 良好	接合部
390	SB36	A高坏	a にぶい橙　b 茶色粒子・雲母・砂粒を含む　c 良好	接合部
391	SB36	A高坏　D脚部上方に3つの穴をもつ。	a にぶい橙　b 茶色粒子・雲母・砂粒を含む　c 良好	接合部
392	SB36	A壺型土器　D頸部に2つの穴をもつ。内外面に赤彩を施す。	a にぶい赤褐　b雲母・砂粒を含む　c 良好	1/3（口縁～胴部）
393	SB36	A壺型土器　D内外面に赤彩を施す。	a にぶい褐　b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	1/3（口縁～胴部）
394	SB36	A壺型土器　D内外面に赤彩を施す。	a 橙　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	1/2
395	SB36	A鉢　D内外面に赤彩を施す。	a にぶい橙　b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	1/3（口縁）
396	SB36	A鉢　D内外面に赤彩を施す。	a にぶい橙　b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	底部
397	SB36	A鉢　D外面に赤彩を施す。口縁部が内湾する。	a にぶい褐　b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	1/4（口縁）
398	SB36	A鉢　D内外面に赤彩を施す。	a にぶい橙　b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	1/3
399	SB36	A鉢　D内外面に赤彩を施す。口縁部先端が内湾する。	a にぶい橙　b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	1/4（口縁～胴部）
400	SB36	A鉢　D外面に赤彩を施す。口縁部先端が内湾する。	a にぶい褐　b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	1/5（口縁）
401	SB36	A鉢　D外面に赤彩を施す。	a 橙　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	底部
402	SB36	A片口鉢　D内外面に赤彩を施す。口縁部が内湾する。	a にぶい橙　b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	1/2（口縁）
403	SB36	A鉢　D内外面に赤彩を施す。	a にぶい橙　b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	底部
404	SB36	A鉢　D内外面に赤彩を施す。	a 橙　b 茶色粒子・雲母・砂粒を含む　c 良好	底部
405	SB36	A片口鉢　D口縁部先端が内湾する。	a にぶい橙　b 茶色粒子・雲母・砂粒を含む　c 良好	2/3
406	SB36	A鉢　D口縁部が内湾する。	a にぶい橙　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	1/3（口縁）
407	SB36	A鉢　D口縁部先端が内湾する。	a 橙　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	1/3（口縁）
408	SB36	A鉢　D口縁部が内湾する。	a にぶい橙　b 茶色粒子・雲母・砂粒を含む　c 良好	2/3
409	SB36	Aこしき　D底部に穴を1つもつ。	a にぶい橙　b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	1/2
410	SB36	Aこしき　D底部に穴を1つもつ。	a 橙　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	1/3（口縁～底部）
411	SB36	Aふた	a 灰褐　b 茶色粒子・雲母・砂粒を含む　c 良好	1/3
412	SB36	A器台	a にぶい橙　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	1/7（受部）

413	SB37	A甕　C波状文・簾状文	a にぶい褐　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	1/5（口縁）
414	SB37	A甕	a にぶい褐　b 茶色粒子・砂粒・小石（1.5㎜前後）を含む　c 良好	1/4（口縁）
415	SB37	A甕　D口唇部に面取りを施す。	a にぶい橙　b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	1/7（口縁～頸部）
416	SB37	A甕　D外面ハケ調整	a にぶい褐　b 茶色粒子・雲母・砂粒を含む　c 良好	1/4（口縁）
417	SB37	A甕　DS字状口縁をもつ。外面ハケ調整	a にぶい橙　b 茶色粒子・雲母・砂粒を含む　c 良好	1/7（口縁）
418	SB37	A甕　C波状文・簾状文	a 橙　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	完形
419	SB37	A甕　D底部に葉圧痕をもつ。	a にぶい橙　b 茶色粒子・雲母・砂粒を含む　c 良好	底部
420	SB37	A甕　D底部に葉圧痕をもつ。	a にぶい橙　b 茶色粒子・金雲母・砂粒を含む　c 良好	底部
421	SB37	A甕	a にぶい橙　b 茶色粒子・雲母・砂粒を含む　c 良好	底部
422	SB37	A甕　Dハケ調整	a にぶい褐　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	1/2（口縁～胴部）
423	SB37	A甕　Dハケ調整	a にぶい橙　b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	1/2（底部～胴部）
424	SB37	A甕　D口唇部に面取りを施す。ハケ調整	a にぶい橙　b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	1/3（口縁）
425	SB37	A甕　B口縁部が直立する。　D426と同一個体と思われる。	a にぶい橙　b 茶色粒子・砂粒・小石（1㎜前後）を含む　c 良好	1/7（口縁～胴部）
426	SB37	A甕　D425と同一個体と思われる。	a にぶい黄橙　b 茶色粒子・砂粒・小石（1㎜前後）を含む　c 良好	底部
427	SB37	A甕　Dハケ調整	a にぶい赤褐　b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	1/4（底部）
428	SB37	A小型丸底土器	a にぶい橙　b 茶色粒子・雲母・砂粒・小石（0.5㎜前後）を含む　c 良好	完形
429	SB37	A壺	a にぶい橙　b 茶色粒子・雲母・砂粒を含む　c 良好	底部
430	SB37	A壺	a 灰褐　b 茶色粒子・雲母・砂粒を含む　c 良好	底部
431	SB37	A壺　B口唇部に面取りを施す。口縁部に段をもつ。	a にぶい橙　b 茶色粒子・雲母・砂粒を含む　c 良好	1/2（口縁～頸部）
432	SB37	A壺　B口縁部に段をもつ。	a にぶい橙　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	1/8（口縁～頸部）
433	SB37	A壺　D口縁部を外側に折り返す。口唇部に押圧縄文を施す。	a にぶい橙　B 茶色粒子・雲母・砂粒を含む　c 良好	1/6（口縁）
434	SB37	A壺	a 灰黄褐　b 茶色粒子・雲母・砂粒を含む　c 良好	1/8（口縁）
435	SB37	A壺　D1条の沈線をもつ。	a 橙　b 茶色粒子・雲母・砂粒を含む　c 良好	1/5（頸部）

436	SB37	A高坏	a 橙 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/5 (坏部)
437	SB37	A高坏	a 橙 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	2/3 (坏部)
438	SB37	A高坏	a 橙 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/2 (坏部)
439	SB37	A高坏 D内外面に赤彩を施す。口縁部に舌状の突起をもつ。	a 橙 b 茶色粒子・砂粒・小石（1㎜前後）を含む c 良好	2/3 (坏部)
440	SB37	A高坏 D内外面に赤彩を施す。	a にぶい褐 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/4 (坏部)
441	SB37	A高坏 D坏部内面・外面に赤彩を施す。	a にぶい褐 b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む c 良好	脚部完形
442	SB37	A高坏 D坏部内面・外面に赤彩を施す。	a にぶい橙 b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む c 良好	接合部
443	SB37	A高坏 D脚部に円形透窓を２段にもつ。	a にぶい褐 b 茶色粒子・黒雲母・砂粒・小石（1㎜前後）を含む c 良好	接合部
444	SB37	A高坏	a 橙 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/2 (脚部)
445	SB37	A器台	a にぶい褐 b 茶色粒子・金雲母・砂粒を含む c 良好	1/3 (受部)
446	SB37	A器台	a にぶい褐 b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む c 良好	1/7 (受部)
447	SB37	A器台	a にぶい橙 b 茶色粒子・金雲母・砂粒を含む c 良好	1/2 (受部)
448	SB37	A器台 D内外面に赤彩を施す。	a にぶい橙 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/6 (受部)
449	SB37	A高坏	a にぶい橙 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	接合部
450	SB37	A器台 D脚部上方に円形透窓を３ヶ所もつ。	a にぶい橙 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	接合部
451	SB37	A片口鉢 D外面ハケ調整	a 橙 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/2
452	SB37	A鉢 D内外面に赤彩を施す。	a にぶい橙 b 茶色粒子・雲母・砂粒を含む c 良好	1/4 (口縁)
453	SB37	A鉢 D外面ハケ調整	a 灰褐 b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む c 良好	1/2
454	SB37	A鉢	a にぶい橙 b 茶色粒子・雲母・砂粒を含む c 良好	1/4
455	SB37	A鉢 D内外面に赤彩を施す。	a にぶい橙 b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む c 良好	1/2 (底部)
456	SB37	A鉢 D外面に赤彩を施す。	a にぶい橙 b 茶色粒子・雲母・砂粒を含む c 良好	1/6
457	SB37	A鉢 D内外面に赤彩を施す。	a にぶい褐 b 茶色粒子・雲母・砂粒を含む c 良好	1/9 (口縁)
458	SB37	A鉢	a にぶい橙 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	底部
459	SB37	A鉢	a 橙 b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む c 良好	1/9 (口縁)
460	SB37	A鉢	a にぶい橙 b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む c 良好	1/8 (口縁)

461	SB37	A小型丸底土器	a にぶい褐　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	2/3
462	SB37	A小型丸底土器	a 橙　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	1/7
463	SB37	Aふた	a にぶい橙　b 茶色粒子・砂粒を含む　c やや不良	つまみ
464	SB37	Aふた　Dつまみ部に穴を1つもつ。	a 褐　b 茶色粒子・砂粒を含む　c やや不良	つまみ
465	SB37	Aミニチュア土器	a 橙　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	1/2
466	SX01	A碗	a にぶい黄橙　b 砂粒を含む　c 良好	1/4（底部）
467	SX01	A碗（山茶碗）　D底部回転糸切り。東濃系。13 C後～ 14 C前。	a 明青灰　c 良好	1/4（底部）
468	SX01	A碗（青磁）　D龍泉窯。13 C後～ 14 C前。	a 明青灰　c 良好	1/4（底部）
469	SX01	A皿（青磁）　D龍泉窯。13 C。	a 明青灰　c 良好	1/5（底部）
470	SX01	Aコネ鉢（陶器）　D常滑。13 C末～ 14 C前。	a 青灰　b 小石（1㎜前後）を含む　c 良好	1/6（底部）
471	SD01	A壺　B口縁部に段をもつ。	a にぶい褐　b 茶色粒子・白色粒子・砂粒を含む　c 良好	1/8（口縁）
472	SD01	A台付甕	a 赤褐　b 茶色粒子・白色粒子・砂粒を含む　c 良好	1/4（脚部）
473	SD02	A高坏　D外面に赤彩を施す。	a 明褐　b 白色粒子・砂粒を含む　c 良好	接合部
474	SK02	A甕　D外面ハケ調整。底部に葉圧痕をもつ。	a 暗褐　b 白色粒子・砂粒を含む　c 良好	底部
475	SK19	A甕　C波状文・簾状文	a 赤褐　b 白色粒子・砂粒を含む　c 良好	1/4（口縁）
476	SK77	A坏	a 橙　b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	1/4
477	SK110・111	A坏（須恵器）　D底部回転ヘラケズリ。付高台。	a 灰白　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	底部
478	SK107・108・109	A長胴甕	a にぶい橙　b 砂粒を含む　c 良好	1/2（底部）
479	SK110・111	A甕　D外面ハケ調整	a 赤褐　b 砂粒を含む　c 良好	1/4（底部）
480	SK185	A手捏土器	a 極暗褐　b 白色粒子・砂粒を含む　c 良好	1/2
481	SK185	A甕　C波状文・簾状文	a 暗赤褐　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	1/4（口縁）
482	SK185	A台付甕　D胴部内面にハケ調整を施す。	a にぶい橙　b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む　c 良好	台部
483	SK185	A鉢　D内外面に赤彩を施す。	a 橙　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	1/4
484	SK199	A器台　D内外面に赤彩を施す。円形透窓を受部に13ヶ所、脚部に3ヶ所もつ。	a 橙　b 茶色粒子・白雲母・砂粒を含む　c 良好	1/2
485	SK256	A高坏　D脚部に円形透窓をもつ。外面に赤彩を施す。	a 橙　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	1/2（脚部）

486	SK279	A皿（土師質土器）　D底部回転糸切り	a浅黄橙　b茶色粒子を含む　c良好	1/4（底部）
487	SK299	A皿（土師質土器）	a浅黄橙　c良好	1/6（口縁）
488	SK317	A坏（須恵器）　D底部回転糸切り。付高台。	a明赤褐　b砂粒を含む　c良好	2/3（底部）
489	SK318	Aスリ鉢（瓦器質土器）　D 13 C後？	a 黒　b 茶色粒子・砂粒を含む　c 良好	1/5（口縁）
490	SK318	Aスリ鉢（須恵質土器）	a青灰　b砂粒を含む　c良好	破片
491	SK318	Aコネ鉢（陶器）　D常滑。壺をコネ鉢に転用。	a褐灰　b小石（1.5㎜前後）を含む　c良好	1/4（底部）
492	SK319	A合子（青白磁）　D 13 C～14 C。	a灰白　c良好	1/3
493	SK319	A壺（須恵質土器）　C波状文　D珠洲焼。13 C。	a灰　b砂粒を含む　c良好	破片
494	SK342	A皿（土師質土器）　D底部回転糸切り	aにぶい黄橙　b茶色粒子を含む　cやや不良	1/4（底部）
495	SK358	A碗（灰釉陶器）　D転用硯として転用していたと思われる。	a灰白　c良好	1/4（底部）
496	SK344	A皿（土師質土器）	a 浅黄橙　b 茶色粒子を含む　c 良好	1/6（口縁）
497	SK359	A高坏（須恵器）	a灰　b砂粒を含む　c良好	接合部
498	SK350	Aコネ鉢（山茶碗）　D 13 C～14 C。大皿をコネ鉢に転用。	a灰白　b小石を含む　c良好	1/6（底部）
499	SK359	A皿（土師質土器）	a にぶい橙　b 砂粒を含む　c ややや不良	1/8
500	SK366	A碗（青磁）	a 灰白　c 良好	1/6（口縁）
501	SK370	A壺（陶器）　D常滑。13 c後以降。	a灰　b小石を含む　c良好	破片
502	SK381	A甕（土師質土器）	a浅黄橙　b茶色粒子・砂粒を含む　c良好	1/4（底部）
503	SK381	A坏（須恵器）　D底部回転ヘラケズリ	a灰　b砂粒を含む　c良好	1/4（底部）
504	SK381	A広口壺（灰釉陶器）　D 10 C～11 C。	a灰白　c良好	1/4（口縁）
505	SK381	A皿（土師質土器）	a灰白　cやや不良	1/4（口縁）
506	SK381	A壺（陶器）　D常滑。壺を転用してスリ鉢にしている。	a灰　b砂粒を含む　c良好	1/5（底部）
507	SK381	A皿（青磁）　D龍泉窯。13 C。	a灰白　c良好	破片
508	SK397	A碗　C飛雲文　D龍泉窯劃花文碗。12 C後。	a灰白　c良好	1/8（口縁）
509	SK447	A甕	aにぶい橙　b茶色粒子・砂粒を含む　c良好	底部
510	SK447	A高坏　D外面に赤彩を施す。	aにぶい褐　b茶色粒子・砂粒を含む　c良好	1/4（脚部）
511	SK	A壺（陶器）　D常滑。13 C。	a灰　b砂粒を含む　c良好	破片
512	Tr－01	A高坏　D脚部に円形透窓を3ヶ所もつ。	a にぶい褐　b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む　c良好	1/2（脚部）

513	Tr－01	A高坏	a にぶい橙　b 砂粒を含む　c やや不良	1/2（脚部）
514	Tr－01	A高坏	a 橙　b 砂粒を含む　c 良好	破片
515	Tr－01	Aこしき　D底部に穴を1つもつ。	a 明赤褐　b 黒雲母・砂粒を含む　c 良好	底部
516	不　明	A甕（弥生前期）　C外面に条痕文を施す。口唇部に刺突を施す。	a 明褐灰　b 小石（1.5 ㎜前後）を含む　c 良好	破片
517	不　明	A甕（弥生前期）　C外面に条痕文を施す。口唇部に刺突を施す。	a 灰褐　b 砂粒・小石（1.5 ㎜前後）を含む　c 良好	破片
518	不　明	A深鉢（弥生前期）　C縄文を施す。	a 褐灰　b 砂粒を含む　c 良好	破片
519	不　明	A壺	a 暗赤褐　b 茶色粒子・白色粒子・砂粒を含む　c 良好	1/4（頸部）
520	不　明	A甕	a 赤褐　b 茶色粒子・白色粒子・砂粒を含む　c 良好	1/4（口縁）
521	不　明	A甕	a にぶい赤褐　b 茶色粒子・黒雲母・砂粒・小石（0.5 ㎜前後）を含む　c 良好	1/8（口縁）
522	不　明	A高坏　D内外面に赤彩を施す。	a 明赤褐　b 茶色粒子・白色粒子・砂粒を含む　c 良好	脚部
523	不　明	A高坏	a 橙　b 茶色粒子・白色粒子・砂粒を含む　c 良好	接合部
524	不　明	Aふた	a 明赤褐　b 砂粒を含む　c 良好	つまみ
525	不　明	Aふた　Dつまみ部に穴を5つもつ。	a 赤褐　b 砂粒を含む　c 良好	つまみ
526	不　明	Aふた（須恵器）	a 紫灰　b 砂粒・小石（1 ㎜前後）を含む　c 良好	つまみ
527	不　明	A坏（須恵器）　D底部回転ヘラケズリ。付高台。	a 明青灰　b 砂粒を含む　c 良好	1/4（底部）
528	不　明	A坏（須恵器）　D底部回転ヘラケズリ。付高台。	a 青灰　b 砂粒を含む　c 良好	1/4（底部）
529	不　明	A広口壺（灰釉陶器）	a 灰白　c 良好	1/5（底部）
530	不　明	A碗（鉄釉陶器）　D瀬戸・美濃。18 C。付高台。	a 浅黄橙　c 良好	1/2（底部）
531	不　明	A火鉢　D江戸時代	a 赤　b 金雲母・砂粒を含む　c 良好	1/6

石器観察表

NO	出土遺構	名　称	時　期	石　材	特　徴
532	SB36	有舌尖頭器	縄文時代	チャート	
533	SB01	打製石鏃	縄文時代	黒曜石	
534	SB03・04	打製石鏃	縄文時代	黒曜石	
535	SB08	打製石鏃	縄文時代	黒曜石	
536	SB15	打製石鏃	縄文時代	黒曜石	
537	SB06 下層	石包丁	弥生時代	頁岩	1つの穴が穿孔されている。
538	SB06 下層	石包丁	弥生時代	頁岩	
539	SB16	石包丁	弥生時代	頁岩	1つの穴が穿孔されている途中。

540	SB12	石包丁	弥生時代	頁岩	1つの穴が穿孔されている。
541	SB12	石包丁	弥生時代	頁岩	素材を整形している途中。
542	SB22	石包丁	弥生時代	頁岩	1つの穴が穿孔されている。
543	SB30	石包丁	弥生時代	頁岩	
544	SB30	石包丁	弥生時代	頁岩	
545	SB30	石包丁	弥生時代	頁岩	
546	SB36	石包丁	弥生時代	頁岩	1つの穴が穿孔されている。
547	SB36	石包丁	弥生時代	頁岩	1つの穴が穿孔されている。
548	不明	石包丁	弥生時代	頁岩	素材を整形している途中。
549	表採	石包丁	弥生時代	頁岩	1つの穴が穿孔されている。
550	SK212	丸石	中世	安山岩	中世の柱穴より出土。
551	SK352	丸石	中世	砂岩	中世の柱穴より出土。
552	不明	石包丁	弥生時代	頁岩	素材を整形している途中。
553	SK318	丸石	中世	珪岩	中世の柱穴より出土。
554	SK343	丸石	中世	砂岩	中世の柱穴より出土。
555	SB02	打製石斧		頁岩	
556	SB02	打製石斧		頁岩	
557	不明	打製石斧		頁岩	
558	不明	打製石斧		頁岩	
559	SB14	打製石斧		頁岩	
560	SB03・04	打製石斧		頁岩	
561	SK193	石鏃	弥生時代	頁岩	
562	SB26	たたき石		頁岩	
563	SB03	凹石		安山岩	
564	SB03	凹石		珪質頁岩	
565	SB28	凹石		砂岩	
566	SB36	凹石		珪岩	
567	SK193	凹石		安山岩	
568	H13	凹石		安山岩	
569	SK212	凹石		安山岩	
570	SB03	たたき石		安山岩	
571	SB03・04	たたき石		安山岩	
572	SD01	たたき石		安山岩	
573	SB11	砥石		安山岩	
574	SB32	砥石		頁岩	
575	SB07	砥石	平安時代	砂岩	
576	SB16	砥石		珪質頁岩	
577	SB37	砥石	中世	砂岩	

578	SB37	砥石		凝灰岩	
579	SK381	砥石		砂岩	
580	SB29	砥石	古墳時代前期	安山岩	
581	SK370	砥石		砂岩	
582	SK318	砥石		頁岩	
583	SK381	砥石		頁岩	
584	SB31	砥石	古墳時代前期	安山岩	
585	不 明	砥石		頁岩	
586	不 明	砥石		安山岩	
587	SK381	砥石		砂岩	
588	SB01	磨石		安山岩	
589	SB06	磨石		安山岩	
590	SB26	磨石		安山岩	
591	SB14	磨石		砂岩	
592	SD03	磨石？		安山岩	
593	SB37	磨石		砂岩	
594	SB36	磨石		安山岩	
595	SD03	磨石？		軽石	
596	SB36	磨石		安山岩	
597	SK381	磨石		安山岩	
598	SK381	磨石		安山岩	
599	SK280	磨石		安山岩	
600	SK317	磨石		砂岩	
601	SB03	磨石		安山岩	
602	SB24	磨石		安山岩	
603	SB03・04	磨石		安山岩	
604	SB15	磨石		安山岩	
605	SB22	磨石		安山岩	
606	SB02	磨石		安山岩	
607	SK278	磨石		安山岩	
608	SB28	磨石		安山岩	
609	不 明	磨石		砂岩	
610	SB22	磨石		安山岩	
611	SB29	磨石		安山岩	
612	SB24	磨石		安山岩	
613	SK278	磨石		安山岩	
614	H13	磨石・石錘		安山岩	
615	SX01	台石	中 世	安山岩	

616	SB24	カマド支脚	奈良時代	安山岩	
617	SK343	?	中　世	砂岩	柱穴より出土。
618	SK347	?	中　世	安山岩?	柱穴より出土。
619	SB22	石核		頁岩	
620	SB36	磨石		安山岩	

その他観察表

NO	出土遺構	名　称	時　期	材　質	特　徴
621	SD03	銭貨	中　世	青銅	「元豊通宝」
622	SD03	銭貨	中　世	青銅	「元豊通宝」
623	SD03	銭貨	中　世	青銅	「元豊通宝」
624	SD03	銭貨	中　世	青銅	「聖宋元宝」
625	SD03	銭貨	中　世	青銅	「政和通宝」
626	SD03	銭貨	中　世	青銅	「○和○宝」
627	SD03	銭貨	中　世	青銅	「政和通宝」
628	SD03	銭貨	中　世	青銅	「皇宋通宝」
629	SD03	銭貨	中　世	青銅	「皇宋通宝」
630	SD03	銭貨	中　世	青銅	「紹聖元宝」
631	SD03	銭貨	中　世	青銅	「紹聖元宝」
632	SD03	銭貨	中　世	青銅	「熙寧元宝」
633	SD03	銭貨	中　世	青銅	「天聖元宝」
634	SD03	銭貨	中　世	青銅	「○○通宝」
635	SD03	銭貨	中　世	青銅	「熙寧元宝」
636	SD03	銭貨	中　世	青銅	「大観通宝」
637	SD03	銭貨	中　世	青銅	「○○元宝」
638	SD03	銭貨	中　世	青銅	「元祐通宝」
639	SX01	銭貨	中　世	青銅	「祥符元宝」
640	SK258	銭貨	中　世	青銅	「天聖元宝」 柱穴より出土。
641	SK351	銭貨	中　世	青銅	「大観通宝」 柱穴より出土。
642	SK325	銭貨	中　世	青銅	「元豊通宝」 柱穴より出土。
643	不　明	銭貨	中　世	青銅	「熙寧元宝」
644	SB06	棒状鉄製品		鉄	
645	不　明	棒状鉄製品		鉄	
646	SB07	刀子	平安時代	鉄	
647	SB32	不明	弥生時代	鉄	
648	SB36	鑿	弥生時代	鉄	
649	SB07	鉄滓	平安時代		

650	SB07	鉄滓	平安時代		
651	SB07	鉄滓	平安時代		
652	SB07	鉄滓	平安時代		
653	SB07	鉄滓	平安時代		
654	SB07	鉄滓	平安時代		
655	SB03・04	土製スプーン	弥生時代	土製	
656	SB05下	紡錘車	弥生時代	土製	
657	SB37	紡錘車	弥生時代	土製	
658	SB25	土製円盤	弥生時代	土製	
659	SB36	土製円盤	弥生時代	土製	
660	SB05下	不明	弥生時代	土製	
661	SB06下層	土製勾玉	弥生時代	土製	赤彩を施す。
662	SB36北隅	管玉	弥生時代	碧玉	

第四節　まとめ

＜弥生時代後期～古墳時代前期＞

当該期は、箱清水式系の土器を器種構成の中に残す時期までと箱清水式系の土器がみられなくなる時期について考えたい。集落内容は、隣接する浦田Ａ遺跡とほぼ同様である。つまり、①弥生時代後期箱清水式期に集落が形成されたと思われる。弥生時代後期の土器はそのほとんどが箱清水式土器で構成されている。土器は球胴化への指向が始まっている。②古墳時代初頭には、北陸系や東海系の外来土器が在地系の土器と共に多くみられるようになる。③古墳時代前期には、赤色塗彩された鉢・高坏に弥生時代後期の影響が残るのみとなる。この様な状況は、浦野川の上流域で隣接する琵琶塚遺跡でも確認できる。当該期の集落は浦田Ｂ遺跡のような規模の集落が中小河川に沿って点在していることが考えられる。

特筆される事柄としてⒶ石包丁の出土量が多いことⒷ鉄製鑿(のみ)の出土が上げられる。

Ⓐ石包丁は、浦田Ａ遺跡と同様に出土量が多かった。未製品も含めて１４点が出土した。いずれも、頁岩製で一穴のものである。形態は半月型・長方形が多い。また、当該期の竪穴住居からは、製作に関与したと思われる台石・敲打石・磨石が出土している。

Ⓑ鉄製鑿(のみ)はＳＢ３６（弥生時代後期）から出土している。出土した時には厚さ０．５㎝程の錆に覆われていた。錆を落として形状を確認すると、長さ約２３㎝×幅約０．７㎝・厚さ約０．８㎝であった。穂先は、恐らく片刃のものが使い込まれているために両刃状を呈していると思われる。また、刃部は古墳時代に一般的に出土している鑿とは異なり、広がらない（無肩で無関）。身は、僅かに右に曲がっている。

さて、中部高地において、鉄器が確認できるのは弥生時代中期後半になってからという。板状鉄斧が光林寺裏山遺跡（長野市）・泰山Ｂ遺跡（長野市）・社宮司遺跡（佐久市）などで出土している。以後、弥生時代後期箱清水式期になると、その出土量が急激に増加する。鉄器は、有袋鉄斧・板状鉄斧・釣り針・鎌・鋤先・鉄鏃・鉄剣・鉄矛・鉄釧などが県内各地で出土している。しかし、鑿については、その出土例を確認できない。周辺地域の状況をみると、南関東では、中期後半宮ノ台式期に出現し、漸次長大化していくという。形態は古墳時代前期までのものは穂先が無肩で無関の棒状品であるという。北陸では、弥生時代後期に出土例（新潟県砂山遺跡）があるという。

上小地方の当該期の鉄器は、鉄鏃（城の前北遺跡）・板状鉄斧（琵琶塚遺跡）・鉄釧（上田原遺跡）・鉄矛（上田原遺跡）・その他に不明鉄製品が和手遺跡・浦田Ｂ遺跡（６４４・６４７）から出土している。

この様に、上小地方にも鉄製品が多く流通しており当該遺跡の鑿もその内の１つである。これは、東日本の鉄器文化の普及の流れの中に位置づけられる事例の１つになると思われる。

＜古墳時代＞

遺物がほとんど無いが、①奈良時代の竪穴住居（ＳＢ１５・２４）に掘立柱建物が切られていること②弥生時代の竪穴住居を切っていることから、古墳時代後期から奈良時代にかけての時期の掘立柱建物集落と考えたい。当該期の集落は関東地方では竪穴住居により構成されたものである。上小地方においても同様である。一方、畿内においては、掘立柱建物集落が次第に一般化していった時期にあたる。当該遺跡の掘立柱建物の規格はＳＴ１０（９ｍ×４ｍ）・ＳＴ０８（６ｍ×４．５ｍ）と大規模なものがある。それらは、Ⓐそれぞれある程度の間隔をおいて配置されている。Ⓑ溝（ＳＤ０１・０２）を基準にして建物が配置されている。Ⓒ溝（ＳＤ０２）が浦田Ａ遺跡で確認された溝と同一のものである。Ⓓ同一であるとすれば、産川から取水して浦野川に水を落としている用水路となる。この様に、大規模に計画された掘立柱建物集落であることが考えられる。これらのことから有力者の屋敷地とも考えられる。

＜奈良・平安時代＞

当該遺跡では、奈良時代を中心とした集落が確認できる。上小地方では、岡石遺跡D地点（青木村）・林之郷遺跡A地区（上田市）・藤之木遺跡（上田市）・琵琶塚遺跡（上田市）・弧籠田遺跡（上田市）・国分寺周辺遺跡群（上田市）などで確認できる。弧籠田遺跡以外は、竪穴住居を中心とした集落となる。また、数軒を１つの単位とした比較的小規模な集落が目立つ。浦田遺跡も小集落である。方形の竪穴住居と長方形の竪穴住居がセットとなっているようである。いずれにしても、数軒で１つの単位とした小集落が点在している景観が上小地方の奈良時代の集落の在り方と思われる。

＜中世＞

当該遺跡では、中世前期の屋敷地を確認することができた。第６図の①～③期までの時期を想定した。遺構の配置の組み合わせは掘立柱建物の主軸方向の共通性を中心に考えた。ただし、④は所属時期を保留とした遺構である。出土遺物は、１２世紀後半から１４世紀前半までの陶磁器等が確認されている。遺構の存続期間も概ねこの期間内に含まれると捉えておきたい。特に、遺物の出土量から１３世紀が中心となると思われる。①期は、集落が溝で囲まれる以前の状況である。②期は、南側の溝（ＳＤ０３）と池状遺構（ＳＸ０１）が構築された時期である。③期は、「館（やかた）」としての体裁が完成した時期と考える。

さて、当該遺跡を（１）村落類型からみた静態的な視点と（２）村落の消長からみた動態的な視点によってみてみたい。（１）村落類型からみた静態的な視点は、集落のある一定の時期の形態について観察を行うことによって集落の発展段階を把握する見方である。（２）村落の消長からみた動態的な視点とは、集落の発展段階の連続性に目を向けることである。それぞれの視点により当該遺跡を検討してみたい。

（１）村落類型からみた静態的な視点からは、①②③の３期についてそれぞれ検討を行いたい。①期は、ほぼ同規模の掘立柱建物（ＳＴ１７・１９・２０・２１）により構成されている。その配置は、「コ」字或いは「L」字状の官衙的な配置を採らず分散的である。同時期の井戸としてはＳＫ２７９が考えられる。②期になると、溝（ＳＤ０３）に囲まれるようになる。掘立柱建物は規模の大きなもの（ＳＴ２４）が出現してくる。この場所に何度も掘立柱建物の建て替えがみられる。ＳＴ２４は主屋と思われる。ＳＴ２３・２７は副屋となろうか。また、池状遺構（ＳＸ０１）がみられる。この様な遺構は和気遺跡（大阪府和泉市）・草戸千軒遺跡（広島県福山市）などの西日本の館に類例の多い施設である。溝に囲まれて、ほぼ中央に広場をもつ形態は屋敷地として捉えるべきものと思われる。③期には、当該遺跡で最大の掘立柱建物（ＳＴ３１）が建てられる。主屋と考えたい。ＳＴ２８・２９・３０は副屋となろうか。また、柵列（ＳＡ０１）に囲まれた掘立柱建物（ＳＴ３３）が存在する。これは、竪穴状遺構を伴う掘立柱建物である。この様な遺構は厩（うまや）であるとの説もある。主屋及び正面から直接見られないようにしてあることは、裏方の施設であることを示唆していると思われる。この掘立柱建物に伴うようにＳＴ３２がある。これは、ＳＴ２９とほぼ同じ規模になると思われる。「下人・所従」と呼ばれた人々の起居した場所であるかもしれない。井戸はＳＫ３１９を使用していたと思われる。また、ＳＴ２９の場所は正面の空間としてある一定の期間は広場として使用されていた可能性もある。

（２）村落の消長からみた動態的な視点からみると、①期は「自立」した経営を行っていた農民層の集落と捉えることができる。②期は所謂「屋敷」が形成されており、屋敷地内を作業小屋・厩・倉庫・納屋などといった機能的な建物配置をしていると思われる。富裕農民層（在家）或いは武士階級の屋敷地と考えることができる。③期は「館（やかた）」と呼ぶべき建物規模となる。領主層の館と考えることもできる。これら中世の遺構が形成されている場所は、限定されており、周辺に広がっているとは思われない。特に、ＳＴ２８・３１の場所は①期から③期まで何度も同じ場所で建て替えが行われており、当該遺跡の主要な部分であることが考えられる。遺構全体をみても、中世の遺構は南地区の溝（ＳＤ０３）に囲まれた部分の

みに集中しており、居住者に継続性のあることが推測できる。この事から、居住者が「自立性の高い農民層」から次第に「領主層」へと転化していったことが伺える。

次に、②③期にみられる「溝を巡らせた遺跡」としての類例は、県内では小池遺跡（松本市・１２世紀後半から１４世紀前半）・石川条里遺跡の堀をもつ館（長野市・１４世紀後半から１５世紀後半）がみられるぐらいである。当該遺跡と同時期・同規模の遺構は県内ではなかなか見当たらない。類例を（３）関東地方及び畿内（４）絵画資料に求めてみたい。

（３）関東地方及び畿内に目を向けると、いくつかの類似資料が確認できる。関東地方では、宮久保遺跡（神奈川県）・上浜田遺跡（神奈川県）・東田遺跡（群馬県）などがある。宮久保遺跡はⅠ期（１２世紀後半から１３世紀前半）には櫓列ないしは垣根のようなものが巡っている。Ⅱ期（１３世紀後半から１４世紀）には９０ｍ四方の屋敷地を形成している。中心的な建物は面積約１７０㎡である。在地領主の居館か、その上のクラスの居住者を想定している。上浜田遺跡（１３世紀中頃から１５世紀前半）は、４０×７０ｍ程の屋敷地をもつ。武士の館と考えられている。東田遺跡（１４世紀から１５世紀）は方４０ｍ程の広さをもつ。「在家」などの有力農民層の屋敷と捉えられている。畿内では、宮田遺跡（大阪府）・和気遺跡（大阪府）などがある。宮田遺跡（１２世紀中頃成立）は櫓及び溝で区画され母屋とその付属建物と井戸により構成されていた。自立的な農民層のものと考えられている。和気遺跡（１２世紀後半から１３世紀中頃）は、幅２～３．５ｍ・深さ０．５～１ｍの濠に囲まれている。当該遺跡と同様に池状遺構をもっている。在地領主化した武士団の館或いは富豪層の館と考えられている。

これらの事例からは、当該遺跡の規模・建物配置・付属施設が比較の対象となると思われる。当該遺跡は一辺が５０～６０ｍの方形の屋敷地となると思われる。主屋や副屋となるものも確認できる。特に、③期の遺構は、屋敷地や建物の規模が大きく、武士の館としても遜色無いと思われる。

（４）絵画資料には、絵巻物がある。特に、「一遍上人絵伝」には、佐久の小田切の里の武士の館・大井太郎の館が描かれている。小田切の里の館・大井太郎の館には用水路が流れている。さらに、大井太郎の館には池状の遺構もみられる。他の絵巻物に描かれた館もみてみると、外側に堀或いは濠が巡らされるものは武士の館に多いが、長者と呼ばれる人々の屋敷にもみられる。（山本直人「絵巻物による建物の一考察」『名古屋大学文学部研究論集１１９』１９９４）また、絵巻物に描かれた武士の館に共通することは、主屋が解放的で前面に広い庭をもっていることが指摘されている。（玉井哲雄「絵巻物の住宅を考古学発掘史料から見る」『絵巻物の建築を読む』１９９６）

当該遺跡は、絵巻物（大井太郎の館など）に描かれている状況とよく一致している。これらの絵巻物は当該遺跡の景観を彷彿とさせる。

以上の事柄を含めて若干の（５）まとめをしておきたい。古代の終わりから中世にかけての居館の変遷は、東日本では１２世紀後半から１３世紀前半に成立する事例が多いと言われている。同時期には建物群は散在するが、建物群を溝で区画する例が多くなり「屋敷」としての体裁が整えられてくるとしている。また、数世代以上にわたる屋敷地の相続も確認できるようである。（坂井秀弥「遺跡が語る開発と村の歴史」『月刊文化財１１№３９８』１９９６）「館」・「屋敷」であることの条件として①住居の他に倉庫・厩・井戸を備える。また、②「下人・所従」などの従属民の起居した場所を備える。③生活の場としての独立した方形の屋敷地をもつ。④屋敷地の外側には堀・土塁・塀などの区画施設をもつ。⑤屋敷地の周囲には生産の場である耕地或いは牧場をもつことが考えられる。

当該遺跡においても、①主屋（ＳＴ２４・３１）・副屋（ＳＴ２３・ＳＴ２８）の他に倉庫・厩（ＳＴ３３・ＳＴ３５）・井戸（ＳＫ２７９・３１９）を設置していることが推測される。また、作業場と考えられる竪穴状遺構（ＳＫ３１６・３１７・３１８）もある。②主屋・副屋からやや離れて従属民の起居し

た場所（ＳＴ２７・３２）が想定される。これらの配置は、主屋の裏側と思われる西側に井戸・「下人・所従」などの従属民の起居した場所を配置し、北側に作業場と考えられる竪穴状遺構を配置している。同じ場所で建て替えが行われていることから、屋敷内での機能的な建物配置には変化が少なかったことが考えられる。中世の遺構は溝（ＳＤ０３とトレンチ調査により西側にも溝を確認できたことから④屋敷地は溝により方形に区画されていることが想定される。）に囲まれた場所以外には確認できなかったことから③独立した方形の屋敷地であったと思われる。また、⑤屋敷地の周囲には生産の場である耕地或いは牧場をもつことが考えられるが、考古学的に確認することができなかった。

当該遺構は、この様に「屋敷」或いは「館」であると考えられる。その変遷の仕方は、居住者が「自立性の高い農民層」の集落から次第に「領主層」の館へと転化していったことが考えられる。また、その成立時期は東日本の館の成立時期（１２世紀後半から１３世紀前半）と同じ頃と考えられる。以上、雑ぱくではあるが調査者の所見を述べてみた。当該遺跡については、長野県の居館の資料の１つとして今後とも検討していく必要があると思われる。

＜参考・引用文献＞

臼居直之・町田勝則「中部高地における鉄器の出現と展開」『東日本における鉄器文化の受容と展開』１９９７

大村直「南関東地方における鉄器の普及過程」『東日本における鉄器文化の受容と展開』１９９７

橋本博文「北陸における鉄器の普及と展開」『東日本における鉄器文化の受容と展開』１９９７

村上恭通『倭人と鉄の考古学』１９９８

石井進「鎌倉武士と館」『城の語る日本史』１９９６

市川隆之「中世後半の溝・堀を巡らせる遺跡について」『中部高地の考古学Ⅳ』１９９４

坂井秀弥「遺跡が語る開発と村の歴史」『月刊文化財１１№３９８』１９９６

坂井秀弥「庁と館、集落と屋敷－東国古代遺跡にみる館の形成」『城と館を掘る・読む』１９９４

佐久市志刊行会『佐久市志歴史編（二）中世』１９９３

鋤柄俊夫「長野県の中世集落遺跡について」『長野県考古学会誌５０』１９８６

須田茂「有力農民の屋敷」『よみがえる中世５－浅間火山灰と中世の東国』１９８９

玉井哲雄「絵巻物の住宅を考古学発掘史料から見る」『絵巻物の建築を読む』１９９６

長野県考古学会『長野県における中世考古学の諸問題』１９９７

新田町教育委員会『東田遺跡』１９８７

橋口定志「中世居館研究の現状と問題点Ⅳ」『考古学と中世史研究』

橋口定志「中世方形館の形成」『季刊考古学第３９号中世を考古学する』１９９２

広瀬和雄「中世村落の形成と展開」『物質文化５０』１９８８

広瀬和雄「中世への胎動」『岩波講座日本考古学６』岩波書店１９８６

松本市『松本市誌　第二巻歴史編Ⅰ原始・古代・中世』

百瀬新治「中世掘立柱建物址の検討」『信濃　第４１巻第４号』１９８９

山本直人「絵巻物による建物の一考察」『名古屋大学文学部研究論集１１９』１９９４

付論１　条痕文系土器について

浦田Ａ及びＢ遺跡・上田原遺跡において縄文時代晩期から弥生時代前期にかけての条痕文系土器が出土している。現在までのところ、上小地方ではこれほど当該期の資料がまとまって出土している事例は見当たらない。これらの遺跡は、産川を中心にして右岸と左岸という対岸の位置関係になる。この様に、ほぼ同一地域で出土した土器群である。今回は若干の考察を行い、まとめておきたい。

これらの土器群は、ほとんどが破片資料であるために、まずは土器を分類することからはじめてみたい。分類の方法は、百瀬長秀氏が行った『Ⅴ章１節７晩期末～弥生時代中期初頭土器の分類と検討』「梨久保遺跡」（１９８６）に準じて行いたい。ただし、遺跡の事情が梨久保遺跡とは異なり、この分類基準をそのまま使用することはできない。当該遺跡に対応できるように若干の変更を行った。その為、本論における分類の基準を明らかにしておきたい。まず、土器の胎土についてはＡ「在地的胎土」（黒褐色或いは暗褐色系）・Ｂ「非在地的胎土」（胎土に石英等を含む）に分ける。「非在地的胎土」の中でもＣ「東海系胎土」（明黄灰色で石英等を含み硬い焼成）は区別しておく。次に、土器の分類であるが、「群」（各時期の系統）・「類」（群の中で予想される時間差）により分類しておきたい。「群」は、第Ⅰ群（浮線文土器及びその系譜を引く土器）・第Ⅱ群（条痕文土器及びその系譜を引く土器）・第Ⅲ群（ヘラ描沈線文を持ち、第Ⅰ・Ⅱ群の系譜を越えた独自性を獲得している土器・百瀬氏は庄ノ畑又は阿島式土器の一部の可能性を示唆）・第Ⅳ群（その他の系統とみられる土器・百瀬氏は遠賀川系の土器又はその模倣品に比定している）・第Ⅴ群（大洞系とみられる土器）に分ける。さらに、第Ⅰ群と第Ⅱ群の中を「類」により区分する。第Ⅰ群には第１類（女鳥羽川段階で浅鉢・深鉢・甕などがある。隆線をもつもの、レンズ状付帯文が描かれる）・第２類（氷Ⅰ式段階で浅鉢・深鉢・甕などがある。深鉢・甕には細密条痕が描かれる）・第３類（非在地的胎土の土器）・第４類（浮線文土器のうち第１・２類の規格から逸脱したもの）・第５類（体部破片のうち、縦位羽状条痕と整わない条痕をもつもの）・第６類（体部破片のうち、横位羽状条痕と整った条痕をもつもの）がある。第Ⅱ群には第１類（水神平式段階で非在地的胎土。壺・細頸壺・甕がある）・第２類（岩滑式段階で東海系胎土。眺ね上げ文をもつ）・第３類（在地的胎土で条痕を施すもの。壺・細頸壺・甕などがある）がある。

この分類にしたがって、土器を観察した結果が表０１・０２である。器種は、深鉢・甕が多い。条痕文系土器についてみると、条痕は「貝殻状条痕」や「櫛描条痕」もみられるが、「ヘラ描条痕」が多用される傾向がある。また、口縁部の突帯を高くして強調するものや突帯に押圧が施されるものが多い。深鉢・甕の口唇部には半割竹管による刺突が多用される。百瀬長秀氏によると、Ⅰ期（第Ⅰ群第２・３類）は樫王式併行・Ⅱ期（第Ⅰ群第４・５類、第Ⅱ群第１類）は水神平式併行・Ⅲ期（第Ⅰ群第４・５、第Ⅱ群第２・３類）は岩滑式併行・Ⅳ期（第Ⅰ群第４・６、第Ⅱ群第３類、第Ⅲ群）は瓜郷式併行としている。これにしたがって、当該遺跡群の土器をみるとⅡ期の土器群が多く、縄文時代末から弥生時代前期にかけての水神平式併行期を中心としていると考えられる。

次に、土器の特徴を個別にみてみたい。１の深鉢は、竹管による沈線で何らかの文様を施しているが、破片資料である為、詳細は不明である。２の深鉢は、口縁部が波状になる。口唇部には半割竹管による刺突を施し、外面には条痕を施す。内面にも模様をもつ。１６の深鉢は、低突帯に押圧文を施している。胴部にも櫛状工具で縦に波状文を施している。２１の壺は、口縁部外面に一条の沈線を施す。３３の甕には、面取りした口唇部に縄文を模した３単位１組の櫛状工具により刺突を施している。３６の細頸壺は口縁部に４条の半割竹管による刺突をもつ。４２の口唇部には工字文風の沈線が施されている。体部にはヘラ状

工具による羽状条痕が施されている。４５は、口唇部にヘラ状工具によって刻みを入れ、その下に竹管による条痕文を施している。４６は、氷式系の深鉢である。口縁部をわずか肥厚させ、口唇部には抉り入りの山形突起をもつ。ハケ状工具により口縁部及び胴部に条痕を模した模様を施している。５８の深鉢はヘラ状工具によって整わない条痕を施している。口縁部には山形突起をもつと思われる。６０の深鉢は、口縁部に文様帯をもつ。大洞C$_2$の終末に属するものであろうか。６９は、ヘラ状工具によって体部に条痕文と波状文を施している。７１は、天引狐崎遺跡（群馬県甘楽町）に類例があり、同報告書では遠賀川式土器と水神平式土器の系統の特徴が混ざった土器としている。７２は、水神平式の土器である。胎土も東海系と思われ、搬入品の可能性がある。７３の壺型土器にも、体部に工字文風の沈線文を施している。また、８９・９０には縄文が施文されているが、その器形と施文の状況から弥生時代中期前半に近いことが予想される。９８の深鉢も縄文が施文されているが、口唇部に円形の刺突が施されている。

さらに、当該遺跡の土器の胎土を観察すると長石・石英を含まない「在地系の胎土」が多い。本論に載せた土器の７６％が「在地系の胎土」となる。また、「非在地系の胎土」であっても「東海系胎土」のものは２点しか確認できない。「非在地系の胎土」は小石等を混ぜて胎土を似せているものが多い。条痕文系の土器は、胎土及び器形から在地化が進んでいると考えられる。今後の資料の増加によっては地域性を考えることができるようになるかもしれない。

これらの土器を出土状況が確認できる遺構等からみると、①上田原遺跡ＳＫ６４では口縁部に山形突起をもつ氷式系の深鉢・変形工字文が施された甕・口縁部に半割竹管による刺突を施した壺などと条痕文系土器が伴っている。②同遺跡ＳＫ１３・６６では氷式系の深鉢と条痕文系の甕が供伴している。ＳＫ６６では雷文を体部にもつ土偶も伴っている。③供伴関係を確実に証明はできないが大洞系の土器も条痕文系の土器に伴う（ＳＫ８４）と考えられる。さらに、④浦田Ａ・Ｂ遺跡でも縄文系の土器と一緒に条痕文系土器が伴っていることが確認できる。このことは、従来から氷Ⅱ式期と言われてきた縄文時代晩期末以来の伝統的な土器群と東海系の条痕文系の土器が供伴する様相を呈していると思われる。

以上、浦田Ａ・Ｂ遺跡と上田原遺跡出土の条痕文系土器についてみてきた。引用・参考にさせていただいた論考についても、筆者自身が充分に消化をすることができず、十分に生かすことができなかった。また、取り違えている部分もあるかと思われる。大方の御教示をお願いしたい。

＜参考・引用文献＞

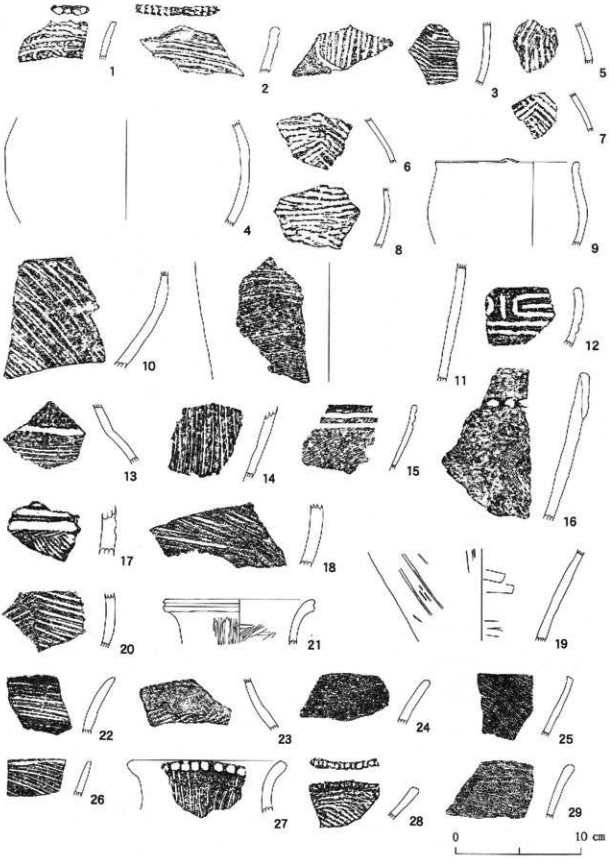
北武蔵古代文化研究会他　『東日本における黎明期の弥生土器』１９８３
（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　『天引狐崎遺跡Ⅱ』１９９６
笹沢浩　「十二后遺跡」『長野県中央道報告書諏訪市その４』１９７５
設楽博己　「中部地方における弥生土器の成立過程」『信濃第３４巻第４号』１９８２
谷口肇　「東国弥生初期東海系条痕壺の動向」『西相模考古第６号』１９９７
突帯文土器研究会　『突帯文土器から条痕文土器へ』１９９３
突帯文土器研究会事務局　『変換期の考古学』１９９５
岡谷市教育委員会　『梨久保遺跡』１９８６
東日本埋蔵文化財研究会　『東日本における稲作の受容』１９９１
弥生土器を語る会　『ＹＡＹ！』１９９６
御代田町誌刊行会　『御代田町誌歴史編上』１９９８
百瀬長秀　「浮線文系土器の変遷と分布」『歴史手帖１４－２』１９８６
和根崎剛　「中部高地における条痕文系土器の展開」『信濃第４８巻第４号』１９９６

No.	遺跡名	出土遺構	胎土	群	類	その他	No.	遺跡名	出土遺構	胎土	群	類	その他
1	上田原	SK08	A	Ⅲ			28	上田原	SK64	B	Ⅱ	1	
2	上田原	SK12	B	Ⅱ	1	波状口縁	29	上田原	SK66	A	Ⅰ	5	
3	上田原	SK12	A	Ⅱ	3		30	上田原	SK60	A	Ⅰ	5	
4	上田原	SK12	A				31	上田原	SK61	A	Ⅰ	2	
5	上田原	SK13	B	Ⅱ	1		32	上田原	SK64	A	Ⅱ	1	
6	上田原	SK13	B	Ⅱ	1		33	上田原	SK64	A	Ⅰ	4	
7	上田原	SK13	B	Ⅱ	1		34	上田原	SK64	A	Ⅰ	5	
8	上田原	SK13	B	Ⅱ	1		35	上田原	SK64	A	Ⅰ	5	
9	上田原	SK13	A	Ⅰ	2		36	上田原	SK64	A	Ⅰ	4	
10	上田原	SK13	A	Ⅰ	5		37	上田原	SK64	B	Ⅱ	1	
11	上田原	SK17	A	Ⅰ	5		38	上田原	SK64	A	Ⅰ	5	
12	上田原	SK19	A	Ⅴ			39	上田原	SK64	A	Ⅰ	4	
13	上田原	SK20	A	Ⅰ	5		40	上田原	SK64	A	Ⅰ	2	
14	上田原	SK20	A	Ⅰ	5		41	上田原	SK64	A	Ⅰ	5	
15	上田原	SK20	A	Ⅴ			42	上田原	SK66	A	Ⅱ	1	
16	上田原	SK19	A	Ⅰ	4		43	上田原	SK66	A			土偶
17	上田原	SK20	A	Ⅴ			44	上田原	SK67	A	Ⅰ	5	
18	上田原	SK30	A	Ⅰ	5		45	上田原	SK67	A	Ⅰ	4	
19	上田原	SK31	A	Ⅰ	5		46	上田原	SK66	A	Ⅰ	2	
20	上田原	SK37	B	Ⅱ	1		47	上田原	SK67	A	Ⅰ	5	
21	上田原	SK37	A	Ⅳ			48	上田原	SK80	A	Ⅴ		縄文施文
22	上田原	SK47	A	Ⅰ	4		49	上田原	SK83	B	Ⅱ	1	
23	上田原	SK47	A	Ⅴ		縄文施文	50	上田原	SK81	A			
24	上田原	SK47	A	Ⅰ	2	無文	51	上田原	SK84	A	Ⅱ	1	
25	上田原	SK51	A	Ⅰ	2	細密条痕	52	上田原	SK84	A	Ⅱ	1	
26	上田原	SK64	A	Ⅰ	5		53	上田原	SK84	A	Ⅱ	1	
27	上田原	SK64	A	Ⅲ			54	上田原	SK84	A	Ⅱ	1	

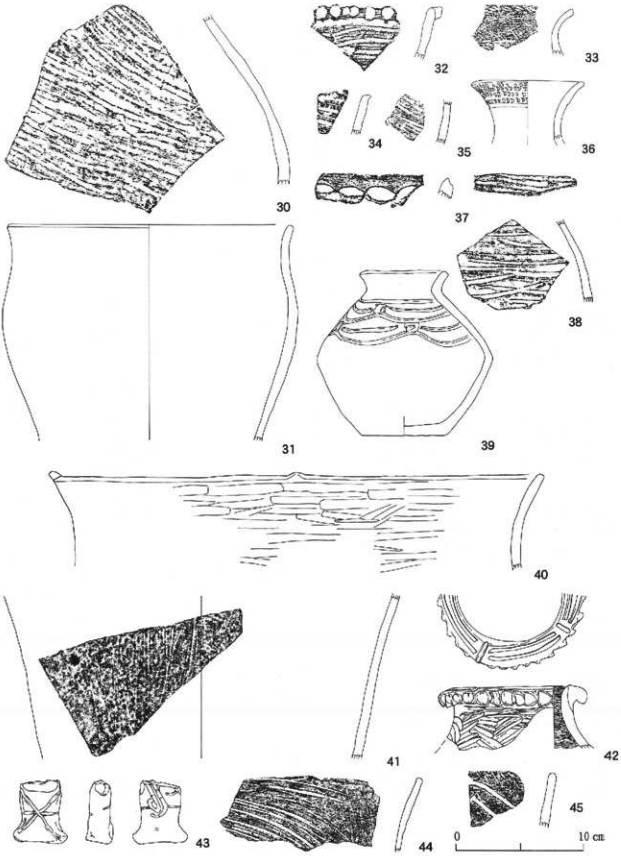
表1　土器対応表（1）

No.	遺跡名	出土遺構	胎土	群	類	その他	No.	遺跡名	出土遺構	胎土	群	類	その他
55	上田原	SK84	A	Ⅱ	1		81	上田原	SD24～26	B	Ⅱ	1	
56	上田原	SK84	C	Ⅱ	1		82	上田原	SD21	A			縄文施文
57	上田原	SK84	A	Ⅴ		縄文施文	83	上田原	SD30	B	Ⅱ	1	
58	上田原	SD19	A	Ⅰ	2		84	上田原	SD	A			赤色塗彩
59	上田原	SD19	A	Ⅰ	2	無文							縄文施文
60	上田原	SD19	A	Ⅴ			85	上田原	不明	A			縄文施文
61	上田原	SD19	A	Ⅰ	2	無文	86	上田原	SD24～26	A	Ⅰ	2	
62	上田原	SD19	A	Ⅰ	4	縄文施文	87	浦田A	Tr16	A			
63	上田原	SD19	A	Ⅰ	2		88	浦田A	Tr16	A	Ⅴ		
64	上田原	SD19	A	Ⅰ	1		89	浦田A	Tr15	A	Ⅲ		縄文施文
65	上田原	SD19	A	Ⅱ	3		90	浦田A	Tr16	A	Ⅲ		縄文施文
66	上田原	SD19	A	Ⅱ	3		91	浦田A	Tr16	B	Ⅱ	1	
67	上田原	SD19	A	Ⅱ	3		92	浦田A	覆土	A	Ⅱ	3	
68	上田原	SD19	A	Ⅰ	2		93	浦田A	覆土	B	Ⅱ	1	
69	上田原	SD19	A	Ⅰ	5		94	浦田A	覆土	B	Ⅱ	1	
70	上田原	SD20	A	Ⅰ	2	無文	95	浦田A	覆土	B	Ⅱ	1	
71	上田原	SD19	B	Ⅳ			96	浦田A	覆土	B	Ⅱ	1	
72	上田原	SD20	B	Ⅱ	1		97	浦田A	SK120	A	Ⅰ	2	
73	上田原	SD20	A	Ⅴ			98	浦田B	覆土	A	Ⅴ		縄文施文
74	上田原	SD21	B	Ⅱ	1		99	浦田B	覆土	B	Ⅱ	1	
75	上田原	SD21	B	Ⅱ	1		100	浦田B	覆土	B	Ⅱ	1	
76	上田原	SD21	A	Ⅱ	3								
77	上田原	SD21	A	Ⅰ									
78	上田原	SD21	A	Ⅰ									
79	上田原	SD22	A			縄文施文							
80	上田原	SD23	A			赤色塗彩							

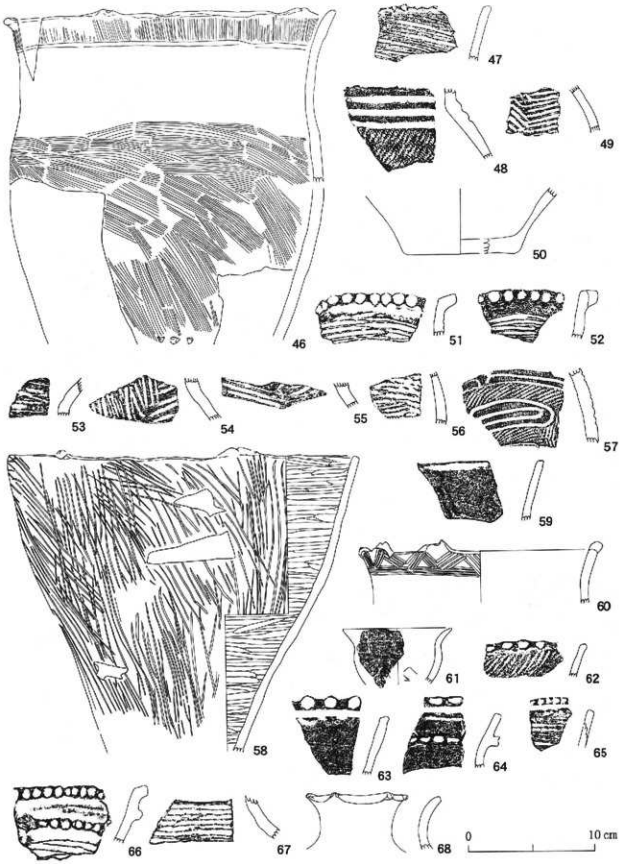
表2　土器対応表（2）



第 142 図　条痕文系土器 ①



第 143 図　条痕文系土器 ②



第 144 図　条痕文系土器 ③

第 145 図　条痕文系土器 ④

付論２　浦野川・産川合流地点の弥生集落について

浦野川は浦野平野の小河川を集めて、やがて千曲川に流れ込む河川である。この浦野川に室賀谷からは室賀川が流れ込んでいる。また、産川は塩田平の小河川を集めて築地地区で浦野川に合流している。この浦野川の用水は堰を使って流域の水田に分配していたことが条里遺構分布調査（『条里遺構分布調査概報―神川東部地区・浦野川地区―』上田市教育委員会１９７６）によって確認されている。

現在、この流域での発掘調査により確認できた遺跡は１０カ所ほどある。そのうち、弥生時代の遺構が確認された遺跡は上田原遺跡・浦田遺跡・宮脇遺跡・黒龍田遺跡・琵琶塚遺跡・大道下遺跡・岳の鼻遺跡・藤の木遺跡がある。黒龍田遺跡を除いて、いずれの遺跡も浦野川やその支流の河岸段丘上或いは自然堤防上に立地している。このことから、浦野川の用水を使った水田開発により集落が展開していたことがうかがえる。それぞれの遺跡は、近接した距離に形成されているが、中でも上田原遺跡と浦田遺跡は指呼の間とも言えるほど隣接している。この様な集落の間には、どの様な関係が考えられるのだろうか。

まず、各集落の存続期間とその規模についてみてみたい。「拠点集落」（地域の中心となる集落）と「周辺集落」（分村的な集落）という概念がそっくりそのまま当該地方に当てはまるかどうかは検討が必要である。しかし、仮に母村的な集落＝「拠点集落」と分村＝「周辺集落」と大まかに分けて考えてみたい。ただし、どの遺跡も集落全域を調査していないため推測の部分が多くなると思われる。

「拠点集落」と思われる規模・集落環境と存続期間の長さをもつものには上田原遺跡と岳の鼻遺跡がある。上田原遺跡では竪穴住居と墓域が確認されている。その集落規模は表採による遺物の分布範囲から現在の上田原の集落の外側まで広がることが考えられる。上田原遺跡の竪穴住居は箱清水式期の中頃のものが確認できる。周溝墓は、１～５号までが確認されている。１号周溝墓（円形）からは主体部出土土器（１～５）と一緒に骨片・ガラス小玉・鉄鏃（布にくるまれた状態で出土）が出土している。また、周溝の土坑（ＳＫ４９）からも骨片・ガラス小玉・鉄鏃が出土している。この他に１号周溝墓の周溝に属すると思われる場所からも土器（３７・４０・４５・４６・５１）が出土している。３８・４３・４８はこの西側の溝出土の土器と考えられる。２号周溝墓（円形）は主体部は削平されていたが、周溝から土器（６～１２）や安山岩製の環状石斧と思われる石器（９）が出土している。また、周溝の南の一角からは古墳時代中期の高坏・はそう・広口壺と須恵器の坏が出土しており、その部分には何らかの遺構か攪乱があったと思われる。３号周溝墓（方形）も主体部は削平されていたが、周溝から土器（１３～２５）が出土している。その中には北陸系の壺（１３）や鉢（１９）がある。５号周溝墓（方形？）は、南側の周溝が破壊されており全体的な平面形は不明である。主体部も削平されていた。周溝からは土器（２６～３６）が出土している。甕（２６）や壺（３２・３３・３４）がある。特に、壺には底部が焼成前に穿孔されているもの（３２）もある。これらの土器から、周溝墓は箱清水式期から古墳時代前期までの間に築造されている事が考えられる。この様に、上田原遺跡では①弥生時代箱清水式期の中頃から古墳時代前期まで周溝墓が築造されている。②同時期の集落が営まれている。③この遺跡の範囲は広大であることが確認できる。

また、岳の鼻遺跡は室賀川の河岸段丘上に位置している。この流域では上田原遺跡に次ぐ集落規模をもつと思われる。墓域は確認されていないが、付近に存在する可能性がある。同一時期に存在した住居数も多く、比較的長期（箱清水式期中頃～古墳時代前期）に亘って継続していた拠点的な集落と思われる。

次に「周辺集落」と思われる遺跡について検討したい。「周辺集落」と思われる遺跡には浦田遺跡・琵琶塚遺跡・大道下遺跡等がある。これらはその出土土器から箱清水式期から古墳時代前期まで営まれていたと思われる。ただし、その集落規模は上田原遺跡よりも小さく、河岸段丘に沿って営まれていた小規模

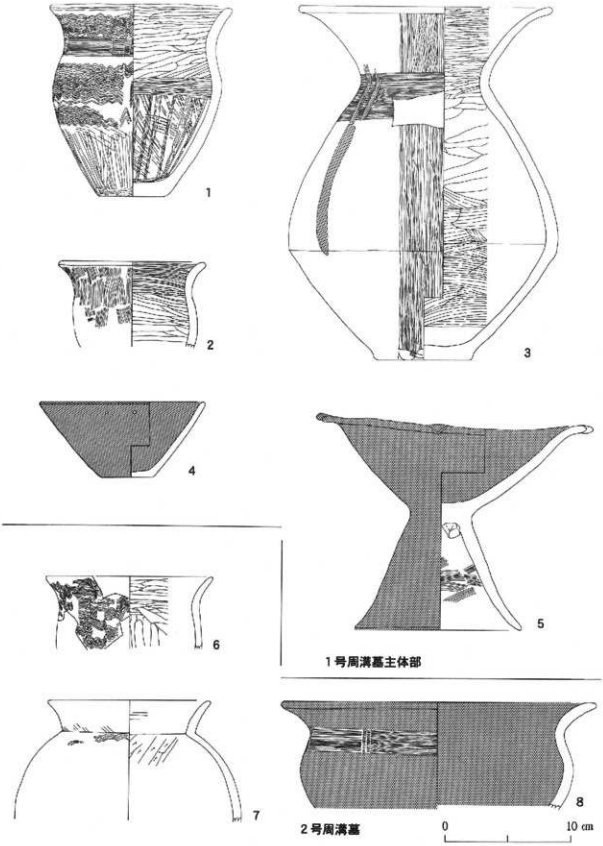
集落と考えられる。浦田遺跡には、A地点とB地点の集落がそれぞれ存在している。A地点（浦田A遺跡）は産川の河岸段丘上に位置している。B地点（浦田B遺跡）は浦野川の河岸段丘上に位置している。両者とも、北陸系の土器を中心に外来系の土器が多く出土している。（特に、浦田A遺跡は北陸系の人々の拠点的集落であった可能性がある。）弥生時代終末から古墳時代初頭を中心とした集落であると考えられる。また、上田原遺跡とは産川を挟んで３００m程の距離に位置している。琵琶塚遺跡は浦野川の河岸段丘上に位置している。北陸系や東海系の土器など外来系の土器が出土している。弥生時代箱清水式期後半から古墳時代初頭を中心とした集落であると考えられる。大道下遺跡も浦野川の河岸段丘上に位置している。出土土器から断続的に集落が営まれていたと思われる。

浦野川流域では箱清水式期後半から古墳時代前期まで存続する小規模集落が分布しており、これらの集落が視野に入る範囲に位置していることから、互いの集落が隔絶していたと考えるよりも交流があったと考える方が自然であると思われる。また、緊張関係を示唆するような環濠などの防御施設や武器類も確認できない。これら小規模集落の拠点となる集落は浦野川流域では岳の鼻遺跡である可能性がある。但し、上田原遺跡の可能性も否定できない。上田原遺跡は①浦野川流域の遺跡とは産川によって隔てられている。②遺跡の立地する段丘の下は産川の旧流路や氾濫原などの低湿地（水田耕作が可能な土地）である。③地理的には、段丘下の天神堂遺跡・千曲高校遺跡などの拠点集落と考えた方が自然である。しかし④浦田遺跡などの対岸の遺跡と交流がなかったとは言い切れない。つまり、⑤周溝墓の存在がある。この周溝墓群は、箱清水式期から古墳時代前期まで継続して築かれていること。主体部から鉄鋤などが出土していること。一基の周溝墓に単独の被葬者が埋葬されており、周溝墓の数は少数である（一基単数埋葬少数形式）ことから有力な世帯や地域の有力者の墳墓である可能性が高い。時代的な背景からも周溝墓が家族墓から変質している状況が考えられる。すると、上田原遺跡は拠点的な集落であった岳の鼻遺跡と浦田遺跡などの周辺の小集落を含めた大きなまとまりの中心となる集落と考えられないだろうか。

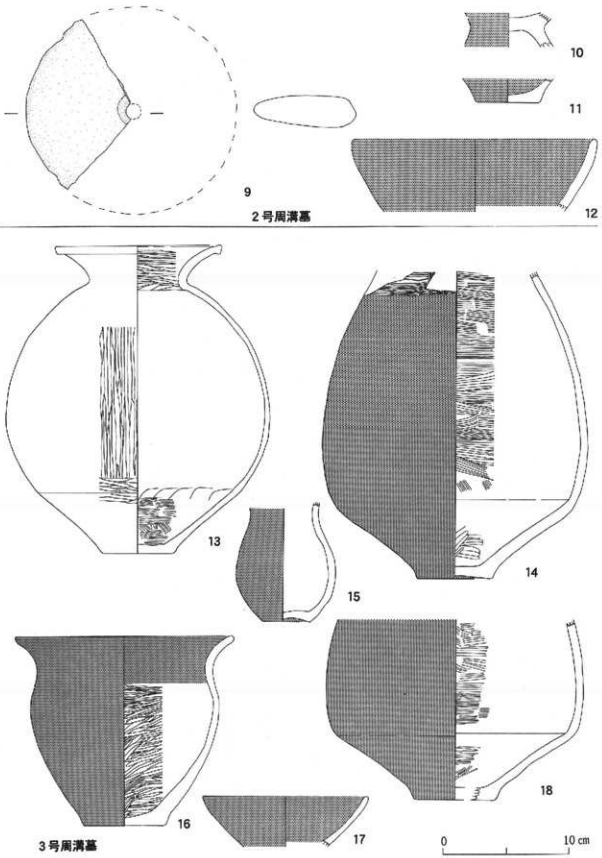
この様に、上田原遺跡と岳の鼻遺跡を中心として浦野川流域を中心に大きなまとまり（流域ネットワーク）を形成している可能性があることを述べてみた。しかし、根拠が不十分であり、あくまでも仮説の１つにすぎない。たたき台として今後とも検証を試みたい。

＜参考・引用文献＞

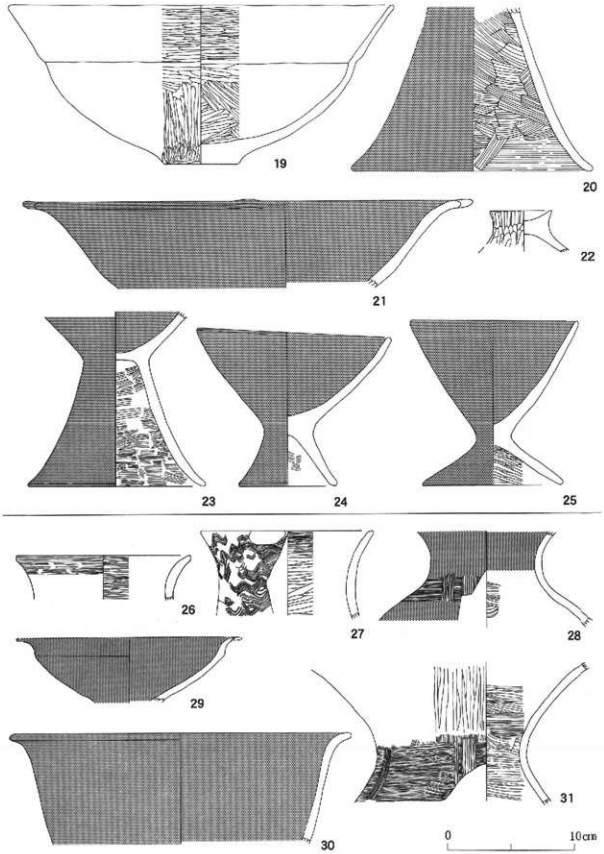
青木一男　「千曲川流域の周溝墓覚書」『長野県考古学会誌６３』１９９１
上田市教育委員会　『琵琶塚』１９８７
上田市教育委員会　『琵琶塚Ⅱ』１９８９
上田市教育委員会　『大道下』１９９１
上田市教育委員会　『岳の鼻遺跡』１９９４
上田市教育委員会　『上田原遺跡』１９９６
上田市教育委員会　『藤之木遺跡』１９９６
上田市教育委員会　『浦田Ａ・宮脇遺跡』１９９８
酒井龍一　「拠点集落と弥生社会」『日本村落史講座２景観』１９８９
田中義昭　「弥生時代集落研究の課題」『考古学研究第３１巻第３号』１９８４
都出比呂志　『日本農耕社会の成立過程』１９９１
山岸良二　『原始・古代日本の墓制』１９９１
山岸良二編　『関東の方形周溝墓』１９９６



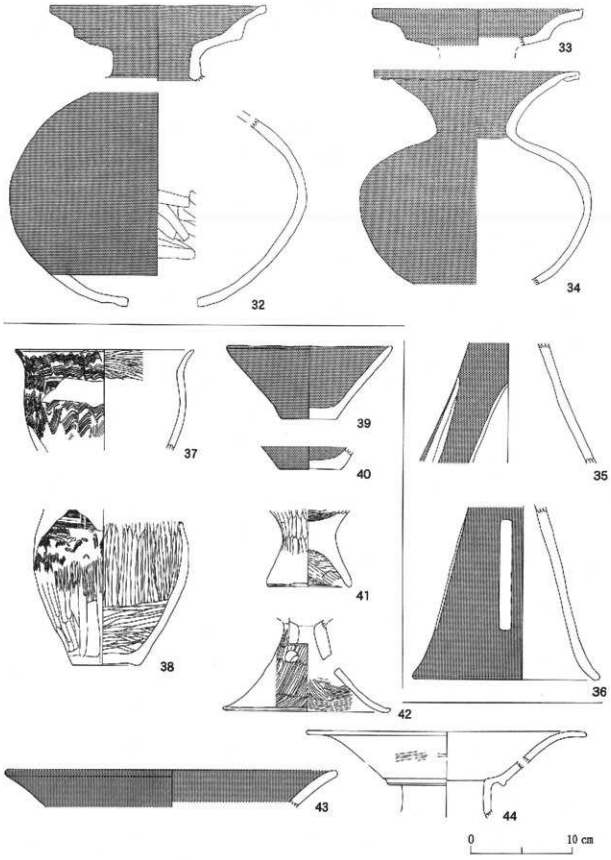
第 146 図　上田原遺跡出土土器 ①



第 147 図　上田原遺跡出土土器 ②



第 148 図　上田原遺跡出土土器 ③



第 149 図　上田原遺跡出土土器 ④